NEC

LUI SX

準備と設定

◎「あなたのパソコン」として使うために◎

まずはこの本で、型番、添付品を確認してください。

続けて必要な添付品をとりつけ、Windowsのセットアップをおこない、インターネットにつなぐところまで、手順にそって、準備してみましょう。

もう一台パソコンを買ったときの内容の移しかえや、パソコン内部に機器を取り付ける方法も、この本がご案内します。

新しいパソコンがやってきました！

箱を開いて、

嬉しいような、そわそわするような、

そんな、新しい道具を手にするときの気持ちを

たいせつにしながら、

間違いなく確実に、

パソコンの準備と設定を進めていけるよう、

この本は作られています。

853-810938-001-A

『準備と設定』の読み方

第1章〜第3章まで

「箱を開けて最初にすること」「電源を入れる前に接続しよう」「セットアップを始める」

パソコンの置き場所を確認したり、箱の中のケーブルや部品を接続する手順、はじめて電源を入れたときの設定（Windowsのセットアップ）手順を説明しています。

第4章

「基本中の基本の操作」

パソコンの始め方／終わり方、音量調節、CD-ROMやDVDなどのディスクの扱い方など、基本的な操作について説明しています。

第5章

「インターネットに接続する」

インターネットに接続する方法について説明しています。

第6章

「前に使っていたパソコンと一緒に使いたいかたへ」

複数のパソコンをネットワーク接続して利用したいかたは、この章をご覧ください。

第7章

「このパソコンのおすすめ機能」

このパソコン特有の機能を設定するには、この章をご覧ください。

付　録

パソコンのお手入れの方法、仕様一覧など、さまざまな情報を記載しています。

853-810938-001-A
2008年4月　初版

このマニュアルの表記について

◆このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります

ポイント	そのページで説明している手順で、特に大切なことです。
	してはいけないことや、注意していただきたいことです。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているソフトの破壊、パソコンの破損などの可能性があります。

◆このマニュアルの表記では、次のようなルールを使っています

【　】	【　】で囲んである文字は、キーボードのキー、またはリモコンのボタンを指します。
DVD/CDドライブ	ブルーレイディスクドライブ（DVDスーパーマルチドライブ機能付き）またはDVDスーパーマルチドライブを指します。
「サポートナビゲーター」	電子マニュアル「サポートナビゲーター」を起動して、各項目を参照することを示します。「サポートナビゲーター」は、デスクトップの（サポートナビゲーター(電子マニュアル)）をダブルクリックして起動します。

◆このマニュアルでは、各モデル（機種）を次のような呼び方で区別しています

次ページの表をご覧になり、ご購入された製品の型名とマニュアルで表記されるモデル名を確認してください。

このパソコン、本機	表の各モデル（機種）を指します。
ブルーレイディスクドライブモデル	ブルーレイディスクドライブ（DVDスーパーマルチドライブ機能付き）を搭載しているモデルのことです。
DVDスーパーマルチドライブモデル	DVDスーパーマルチドライブ（DVD-R/RW with DVD+R/RWドライブ（DVD-R/+R 2層書込み））を搭載しているモデルのことです。
Windows Vista Home Premiumモデル	Windows Vista® Home Premiumがあらかじめインストールされているモデルのことです。

シリーズ名	型名 (型番)	表記の区分	
		DVD/CDドライブ	OS
Lui SX	SX700/1G (LU-SX7001G)	ブルーレイディスクドライブモデル	Windows Vista Home Premiumモデル
	SX500/1G (LU-SX5001G)	DVDスーパーマルチドライブモデル	

◆本文中の記載について

- 本文中の画面やイラスト、ホームページは、モデルによって異なることがあります。また、実際の画面と異なることがあります。
- 記載している内容は、このマニュアルの制作時点のものです。お問い合わせ先の窓口、住所、電話番号、ホームページの内容やアドレスなどが変更されている場合があります。あらかじめご了承ください。

◆このマニュアルで使用しているソフトウェア名などの正式名称

(本文中の表記)	(正式名称)
Windows、Windows Vista	Microsoft® Windows Vista® Home Basic Service Pack 1 Microsoft® Windows Vista® Home Premium Service Pack 1 Microsoft® Windows Vista® Business Service Pack 1 Microsoft® Windows Vista® Ultimate Service Pack 1
Windows XP、Windows XP Home Edition	Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版 Service Pack 2
Windows XP、Windows XP Professional	Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版 Service Pack 2
Windows XP、Windows XP Media Center Edition	Microsoft® Windows® XP Media Center Edition 2005 operating system 日本語版
インターネットエクスプローラ、Internet Explorer	Windows® Internet Explorer®
Windows Media Center	Windows® Media Center
「スタート」、「スタート」ボタン	Windows Vista® スタート ボタン
セーフコネクト/サーバ	セーフコネクト™ /サーバ
ウイルスバスター	ウイルスバスター ™ 2008
WinDVD for NEC	InterVideo® WinDVD® for NEC
WinDVD BD for NEC	InterVideo WinDVD BD® for NEC

ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
(2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、NEC 121コンタクトセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。
(4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
(5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
(6) 海外 NEC では、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
(7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされている Windows Vista® Home Basic、Windows Vista® Home Premium、Windows Vista® Business または Windows Vista® Ultimate および本機に添付の CD-ROM、DVD-ROM は、本機のみでご使用ください。
(8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。

Microsoft、Windows、Windows Vista、Internet Explorer、Office ロゴ、Excel、Outlook、PowerPoint は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
インテル、Intel、Pentium、Celeron はアメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
ATI、ATI logo、Mobility、Radeon は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。
TRENDMICRO 及びウイルスバスターは、トレンドマイクロ株式会社の登録商標です。
Corel、InterVideo、InterVideo ロゴ、InterVideo WinDVD BD、Ulead、Ulead DVD MovieWriter は Corel Corporation およびその関連会社の商標または登録商標です。
PC リモーター、リモートスクリーンは NEC パーソナルプロダクツ株式会社の商標です。
セーフコネクトは NEC パーソナルプロダクツ株式会社の商標です。
SD および miniSD ロゴ、および SDHC ロゴは商標です。
“MagicGate Memory Stick”(“マジックゲートメモリースティック”)および“Memory Stick”(“メモリースティック”)、MEMORY STICK、、、MEMORY STICK PRO、MEMORY STICK DUO、“MagicGate”(“マジックゲート”)、MAGICGATE、OpenMGはソニー株式会社の商標です。
、「xD- ピクチャーカード ™」は富士写真フイルム(株)の商標です。
121 ポップリンクは、日本電気株式会社の登録商標です。
BIGLOBE はＮＥＣビッグローブ株式会社の登録商標です。
Roxio BackOnTrack は米国 Sonic Solutions 社の登録商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

目次

■輸出に関する注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。
本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
従いまして、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。

本製品の輸出（個人による携行を含む）については、外国為替及び外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。
必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。
輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

■Notes on export

This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards. NEC*1 will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan. NEC*1 does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law. Export without necessary permit is punishable under the said law. Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

*1: NEC Corporation, NEC Personal Products, Ltd.

第 1 章

箱を開けて最初にすること

この章には、パソコンの箱を開けて最初にすることが書いてあります。添付品が全部そろっているか、型番や製造番号が合っているか確認しましょう。また、パソコンの置き場所を決めましょう。

この章の所要時間：10～15分程度

型番と製造番号を確認する

ポイント

- 保証書と本体のラベルが一致していることを確認する

1 パソコン本体の保証書を見る

パーソナルコンピュータ

型名（型番）　LU-XXXXXXXXX
製造番号　　XXXXXXX
保証期間　　お買い上げ日からX年間
★お買い上げ日　XXXX年　XX月　XX日

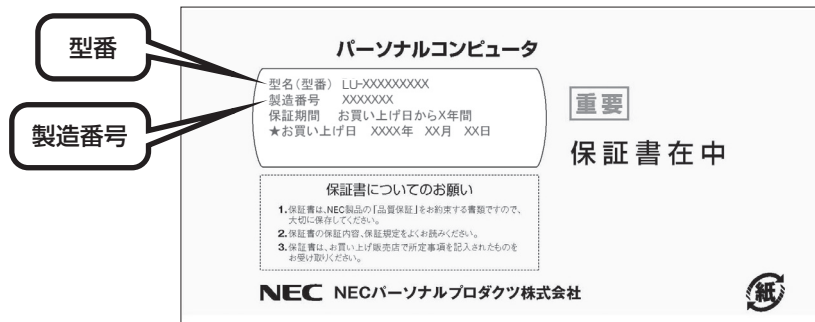
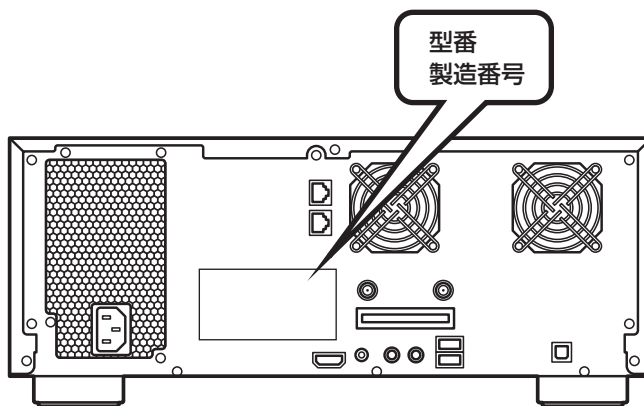
重要

保 証 書 在 中

保証書についてのお願い

1. 保証書は、NEC製品の「品質保証」をお約束する書類ですので、大切に保存してください。
2. 保証書の保証内容、保証規定をよくお読みください。
3. 保証書は、お買い上げ販売店で所定事項を記入されたものをお受け取りください。

NEC　NECパーソナルプロダクツ株式会社

紙

2 パソコン本体のラベルと一致しているか確認する

本体背面

- 記載された番号が保証書と異なっている場合、NEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。
- 保証書は、所定事項（販売店名、お買い上げ日など）が記入されていることを確認して、保管しておいてください。保証期間中に万一故障した場合は、保証書記載内容に基づいて修理いたします。保証期間終了後の修理についてはNEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。

添付品はそろっていますか？

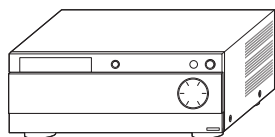
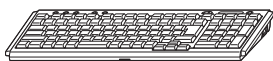
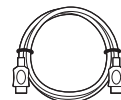
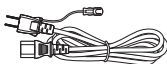
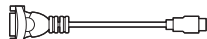
●チェックリストで確認

1 添付品を確認しよう

パソコンの箱を開けたら、まずは次のチェックリストを見ながら、添付品がそろっているかを確認してください。万一、足りないものがあったり、添付品の一部が破損していたときは、すぐに下記までお問い合わせください。

困ったときには…
NEC 121（ワントゥワン）コンタクトセンター
フリーコール 0120-977-121

※電話番号をよくお確かめになり、おかけください。
※携帯電話やPHS、もしくはIP電話など、上記電話番号をご利用いただけないお客様は次の電話番号へおかけください。
03-6670-6000（通話料お客様負担）

全モデル共通

□ パソコン本体　□ キーボード　□ リモコン　□ HDMIケーブル

□ アース付き電源コード　□ HDMI-DVI変換ケーブル（メス）　□ マウス　□ キーボード、マウス用乾電池（単3形×4本）　□ リモコン用乾電池（単4形×2本）

マニュアルなど

□ B-CASカード
□ 加入者契約書
□ ソフトウェアのご使用条件（お客様へのお願い）／ソフトウェア使用条件適用一覧
※1枚になっています。
箱の中身を確認後必ずお読みください
□ 安全にお使いいただくために
※箱の中身を確認後必ずお読みください
□ デジタル放送録画番組配信機能をお使いのお客様へ
□ PC修理チェックシート
□ 準備と設定（このマニュアル）
□ 録画・映像・音楽を楽しむ本
□ パソコンのトラブルを解決する
□ NECサービス網一覧表

パソコンの置き場所を決める

ポイント

- キーボードやマウスを使うために十分余裕のある場所に
- 電話回線や電源などの場所にも気を付ける

1 パソコンの設置環境

◆屋内であること
屋外には設置しないでください。

◆しっかりした台の上
パソコンの重さを安定して支えられるテーブル、机を選んでください。

◆温度は10 ～ 35℃、湿度は20 ～ 80%
室内の温度と湿度が高く、機械やガラスなどの温度が低いと、水滴が付いてしまうことがあります（結露）。パソコンが結露したときは、電源を入れずに1時間以上置き、水滴が蒸発してから使ってください。

◆ホコリの少ない場所
ホコリの多い場所に置くと、パソコンの内部にホコリがたまって故障の原因になることがあります。ホコリの少ない場所を選んでください。

2 パソコン周囲の広さ

本体側面、および背面に15cm以上

本体の側面、および背面は、通風孔をふさがないように15cm以上の空間を確保してください。また、熱のこもる場所には設置しないでください。

パソコンを使っているときは、本体の上に紙や布を置いて、本体側面、および背面の通風孔をふさがないようにしてください。内部の温度が上昇し、動作不良や故障の原因になります。

3 こんな場所にはパソコンを置かないで！

- 人がぶつかりやすい
- ケーブル類が引っかかる
- 水などの液体がかかる
- ドアがぶつかる
- 直射日光が当たる
- ホコリが多い

・このパソコンの右側面と背面の通風孔をふさぐ構造のラックには設置しないでください。また、フタが付いたラックなど放熱が十分にできないラックへの設置は避けてください。熱がこもり、装置寿命が短くなったり、故障の原因になったりします。

・小さなお子様がいる場合は、ケーブルの付いた機器をお子様が落としてしまうことがあるので、十分気を付けてください。

4 コンセントや電話回線などの近くに置く

◆コンセントについて

・ラジオやテレビに雑音が入ることがあるため、これらの機器とは別のコンセントに接続してください。

・添付の電源コードを直接コンセントに接続してください。

・コンセントが足りなくてパソコン用のテーブルタップを使うときは、テーブルタップの合計電力を守ってください。

◆電話回線について

インターネットを利用する場合、電話回線につながっている機器（モデムやルータなど）とパソコンを、ケーブルでつなぐ必要があります。それらの機器にケーブルが届く範囲にパソコンを設置してください。

◆アンテナケーブルについて

アンテナケーブルの位置や長さに注意が必要です。アンテナケーブルの接続については、「アンテナケーブルを接続する」(20ページ）をご覧ください。

5 パソコンの近くに置いてはいけないもの

◆ストーブなどの暖房器具

暖房器具の近くにパソコンを置くと、熱で変形したり、異常な動作をすることがあります。

◆ラジオ

ラジオの音声に雑音が入ることがあります。

6 パソコンの近くにあると影響を受けるもの

◆コードレス電話、携帯電話

通話中に雑音が入ることがあります。パソコン側も電波の影響を受けるため、スピーカに雑音が入ることがあります。

7 パソコンの上に置けるもの

パソコン本体の上に物を置く場合は、合計で15kg以上にならないようにしてください。

アンテナケーブルを用意する

テレビ番組の録画機能を使うためにアンテナケーブルを接続する必要があります。地上デジタル放送とBS/110度CSデジタル放送の両方接続する場合は、アンテナケーブルを2本用意する必要があります。お手元にない場合は、そのまま作業を進めてかまいません。パソコンとしてのセットアップは問題なくおこなうことができます。

録画機能の設定は、アンテナケーブルを接続した後で、始めることができます。

第 2 章

電源を入れる前に接続しよう

パソコン本体の置き場所を決めたら接続です。B-CASカードのセットやアンテナケーブルの接続、キーボードとマウスを使う準備もします。じっくり説明を読んで慎重にやりましょう。次ページから順番に作業を進めてください。電源コードの接続は最後ですよ。

この章の所要時間：20～40分程度※

※本章の説明を読んでアンテナケーブルなどの接続方法をご理解いただいており、このパソコンの添付品以外の必要な品（アンテナケーブルや分波器など）がすべてそろっている状態での目安の時間です。

インターネットや周辺機器は後から接続

ここではまだ、インターネットには接続しません。また、プリンタなどの周辺機器があるときも、まだ接続しないでください。「第3章　セットアップを始める」で説明している作業が終わってから、インターネットや周辺機器の接続をおこないます。

テレビ放送の受信環境を確認する

まずはこのページで、地上デジタル放送が見られるかどうか確認してください。さらに詳しい環境の区別や、BS/110度CSデジタル放送については、次ページをご覧ください。

テレビをケーブルテレビで見ている場合

ケーブルテレビの再配信方式を確認してください。
再配信方式について詳しくは、ご利用のケーブルテレビ会社にお問い合わせください。

同一周波数パススルー方式の場合
周波数変換パススルー方式の場合

対応
本機で地上デジタル放送を見られます。
「テレビの受信環境について」(次ページ)に進んでください。

それ以外の方式の場合

対応
本機ではケーブルテレビで地上デジタル放送を見られません。
詳しくは、お近くの電器店などにご相談ください。

テレビをケーブルテレビ以外の方法で見ている場合

次のチェックで、お使いの環境を確認してください。

1 現在、テレビなどで地上デジタル放送を見ていますか？

見ている → 対応
本機で地上デジタル放送を見られます。
「テレビの受信環境について」(次ページ)に進んでください。

見ていない ↓

2 お住まいは集合住宅ですか？戸建て住宅ですか？

集合住宅 → 対応
集合住宅の管理会社、大家さんなどに、地上デジタル放送が受信できるかどうか確認してください。
「テレビの受信環境について」(次ページ)に進んでください。

戸建て住宅 ↓

3 お住まいに、UHFのアンテナは立っていますか？

立っている → 対応
多くの場合、地上デジタル放送を見られます。
ただし、アンテナの調節やUHFのアンテナを増設することが必要になる場合があります。
詳しくは、お近くの電器店などにご相談ください。
「テレビの受信環境について」(次ページ)に進んでください。

立っていない ↓

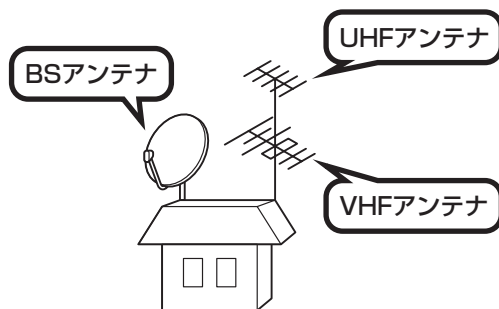
対応
地上デジタル放送に対応したUHFアンテナを立てる必要があります。
詳しくは、お近くの電器店などにご相談ください。

お住まいのテレビ受信アンテナの種類や、受信方法によって、接続方法が異なります。どの受信環境に該当するか確認してください。

テレビの受信環境について

テレビの受信環境は、大きく分けて次の4種類があります。

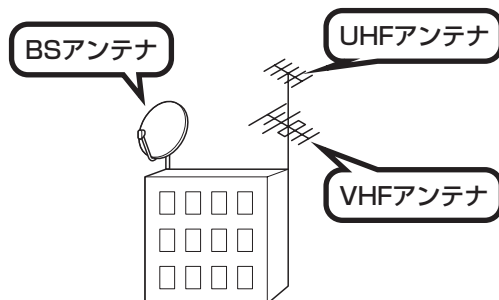
戸建てで、個別受信の場合

ご自宅にテレビ受信用のアンテナを立てている場合です。

次ページに進む

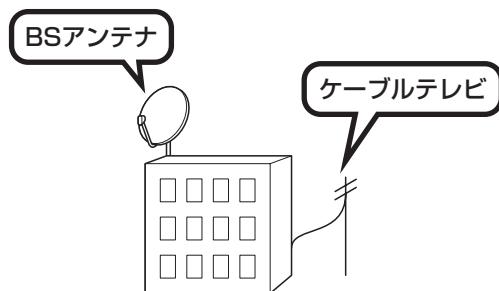
戸建てで、ケーブルテレビ受信の場合

ケーブルテレビと契約してテレビを見ている場合です。

集合住宅で、共聴受信の場合

集合住宅で、共同のアンテナが立っている場合です。

17ページに進む

集合住宅で、ケーブルテレビ受信の場合

集合住宅で、ケーブルテレビでテレビ受信をしている場合です。

17ページに進む

アンテナに関する注意

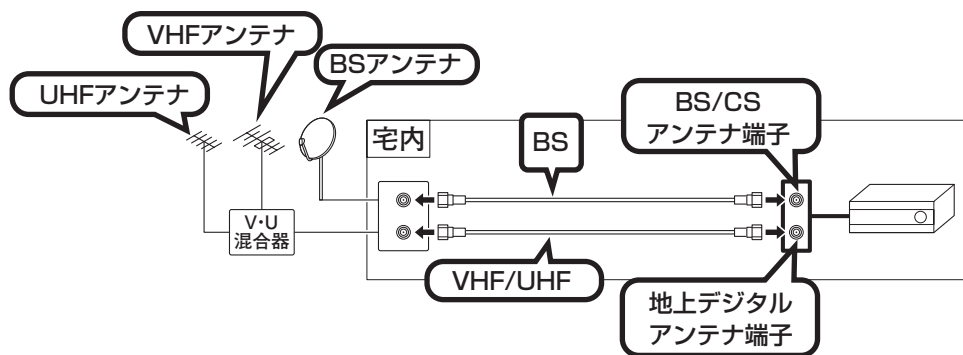
※1: ご使用のUHFアンテナが地上デジタル放送に対応していない場合や、アンテナが地上デジタル放送の電波送信塔の方向に向いていない場合は、地上デジタル放送を受信できません。また、お住まいの地域で地上デジタル放送が開始されていない場合は受信できません。

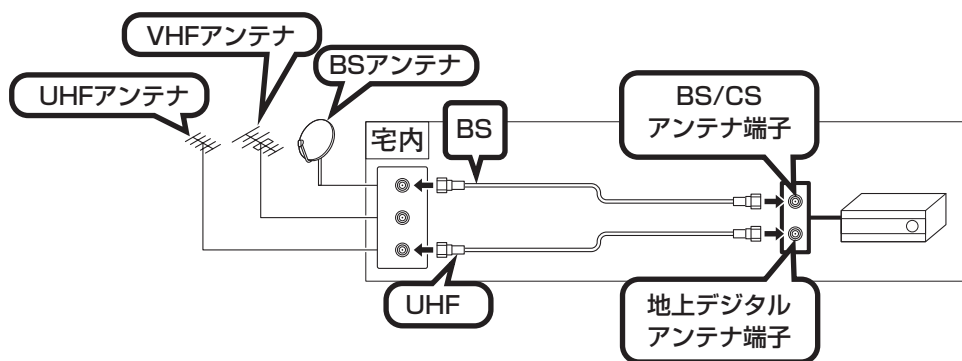
※2: ご使用のBSデジタル放送アンテナが110度CSデジタル放送に対応していない場合や、お客様宅内の配線状況によっては、110度CSデジタル放送を受信できません。

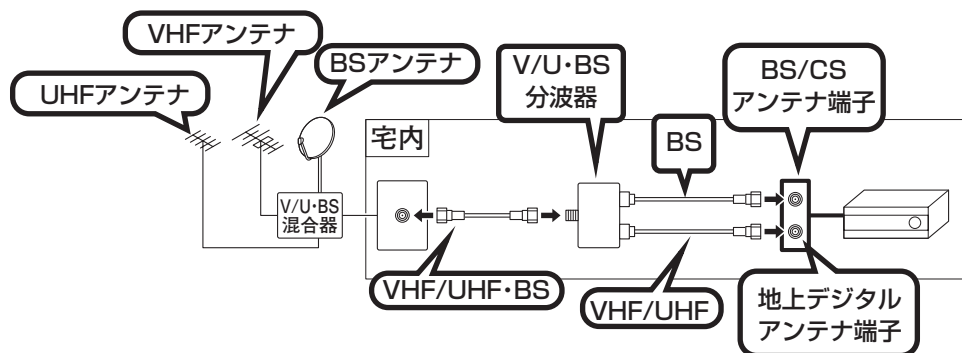
※3: お客様の環境によって、BSデジタル放送を受信するためには、アンテナに電源を供給する必要がある場合があります。

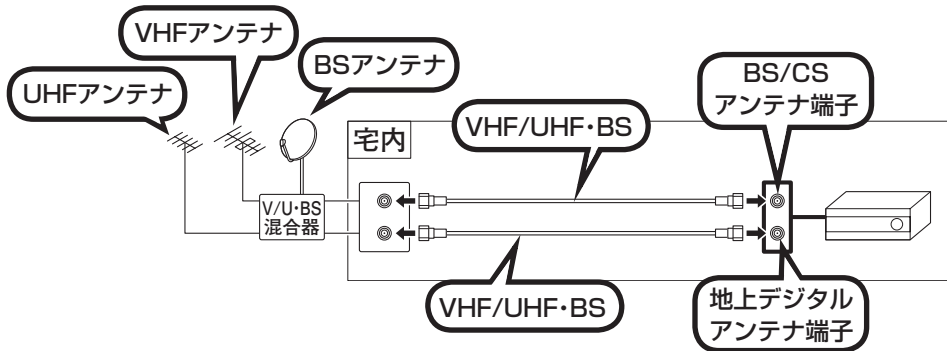
アンテナ線や受信環境について詳しくは、お近くの電器店にご相談ください。

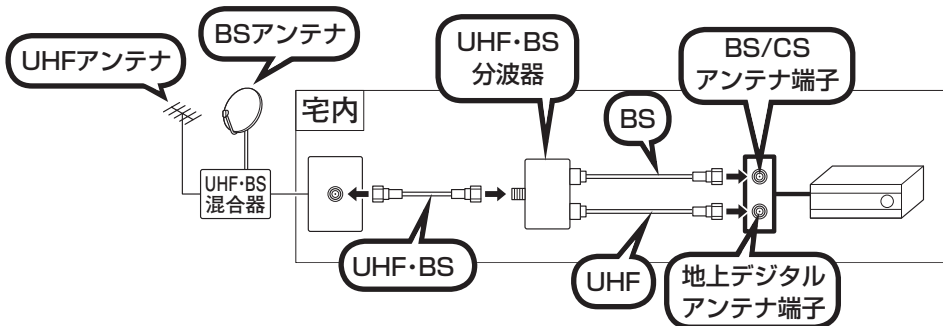
戸建てで、個別受信の場合の接続例を確認する

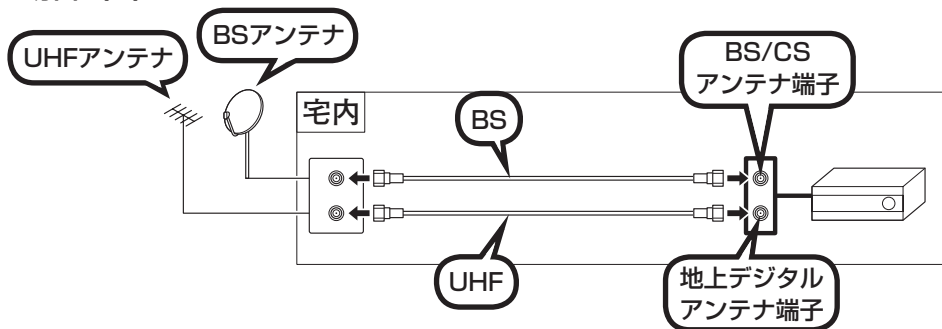
VHF・UHFアンテナで地上アナログ放送を受信し、BSアンテナでBS放送を受信している場合(1)

・ 地上デジタル放送:受信できます(上記の「アンテナに関する注意」をご覧ください)。
・ BSデジタル放送 :受信できます(上記の「アンテナに関する注意」をご覧ください)。

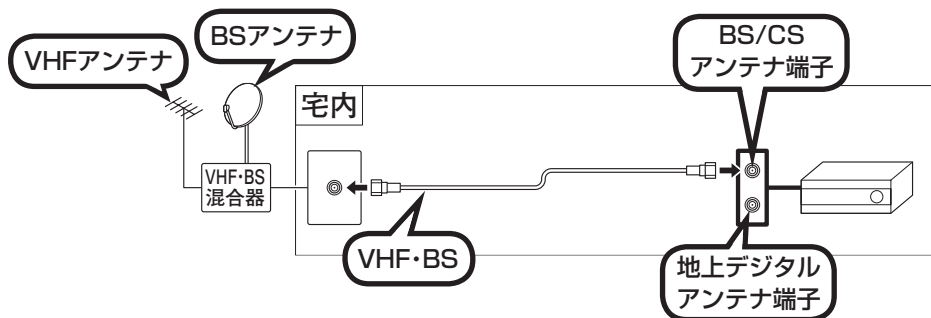
VHF・UHFアンテナで地上アナログ放送を受信し、BSアンテナでBS放送を受信している場合（2）
（VHF/UHFアンテナ端子が別々に用意されている場合）

・ 地上デジタル放送：受信できます(「アンテナに関する注意」(10ページ) をご覧ください)。
・ BSデジタル放送 ：受信できます(「アンテナに関する注意」(10ページ) をご覧ください)。

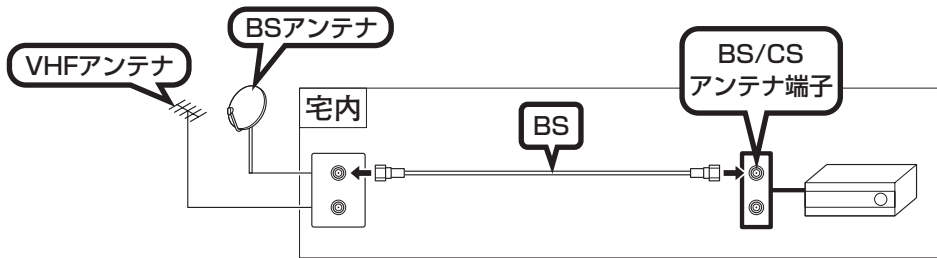
VHF・UHFアンテナで地上アナログ放送を受信し、BSアンテナでBS放送を受信している場合（3）
（VHF/UHFアンテナとBSアンテナの端子が分かれていない場合）

市販のVHF/UHFとBSの分波器が必要になります。
・ 地上デジタル放送：受信できます(「アンテナに関する注意」(10ページ) をご覧ください)。
・ BSデジタル放送 ：受信できます(「アンテナに関する注意」(10ページ) をご覧ください)。

VHF・UHFアンテナで地上アナログ放送を受信し、BSアンテナでBS放送を受信している場合（4）

・ 地上デジタル放送：受信できます(「アンテナに関する注意」(10ページ) をご覧ください)。
・ BSデジタル放送　：受信できます(「アンテナに関する注意」(10ページ) をご覧ください)。

UHFアンテナで地上アナログ放送を受信し、BSアンテナでBS放送を受信している場合（1）
（UHFアンテナとBSアンテナの端子が分かれていない場合）

市販のUHFとBSの分波器が必要になります。
・ 地上デジタル放送：受信できます(「アンテナに関する注意」(10ページ) をご覧ください)。
・ BSデジタル放送　：受信できます(「アンテナに関する注意」(10ページ) をご覧ください)。

UHFアンテナで地上アナログ放送を受信し、BSアンテナでBS放送を受信している場合（2）

・ 地上デジタル放送：受信できます(「アンテナに関する注意」（10ページ）をご覧ください)。
・ BSデジタル放送　：受信できます(「アンテナに関する注意」（10ページ）をご覧ください)。

VHFアンテナで地上アナログ放送を受信し、BSアンテナでBS放送を受信している場合（1）
（VHFアンテナとBSアンテナの端子が分かれていない場合）

・地上デジタル放送： 受信できません。受信するためには、地上デジタル放送に対応したUHFアンテナを設置する必要があります。
・BSデジタル放送　： 受信できます(「アンテナに関する注意」（10ページ）をご覧ください)。

VHFアンテナで地上アナログ放送を受信し、BSアンテナでBS放送を受信している場合（2）

・地上デジタル放送：受信できません。受信するためには、地上デジタル放送に対応したUHFアンテナを設置する必要があります。
・BSデジタル放送　：受信できます(「アンテナに関する注意」(10ページ）をご覧ください)。

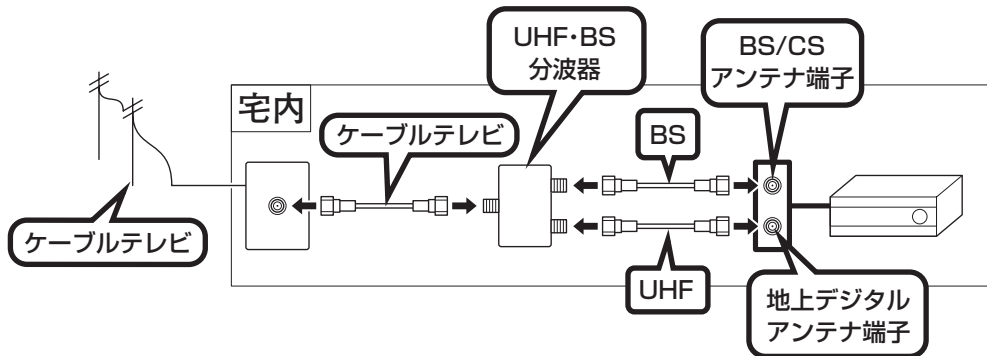
ケーブルテレビに関する注意

※1：　ご使用のBSデジタル放送アンテナが110度CSデジタル放送に対応していない場合や、お客様内の配線状況によっては、110度CSデジタル放送を受信できません。

※2：　お客様の環境によって、BSデジタル放送を受信するためには、アンテナに電源を供給する必要がある場合があります。

・ケーブルテレビで受信可能な放送については、ケーブルテレビ局にお問い合わせください。

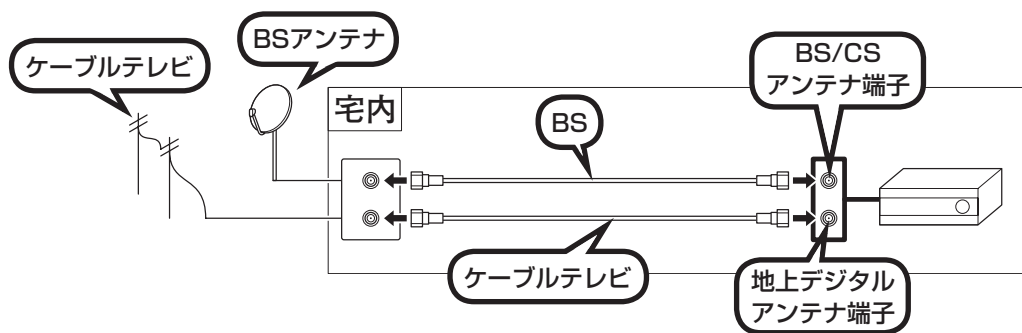
・アンテナ線や受信環境について詳しくは、ケーブルテレビ局、またはお近くの電器店にご相談ください。

戸建てで、ケーブルテレビ受信の場合の接続例を確認する

ケーブルテレビで地上アナログ、地上デジタル、BSデジタルを受信している場合

市販のUHFとBSの分波器が必要になります。

・ 地上デジタル放送：ケーブルテレビ局が周波数変換パススルー、同一周波数パススルー対応の場合、受信できます。

・ BSデジタル放送　：受信できます(上記の「ケーブルテレビに関する注意」をご覧ください)。

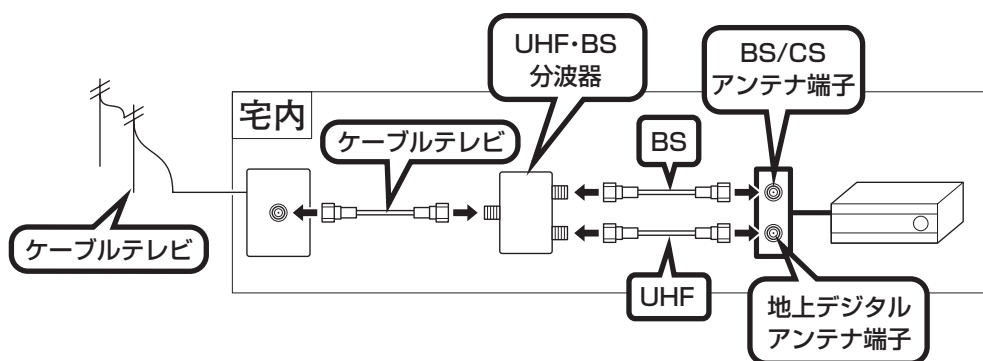
ケーブルテレビで地上アナログ、地上デジタル放送を受信し、BSデジタルはアンテナで受信している場合

- 地上デジタル放送：ケーブルテレビ局が周波数変換パススルー、同一周波数パススルー対応の場合、受信できます。
- BSデジタル放送　：受信できます（「ケーブルテレビに関する注意」（15ページ）をご覧ください）。

集合住宅で、共聴受信の場合

「戸建てで、個別受信の場合」（10ページ）と同様になります。ただし、お住まいの集合住宅の受信形態によって受信できない場合があります。詳しくは、集合住宅の管理者かお近くの電器店にご相談ください。

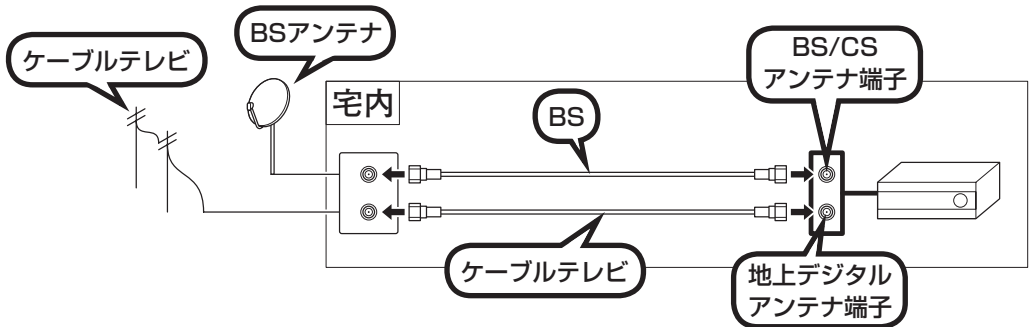
ご使用のBSデジタル放送アンテナが110度CSデジタル放送に対応していない場合や、お客様内の配線状況によっては、110度CSデジタル放送を受信できません。

- **ケーブルテレビで受信可能な放送については、ケーブルテレビ局にお問い合わせください。**
- **アンテナ線や受信環境について詳しくは、ケーブルテレビ局、集合住宅の管理者、またはお近くの電器店にご相談ください。**

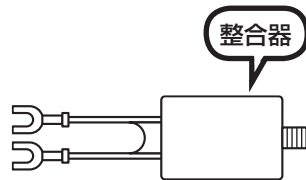
集合住宅で、ケーブルテレビ受信の場合の接続例を確認する

ケーブルテレビで地上アナログ、地上デジタル、BSデジタルを受信している場合

市販のUHFとBSの分波器が必要になります。

- 地上デジタル放送：ケーブルテレビ局が周波数変換パススルー、同一周波数パススルー対応の場合、受信できます。
- BSデジタル放送　：ケーブルテレビ局が同一周波数パススルー対応の場合、受信できます。

ケーブルテレビで地上アナログ、地上デジタル放送を受信し、BSデジタルはアンテナで受信している場合

・地上デジタル放送：ケーブルテレビ局が周波数変換パススルー、同一周波数パススルー対応の場合、受信できます。
・BSデジタル放送　：受信できます。

その他、必要に応じて用意する

アンテナ線が平行フィーダ線になっている場合は、市販の整合器を接続し、同軸ケーブルに変換してください。

ご自宅のテレビ放送の受信環境を確認できたら、
「録画機能を使うために準備するもの」(次ページ）に進んでください。

録画機能を使うために準備するもの

本機に添付されていないものについては、市販品を用意してください。

ポイント

● **録画機能を使うための接続と設定に必要なものを準備します**

本機に添付されているもの

接続と設定をするためには、次の添付品を使います。

□ 電源コード
□ キーボード
□ マウス
□ リモコン
□ キーボード、マウス用乾電池（単3形×4本）
□ HDMI-DVI変換ケーブル（メス）
□ リモコン用乾電池（単4形×2本）
□ HDMIケーブル
□ B-CASカード（ビーキャスカード）

別に用意するもの

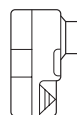
本機には添付されていません。別に、市販のものを用意してください。

必ず用意するもの

□ F型コネクタプラグ付きアンテナケーブル※

※ ご購入されたモデルやご家庭のアンテナ、ご使用になる混合器／分波器の種類によって、必要なアンテナケーブルの本数が異なります。詳しくは各機器のマニュアル、または電器店にお問い合わせください。

ご家庭のアンテナコネクタの形状をご確認の上、F型コネクタプラグ付きアンテナケーブルは、コネクタの片方、または両方の形状がネジタイプのものを用意してください。ネジタイプ以外のコネクタでは、ノイズの影響によって正常に放送を受信できない場合があります。片方のみネジタイプの場合は、パソコン本体側にネジタイプのコネクタを接続してください。

ネジタイプ

箱型

必要に応じて用意するもの

ご家庭のアンテナケーブルの種類によって、次のものが必要になる場合があります。

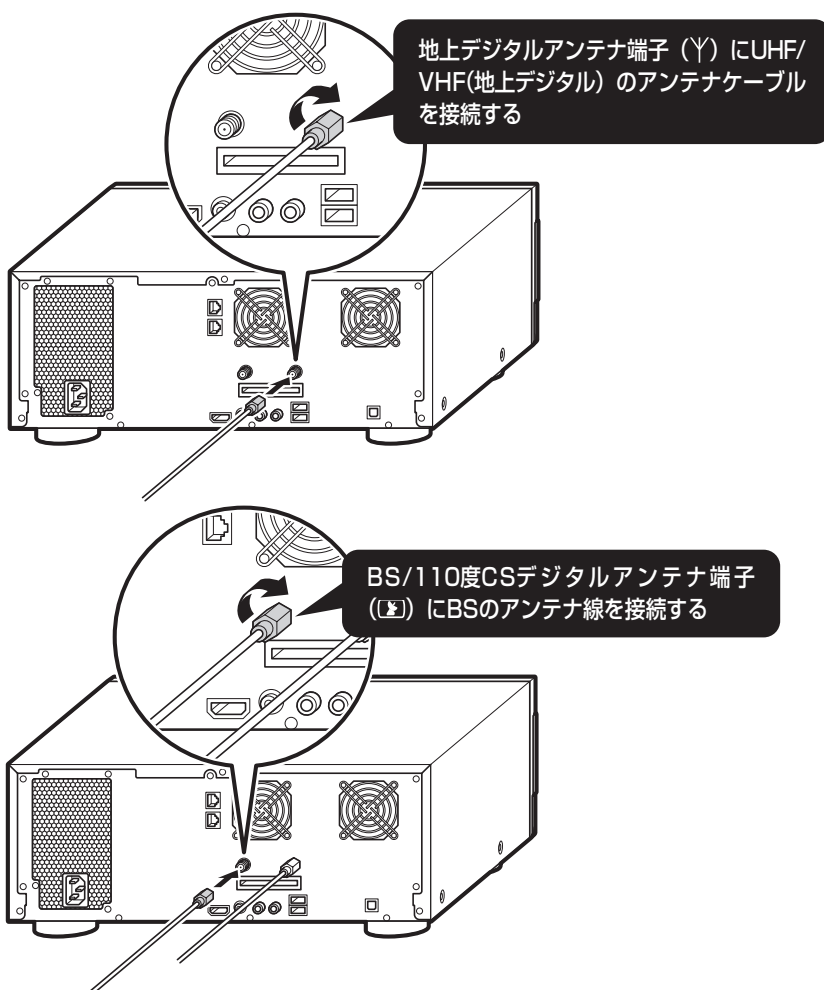
□ 分波器
□ 混合器
□ 平行フィーダ線と同軸ケーブルの整合器

アンテナケーブルを接続する

ポイント

● F型コネクタプラグのネジはしっかりしめる

アンテナケーブルの接続方法

あらかじめ「テレビの受信環境について」(9ページ) をご覧になり、お住まいの受信環境に合わせて、壁側のアンテナコネクタにアンテナケーブルと必要機器を接続しておいてください。また、このときにお使いのテレビでアンテナの受信レベルを確認してください。
本機背面にある地上デジタルアンテナ端子 (Y)、およびBS/110度CSデジタルアンテナ端子 (📡) にアンテナケーブルを接続します。
F型コネクタプラグのネジは、回らなくなるまでしっかりしめてください。

「B-CASカードをセットする」(次ページ) に進む

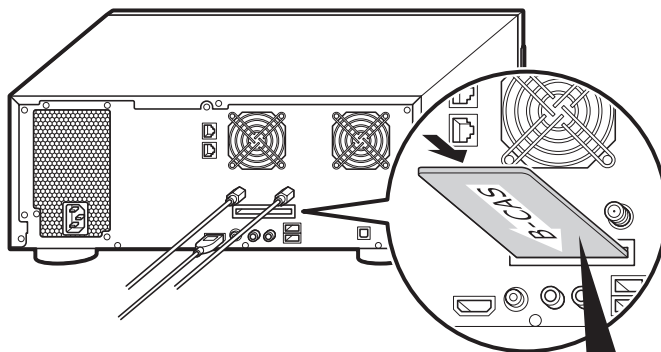
B-CASカードをセットする

デジタル放送を受信するためには、本機に添付されている「B-CASカード（ビーキャスカード）」をセットする必要があります。B-CASカードをセットしないと、デジタル放送を受信できません。B-CASカードについて詳しくは『録画・映像・音楽を楽しむ本』付録の「B-CASカードについて」をご覧ください。

ポイント

● B-CASカードは必ずセットする

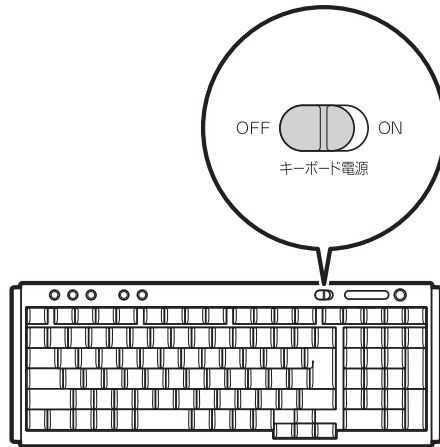
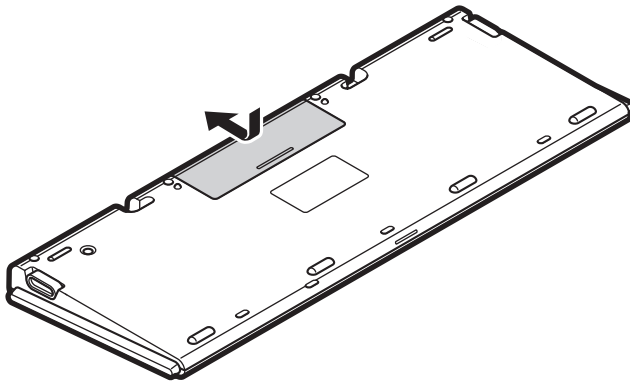
B-CASカードのセット方法

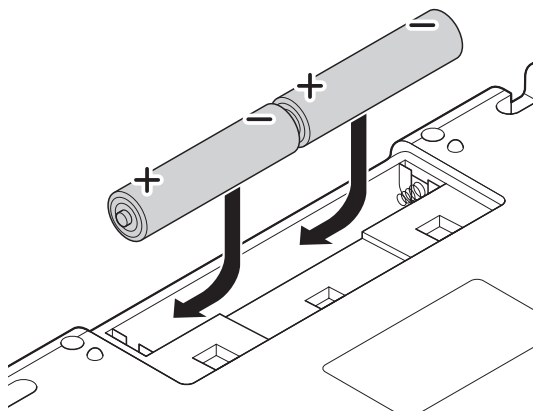
下の図の向きに、B-CASカードをセットします。

B-CASカードの向きに注意してセットしてください。「B-CAS」と書かれている面を下向きにして矢印の方向に挿入してください。

キーボードを使う準備をする

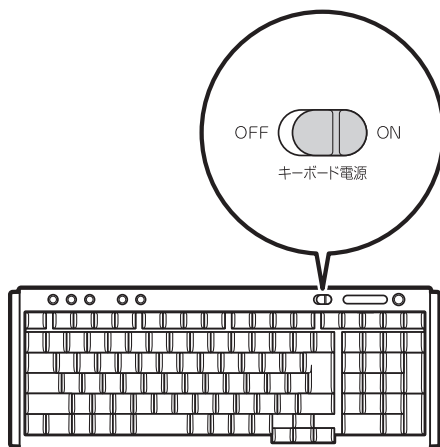
ポイント
- 乾電池を入れる
- ＋（プラス）と－（マイナス）の向きを間違えないように

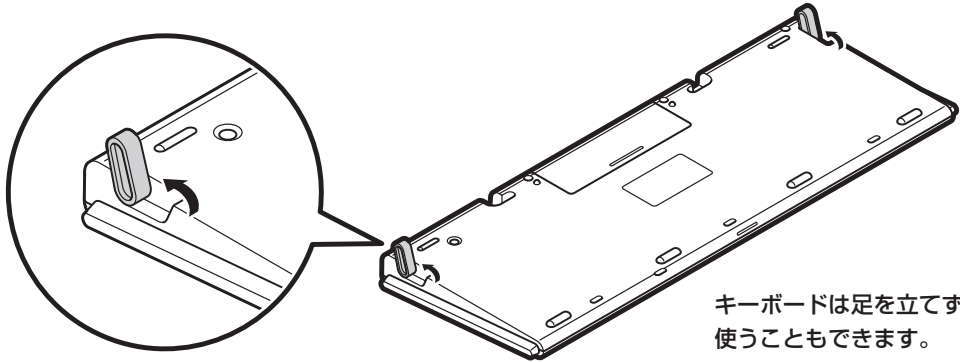
1 キーボード右上のキーボード電源スイッチを「OFF」にする

キーボード電源スイッチを左にスライドし、「OFF」になっているか確認してください。

2 キーボード裏面のカバーを外す

3 乾電池を入れる

単3形アルカリ乾電池2本を入れます。入れたら電池カバーをもとどおりにはめてください。

- 乾電池の＋（プラス）と−（マイナス）の向きを、電池ボックス内の表示どおりに入れてください。
- ご使用の環境や方法にもよりますが、キーボードの使用時間は連続使用で約1000時間です。
- 必ずアルカリ乾電池を使用してください。
- 充電式電池、マンガン乾電池、オキシライド乾電池は使用できません。

4 キーボード右上のキーボード電源スイッチを「ON」にする

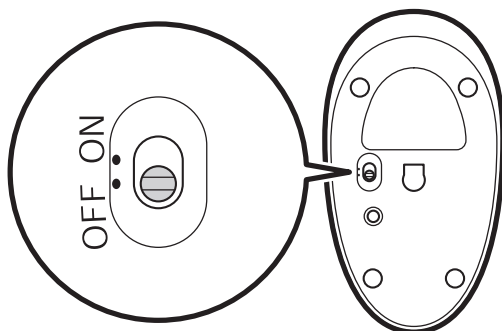
キーボード電源スイッチを右にスライドし、「ON」にしてください。

キーボードを長時間使わないときは、キーボード右上のキーボード電源スイッチを「OFF」にしておくと、乾電池が長持ちします。

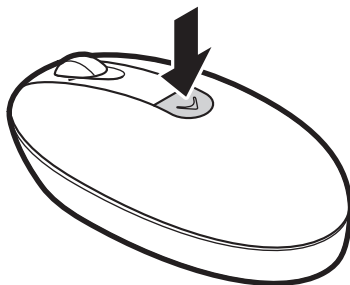
5 キーボードの足を立てる

キーボードがうまく動作しないときは、「付録」の「キーボードとマウスを登録しなおす」(132ページ)をご覧ください。

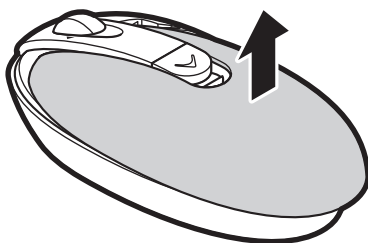
マウスを使う準備をする

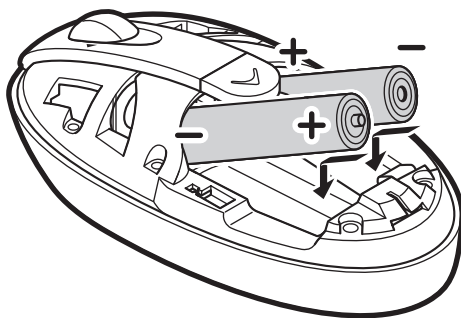
ポイント
- カバーを外して乾電池を入れる
- ＋（プラス）と－（マイナス）の向きを間違えないように

1 マウス底面のON/OFFスイッチを「OFF」にする

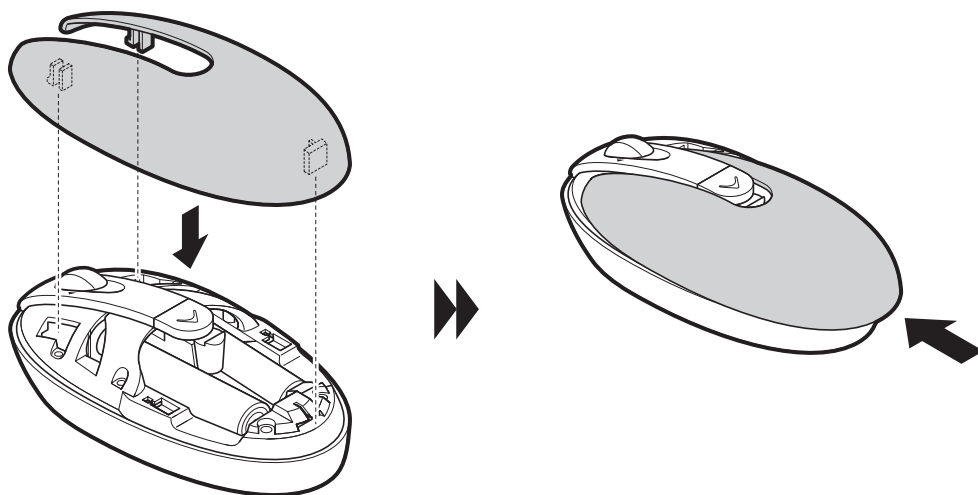
マウス底面のON/OFFスイッチを下にスライドし、「OFF」になっているか確認してください。

2 マウス上面のボタンを押す

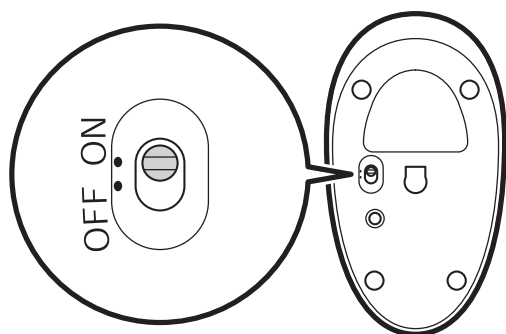
カバーのロックが外れます。

3 カバーを外す

カバーを上に持ち上げて外します。

4 乾電池を入れる

図のように、単3形アルカリ乾電池をマウスの前方に向けて押し込んでから、後方を端子に合わせて入れてください。

- 乾電池の＋（プラス）と−（マイナス）の向きを、電池ボックス内の表示どおりに入れてください。
- マウスの後方の端子が変形しないように乾電池を入れてください。
- 必ずアルカリ乾電池を使用してください。
- 充電式電池、マンガン乾電池、オキシライド乾電池は使用できません。

5 カバーをもとどおりはめる

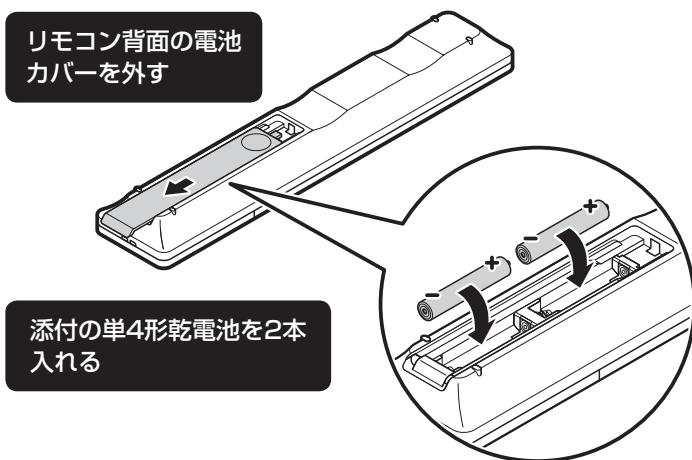
カバーのツメが穴に入るようにはめこみ、マウスの前方に向かってカチッと音がするまでスライドさせてください。

6 マウス底面のON/OFFスイッチを「ON」にする

マウス底面のON/OFFスイッチを上にスライドし、「ON」にしてください。

- マウス底面から出ている光を直接見ないでください。
- マウスの電池寿命は、ご使用の環境や方法にもよりますが、連続して操作した場合最大約150時間です。
- マウスを長時間使わないときは、マウス底面のON/OFFスイッチを「OFF」にしておくと、乾電池が長持ちします。

マウスがうまく動作しないときは、「付録」の「キーボードとマウスを登録しなおす」(132ページ)をご覧ください。

リモコンを使う準備をする

ポイント
- 乾電池を入れる
- ＋（プラス）とー（マイナス）の向きを間違えないように

1 リモコンに乾電池を入れる

入れたら電池カバーをもとどおりにはめてください。

- 乾電池の＋（プラス）とー（マイナス）の向きを、電池ボックス内の表示どおりに入れてください。
- ご購入時に添付されている乾電池は初期動作確認用です。お早めに新しい乾電池と交換することをおすすめします。
- 乾電池を交換する際は、単4形のマンガン乾電池またはアルカリ乾電池を使用してください。
- 充電式電池、オキシライド乾電池は使用できません。
- このパソコンに添付されているリモコンでご家庭のテレビを操作できます。対応メーカ、および設定方法について詳しくは、『録画・映像・音楽を楽しむ本』PART1の「よく使うリモコンのボタンについて」をご覧ください。

テレビまたはディスプレイを接続する

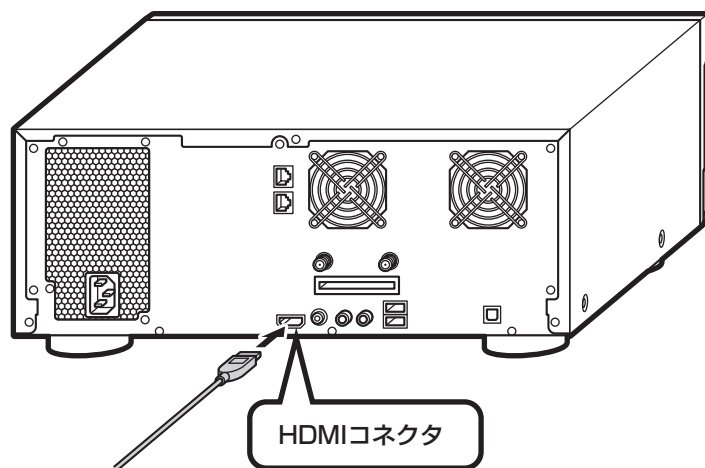
このパソコンに接続できるテレビまたはディスプレイ

このパソコンとテレビまたはディスプレイは、HDMIケーブルでのみ接続します。接続先のテレビまたはディスプレイには､HDMIコネクタが搭載されている必要があります。
また､このパソコンでは､テレビ番組を視聴することができません。そのため､デジタル放送（地デジ/BS/110度CS）のチューナーを搭載しているテレビに接続することをおすすめします。

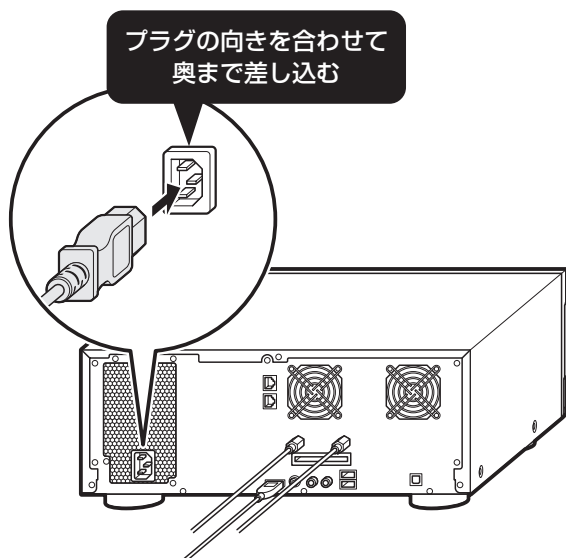
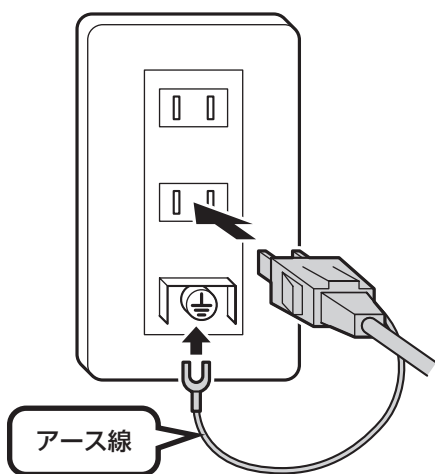
※ DVIモニタに接続する場合は、添付のHDMI-DVI変換ケーブル（メス）を使用してください。

※ 著作権保護されたコンテンツを再生するためには、HDCP対応のディスプレイを接続してください。

1 HDMIケーブルを接続する

テレビまたはディスプレイのHDMIコネクタに添付のHDMIケーブルを接続し、反対側のプラグをパソコン本体背面のHDMIコネクタ（HDMI）に接続します。

電源コードを接続する

ポイント
- 手順をよく読み接続する順番を守りましょう。

1 パソコン本体背面に電源コードを接続する

2 もう一方のプラグをコンセントに差し込む

先にアース線を接続してから、プラグを差し込んでください。

- アース線の端子部分にはキャップが付いています。接続するときに取り外してください。
- 電話線用のアース端子には接続しないでください。通話中に雑音が入るおそれがあります。
- アース端子付きのコンセントが利用できないときは、お近くの電器店など電気工事士の資格を持つ人にアース端子付きコンセントの取り付けをご相談ください。

電源コードを取り外すときは、先にプラグを抜いてから、アース線を取り外してください。

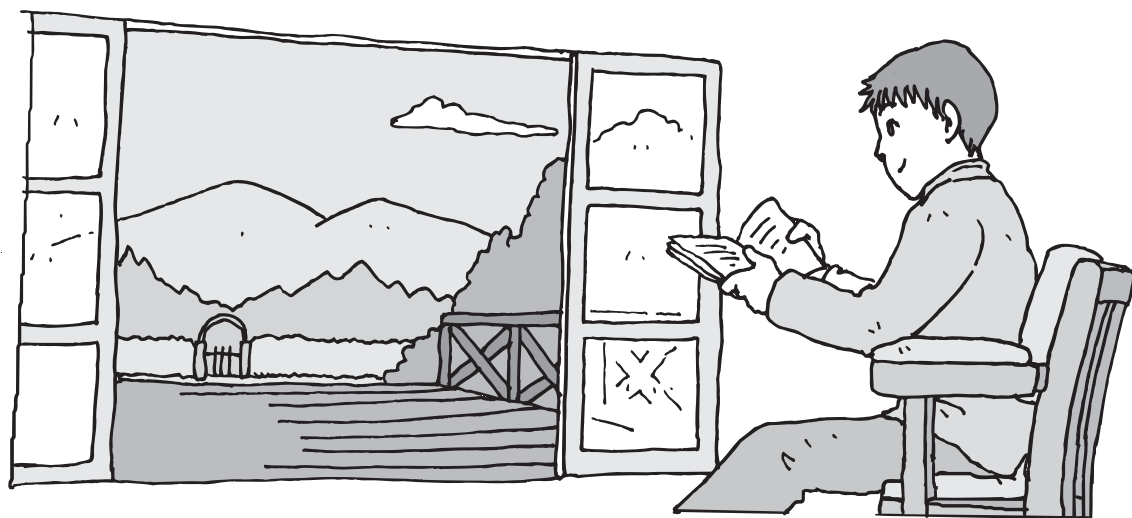
これで接続は完了です。

インターネット、周辺機器などの接続は後から

ここまでの接続が終わったら、続けて「第3章　セットアップを始める」に進んでください。第3章で説明している作業が終わってからインターネット、周辺機器などの接続をおこないます。

電源コードなどが人の通る場所にないことを確認してください。ケーブルを足に引っかけたりするとパソコンの故障の原因になるだけでなく、思わぬけがをすることもあります。

第3章

セットアップを始める

今度は、いよいよパソコンの電源を入れます。最初に電源を入れるときは、「セットアップ作業」といって、自分の名前を登録したりする操作が必要です。この後の説明をよく読んで、ゆっくり確実に操作してください。

この章の所要時間：30～60分程度

電源を入れる

ポイント

- 電源スイッチの場所を確認しておく

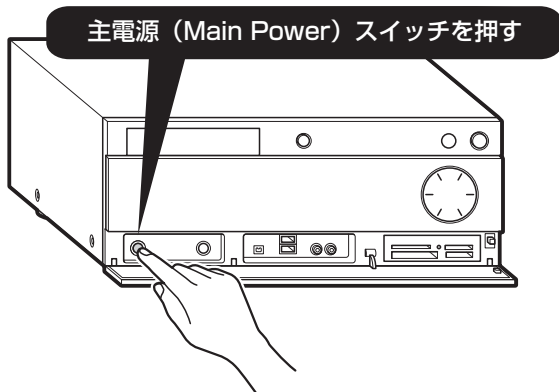
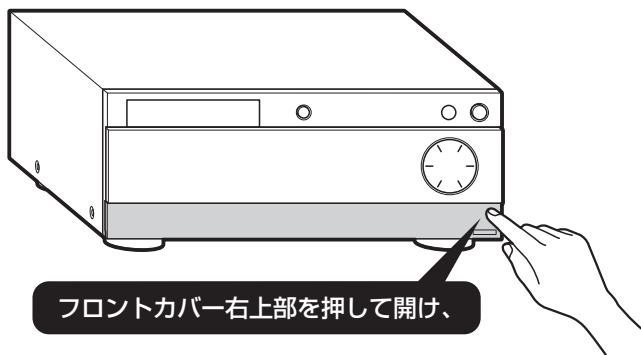
1 テレビまたはディスプレイの電源を入れる

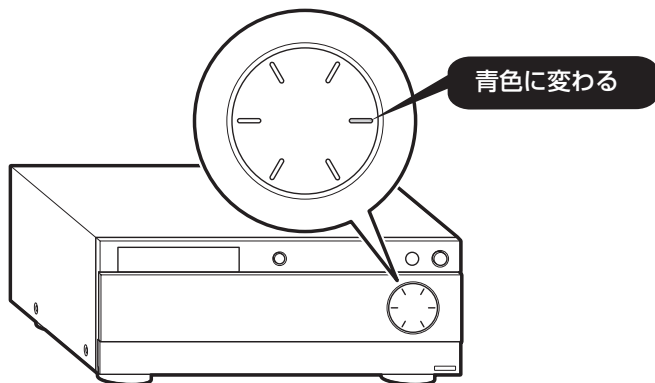
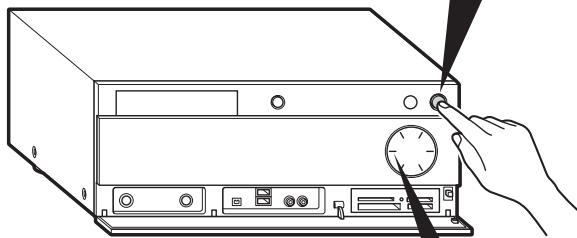
テレビまたはディスプレイの電源スイッチを押し、電源を入れます。

電源スイッチを押しても、電源が入らない場合は、電源コードが正しく接続されていないことが考えられます。ディスプレイ本体と電源コードの接続、コンセントと電源コードの接続を確認してください。

2 テレビをHDMI入力に設定する

テレビの場合は電源を入れた後、HDMIコネクタからの情報が画面に表示されるようにHDMI入力に設定してください。設定方法について詳しくは、テレビに添付されているマニュアルをご覧ください。

3 主電源を入れる

主電源(Main Power)ランプがオレンジ色から青色に変わるまでお待ちください。2〜3分かかります。

主電源（Main Power）ランプが点灯していない場合は、電源コードが接続されていないことが考えられます。「電源コードを接続する」(30ページ）をご覧ください。

4 Windowsを起動する

画面が表示されるまで数分かかることもある

PC電源（PC Power）スイッチを押してから、次ページの画面が表示されるまでに数分かかることがあります。その間、NECのロゴ（社名のマーク）などが表示されたり、画面が真っ暗になったりしますが、故障ではありません。あわてて電源を切ったりせずに、そのままお待ちください。

操作の途中では、絶対に電源を切らない！

セットアップ作業がすべて終わるまでに、30～60分程度かかります。「ここで一段落」(51ページ）までの手順が完了する前には、絶対に電源を切らないでください。電源コードをいきなり抜いたりするのも、絶対ダメです。セットアップ作業が終わらないうちに電源を切ると、故障の原因になります。

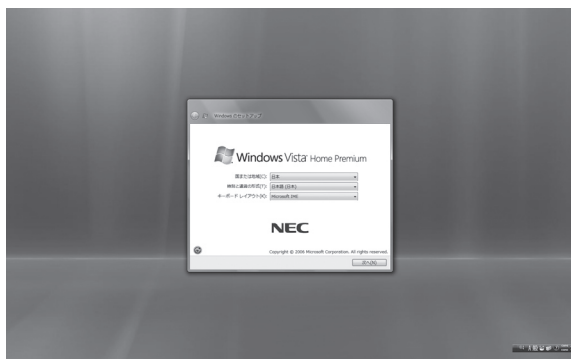
停電などのときは

万一、停電などの理由で電源が切れてしまったときは、一度電源コードをコンセントから抜いて1分ほど待ち、再度コンセントに差しなおしてください。主電源（Main Power）ランプが青色に変わったことを確認後、「Windowsを起動する」からやりなおしてください。セットアップの画面が表示されるときは、その画面からセットアップ作業を続けてください。セットアップの画面が表示されないときは、NEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。

電源コードをコンセントから抜く前に停電から復旧した場合、主電源（Main Power）ランプが青色に変わった後、主電源を切ってください。その後、電源コードを差しなおし、主電源を入れるところからやりなおしてください。主電源を切る方法については、第4章の「主電源を切る」(73ページ）をご覧ください。

パソコンの設定を始める

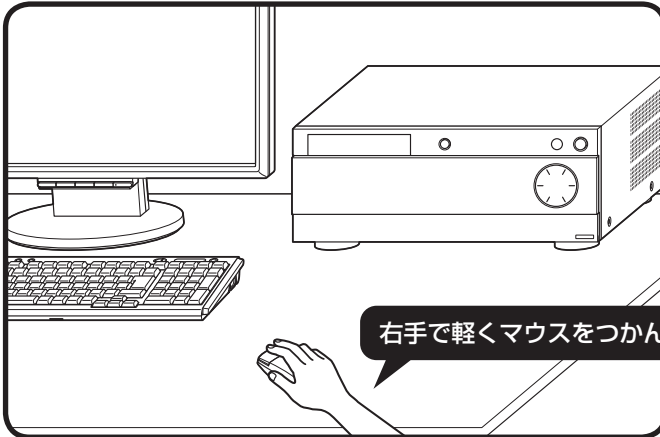
ポイント
- **画面の矢印を動かしてみる**
- **「クリック」という操作を覚える**

1 セットアップの最初の画面を確認する

「Windowsのセットアップ」という画面が表示されていますね。これがセットアップ作業の出発点です。

は、「何もしないで待ってて」の合図

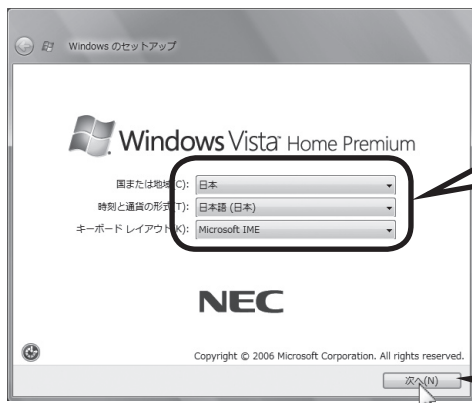
パソコンの内部で何かの処理が進んでいて、操作できないときには、画面にのマークが出ることがあります。このマークが表示されているときや、「しばらくお待ちください」などと文字が表示されているときは、キーを押したり、マウスのボタンを押したりせずに、待っていてください。

パソコン内部での処理の進み具合を示すグラフが表示されることもあります。その場合も、何も操作せずに待ってください。

2 マウスを動かす

マウスを動かすと、その動きに合わせて画面の矢印が動きます。マウスを動かすときは、マウスの前後左右に10cm程度のスペースをあけるとよいでしょう。肩の力を抜き、手首だけで動かすことがコツです。

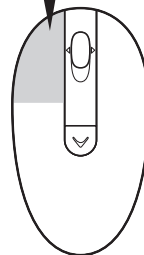
このマウスは、マウス底面から出ている赤い光をセンサーが検知して、動きを判断します。濃淡のはっきりした模様や柄のないところ、光沢や反射のないところで使うと、センサーが光を検知しやすく、快適に動きます。

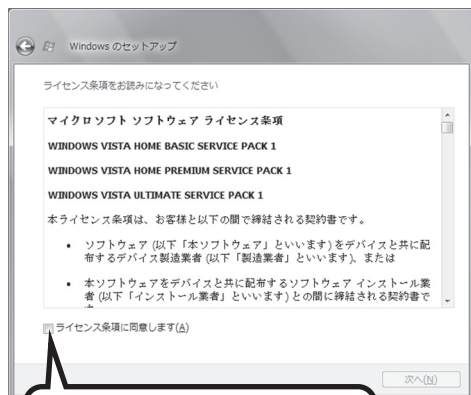
- マウス底面のON/OFFスイッチが「ON」になっているか、底面の中央部が赤く光っているか確認してください。
- マウスがうまく動作しないときは、『パソコンのトラブルを解決する本』の「マウス、キーボードがおかしいとき」をご覧ください。
- まだ、マウスのボタンを押さないでください。

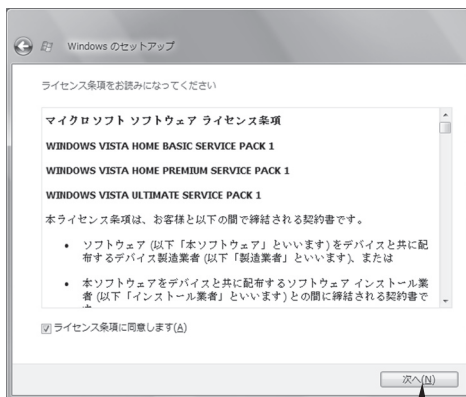
3 画面内の右下に矢印を動かす

何も設定を変えず、「次へ」に画面の矢印 （マウスポインタ）を合わせて左のクリックボタンを押すと、画面の表示が切り換わって「ライセンス条項をお読みになってください」と書かれた画面になります。

この画面では、設定を変えないでください。設定を変えると、画面表示が日本語にならないなどの問題が起こる場合があります。

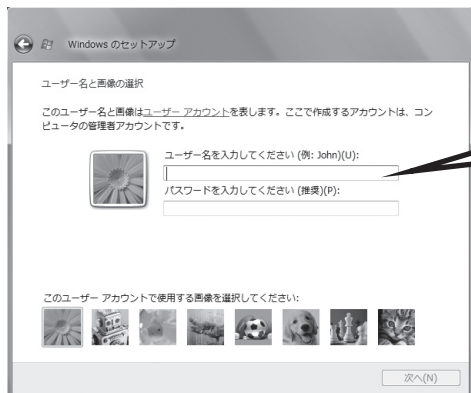
クリック

このような操作で、手順を次に進めたり、次ページを表示したりすることができます。
画面の絵や文字などに矢印を合わせて左ボタンを1回押す操作を「クリック」と呼びます。パソコンを使うときの一番基本的な操作なので、覚えてくださいね。

4 ライセンス条項に同意する

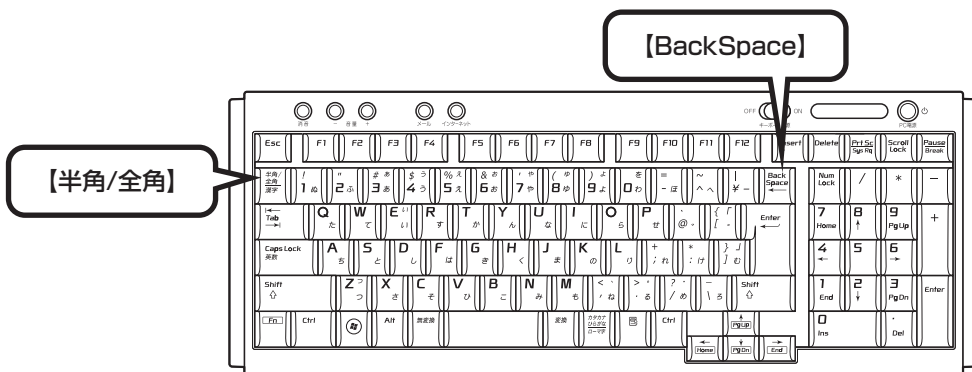
ライセンス条項に同意していただけない場合は、パソコンを使うことができません。

これで、ライセンス条項に同意することになります。「ライセンス条項に同意します」の左が□から☑に変わらないときは、矢印がうまく合っていなかったので、やりなおしてください。

「ライセンス条項」とは、このパソコンに入っているソフトを違法にコピーして他人に渡したりしないという約束をしていただくことです。画面に表示されている契約文の続きを読むには、文書表示欄の右下にある▼をクリックします。

キーボードを使って名前を入れる

ポイント
- ユーザー名とユーザーアイコンを選ぶ

1 自分の名前を入れる

ここに小さな縦棒(｜)が点滅しているのを見てから、キーボードで自分の名前を入力する

【例】「mita」と入力する場合なら

点滅していないときは、「ユーザー名を入力してください」の下の欄をクリックしてください。

- 日本語で名前を入れる場合、環境依存文字（日本語変換で一覧に「環境依存文字」と表示される文字）は利用できません。ソフトによっては、正しく動作しなくなります。
- 日本語で名前を入れると、コンピュータ名が「ユーザー名-PC」となり、日本語がまざります。利用するネットワークによっては不具合の原因になりますので、ネットワークの設定をする前にコントロールパネルを利用してコンピュータ名を入れなおしてください。
- ユーザー名の追加や変更は、セットアップ作業が終わった後でできます。
- 次の文字列は、パソコンのシステムですでに使われているため、入力しないでください。
  CON、PRN、AUX、CLOCK$、NUL、COM1 ～ COM9、LPT1 ～ LPT9

入力を間違えたら

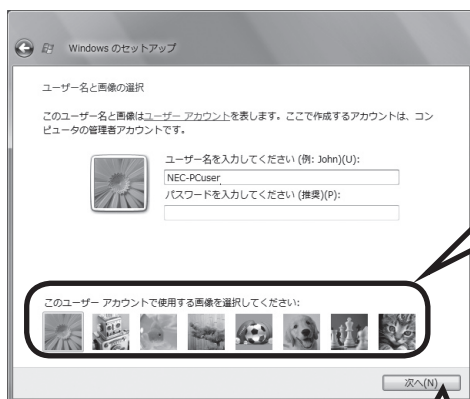
キーボードの【BackSpace】(バックスペース）を押してください。

ローマ字で入力したいのにひらがなが表示されるときは

キーボードの【半角/全角】を押すと、日本語とアルファベットが切り換わります。

入力した名前を控えておく

ユーザー名：

パソコンのトラブルを解決するために、後でセットアップ作業をやりなおす（再セットアップする）とき、この名前が必要です。上の欄に控えておいてください。

この中から、ユーザーアイコン（スタートメニューなどで表示される画像）を選んでクリックする

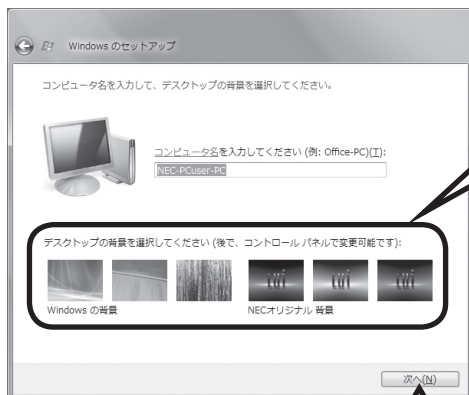
※どの画像を選んでもかまいません。このマニュアルでは、一番左の画像を選んだ場合を例に説明します。
何も選ばずに「次へ」をクリックすると、自動的に一番左の画像が選ばれます。

「次へ」をクリックする

- **パスワードは、ここでは設定しません。セットアップ作業が終わってから設定します。**
- **パスワードを設定する場合は、必ずパスワードのヒントも入力してください。**

画面を見ながら手順を進める

ポイント
- 画面に書かれたことを読みながら、指示にしたがってクリック

1 次の画面に進む

この中から、デスクトップの背景（壁紙）にする画像を選べる
※画像をクリックして選びます。どの画像を選んでもかまいません。
何も選ばずに「次へ」をクリックすると、自動的に右から３番目の画像が選ばれます。
このマニュアルでは、何も選ばずに「次へ」をクリックした場合を例に説明します。

「次へ」をクリックする

・デスクトップの背景を選んでクリックすると、画面が選んだ背景に変わります。

・キーボードの操作に慣れていないかたは、表示された名前のまま次に進んでかまいません。

・キーボードを使った文字入力に慣れている場合、半角英数文字でコンピュータの名前を自由に入力してください。名前を思いつかない場合は「Lui」（ルイ）とするとよいでしょう。すでに何台かパソコンをお持ちの場合、「PC1」、「PC2」のように数字で区別してもかまいません。

・キーボード右上のキーボード電源スイッチが「ON」になっているか確認してください。

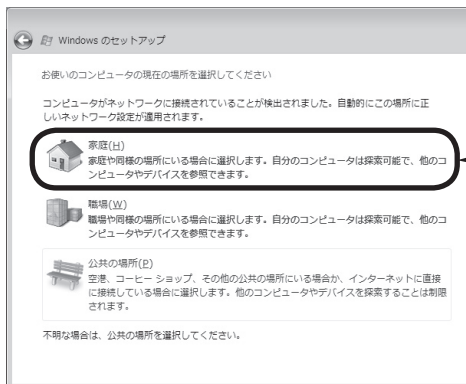
・キーボードがうまく動作しないときは、『パソコンのトラブルを解決する本』の「マウス、キーボードがおかしいとき」をご覧ください。

・次の文字列は、パソコンのシステムですでに使われているため、入力しないでください。
CON、PRN、AUX、CLOCK$、NUL、COM1 ～ COM9、LPT1 ～ LPT9

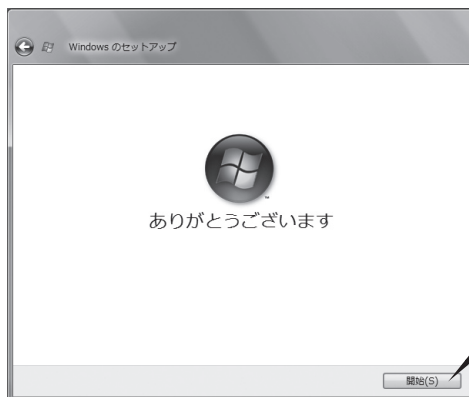
・すでに何台かパソコンをお使いの場合は、同じ名前を付けないでください。ネットワークで接続したときにエラーが表示されます。

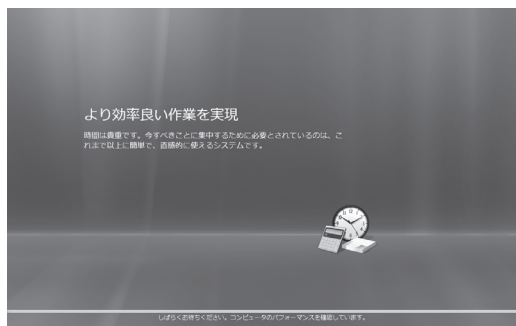
・42ページで入力した自分の名前と同じ名前は入力しないでください。

2 コンピュータを保護する設定をする

Windowsがいつも最新の状態になるように、インターネット経由で定期的に更新情報が確認され、自動的にインストールされるようになります。

3 ネットワークのタイプを選択する

インターネットの接続は、セットアップ作業終了後におこないます。

4 さらにセットアップ作業を進める

「開始」をクリックする

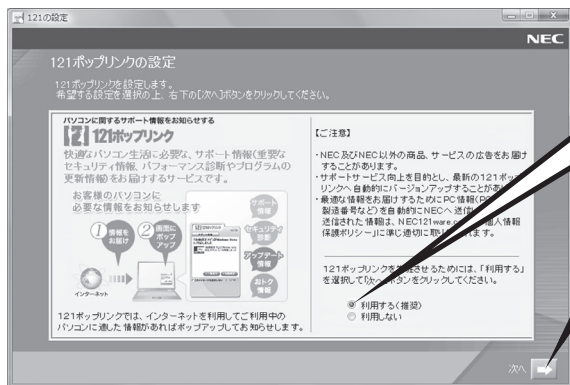
「開始」をクリックすると、次の画面が表示されます。

次ページの画面が表示されるまで何も操作せずに
待っていてください。

続けて次ページ以降の作業を進めてください。

121ポップリンクを設定する

ポイント

● NECから新しい情報が届くように、「利用する」を選ぶ

1 ➡ をクリックする

「利用する(推奨)」の左が◉になっていることを確認して、

➡ をクリックする

121（ワントゥワン）ポップリンクは、お使いのパソコンに適したサービスサポート情報（危険度の高いウイルスに対するセキュリティパッチ（修正プログラム）やアップデートプログラム）を、NECからインターネット経由でお知らせするサービスです。このパソコンでインターネット接続できるようになってから、新しい情報が発表されるたびに自動的に届くようになります。

121ポップリンクの設定は、後から利用しないように変更することもできます。

画面右下に次のようなメッセージが表示されることがあります。

コンピュータのセキュリティを確認してください
お使いのコンピュータには、セキュリティの問題がいくつかあります。
問題を解決するには、この通知をクリックしてください。

ここでこの画面が表示されても問題ありません。今はこのメッセージをクリックせずに、セットアップ作業を進めてください。

ソフトを使えるようにする

ポイント

● 目的に合わせて、パソコンに入れるソフトを選べる

1 次の画面に進む

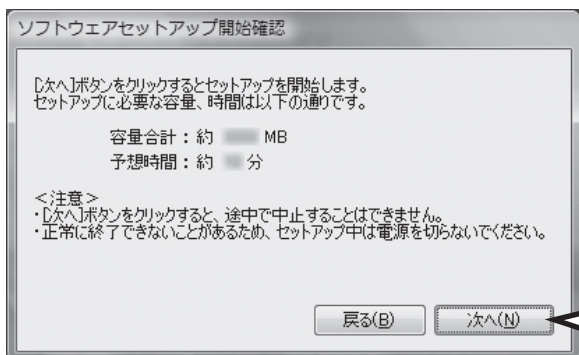
「標準セットアップ（推奨）」が◉になっていることを確認して、

「次へ」をクリックする

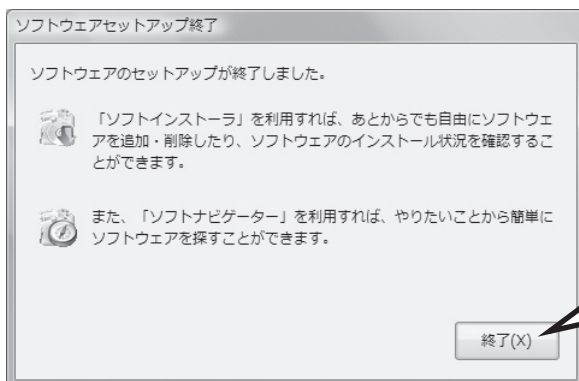
・通常は、「標準セットアップ（推奨）」を選んでください。

・「ソフトウェア一覧から選択」の左にある□をクリックして☑にすると、一覧から使いたいソフトを選んでインストールできます。この方法を選んだ場合は、画面の説明を読んで操作してください。

・「最小セットアップ」を選ぶと、ソフトを追加せず、必要最小限のソフトだけでパソコンを使い始められます。この方法を選んだ場合は、画面の説明を読んで操作してください。

2 ソフトを追加する

「次へ」をクリックする

画面に表示される予想時間は目安です。「ソフトウェアセットアップ終了」の画面が表示されれば、ソフトが正しく追加されています。

「インストール中」画面が表示され、ソフトの追加が始まります。ソフトの追加が終わると、次の画面が表示されます。

「終了」をクリックする

その後、しばらくしてからパソコンの電源が切れ、自動的に再度電源が入ります（これを「再起動」といいます）。次の画面が表示されるまで、そのままお待ちください。

この後、再起動するたびに、「ウェルカムセンター」の画面が表示されますが、ここではまだ操作しないでください。「ウェルカムセンター」の説明は、「ここで一段落」（51ページ）でおこないます。

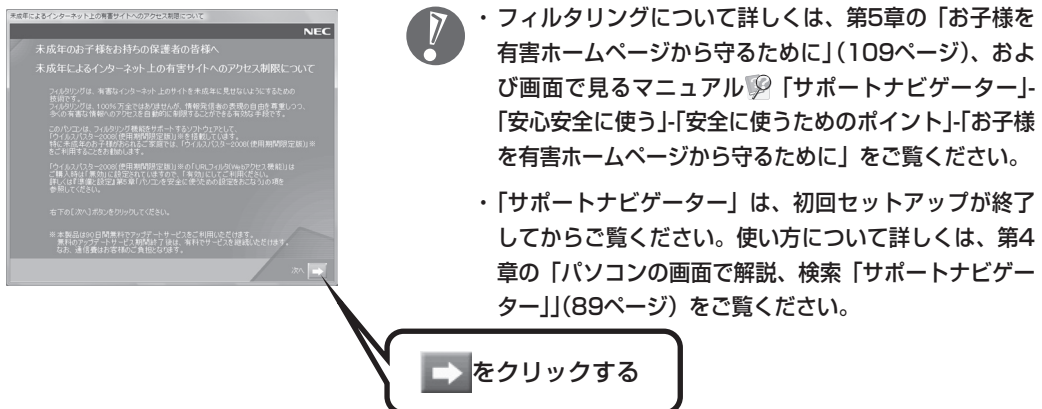
パソコンが再起動しても、まだセットアップ作業が残っています。

3 ガジェットを登録し、注意文を読む

再起動後、「復元ポイントを作成しています。しばらくお待ちください。」と表示されます。
しばらくすると、次の画面が表示されます。

画面右側に、NECオリジナルガジェットが表示されます。

その後、「未成年によるインターネット上の有害サイトへのアクセス制限について」画面が表示されます。

- フィルタリングについて詳しくは、第5章の「お子様を有害ホームページから守るために」(109ページ)、および画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「安心安全に使う」-「安全に使うためのポイント」-「お子様を有害ホームページから守るために」をご覧ください。
- 「サポートナビゲーター」は、初回セットアップが終了してからご覧ください。使い方について詳しくは、第4章の「パソコンの画面で解説、検索「サポートナビゲーター」」(89ページ)をご覧ください。

ここで一段落

ポイント

● パソコンを使い始めるときの画面を見ておこう

しばらくすると、「ウェルカムセンター」が表示されます。今は、 をクリックして画面を閉じてください。次に起動したときからは、ウェルカムセンターの画面に「起動時に実行します」のチェックが追加されます。

ウェルカムセンター

ウェルカムセンターの画面からは、簡単にソフトをインストールすることができたり、ガジェットの登録をすることができます。パソコンを起動するたびに表示する必要がないかたは、「起動時に実行します」の左の をクリックしてにすると、次回からこの画面は表示されなくなります。

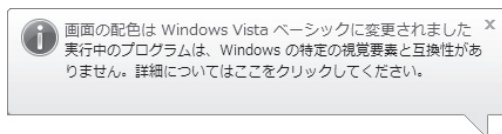
最初のセットアップ作業は一段落です。次回から、主電源が入っている状態でPC電源（PC Power）スイッチを押すと、いつもこの画面（デスクトップ画面と呼びます）が表示されるようになります。

デスクトップ画面

サイドバー

- 複数のユーザーを登録している場合、左の画面が表示される前に、使う人の名前を選択する画面が表示されます。
- サイドバーに表示されているガジェットは、左の画面と順序が異なる場合があります。解像度によってはガジェットが隠れていることがありますが、画面右上の をクリックすると表示できます。

画面の表示について

ソフトを使っているときに、次のようなメッセージが表示されることがあります。

これは、ソフトを利用するために、Windows Vistaの画面表示が変わることをお知らせするものです。このメッセージが表示されたときは、ウィンドウの透明部分など一部の表示が変更されます。
変更された画面表示は、ソフトを終了するともとに戻ります。

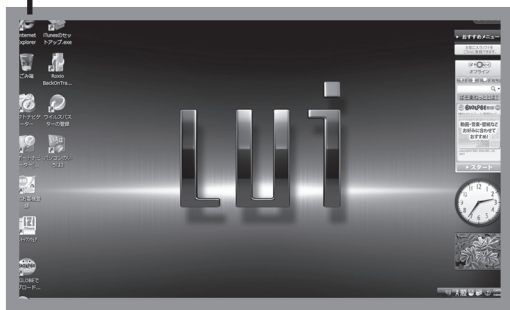
ご使用のテレビに合わせる

ポイント

- 画面と表示のサイズが合わないときの設定
- 音声が出ないときの設定

テレビ画面について

このパソコンを市販のテレビに接続すると、テレビの表示領域よりパソコンの表示内容が大きいためにはみ出てしまったり、逆に小さくて余ってしまったりすることがあります。
テレビとパソコンの画面表示の仕様に違いがあるために起こります。

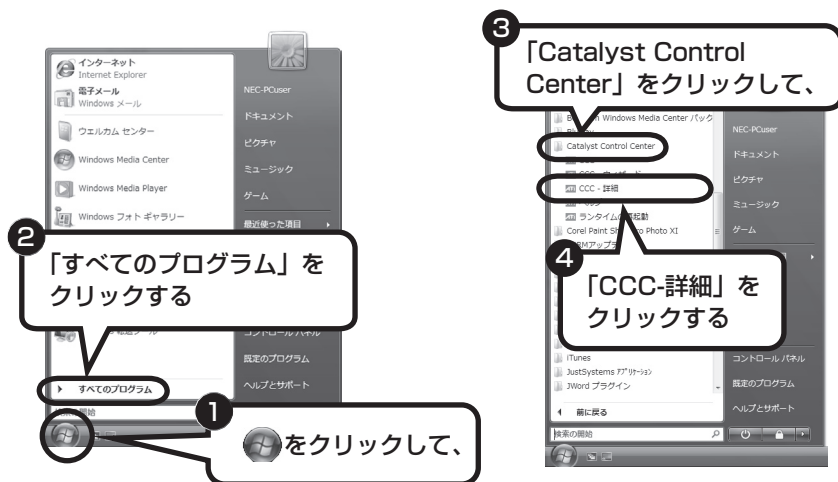
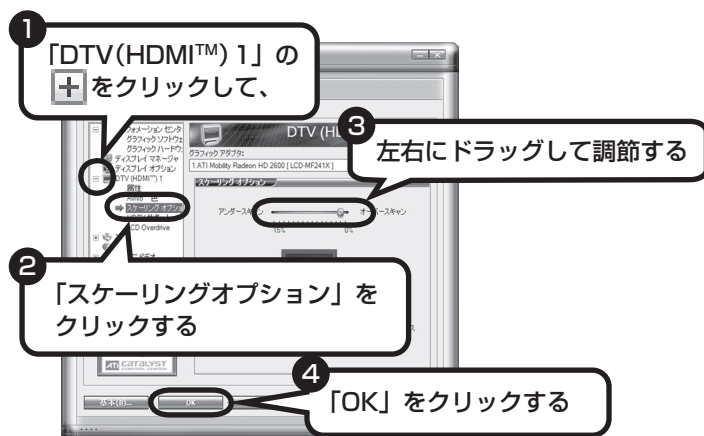
パソコンの表示の一部が切れています。

テレビ画面より大きい場合

余った部分は黒く表示されます。

テレビ画面より小さい場合

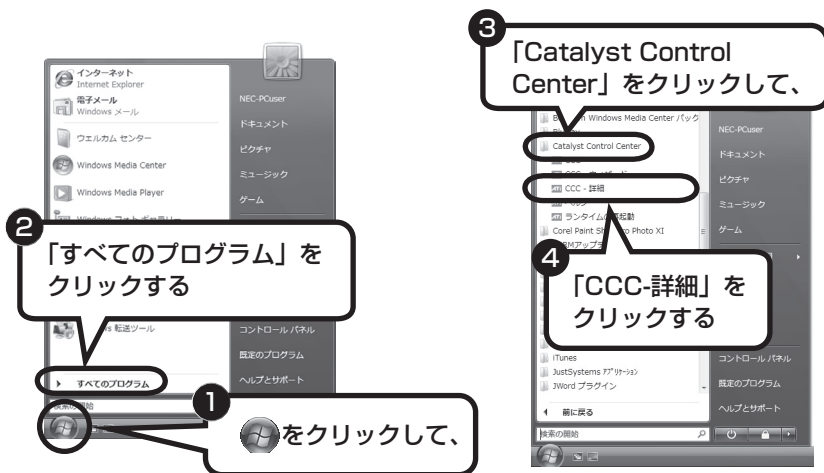
テレビ画面に合った画面の大きさに調節

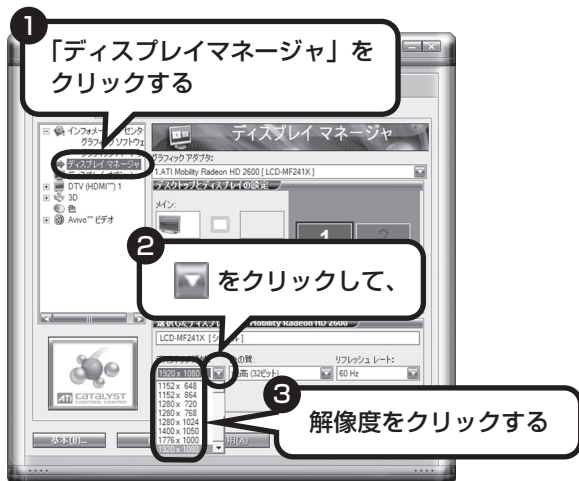
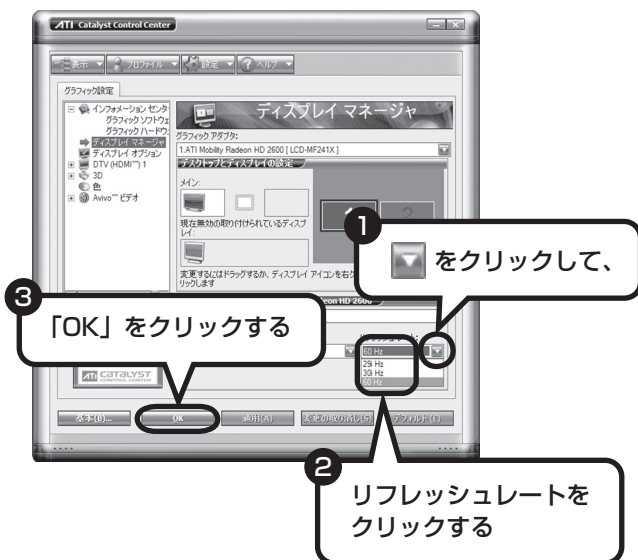
パソコンの画面が正しく表示されない場合、テレビの表示設定を変更することで最適な表示にできることがあります。お使いのテレビに添付されているマニュアルをご覧になり、設定を変更してください。
テレビの設定を変更しても最適な表示にできない場合や設定を変更できない場合は、このパソコンの設定を変更します。

1「CATALYST(R) Control Center」を表示する

2「スケーリングオプション」でスケーリング値を調節する

これで、お使いのテレビ画面に最適な解像度の設定が終わりました。

テレビ画面に合った解像度の調節

テレビの設定を変更しても最適な解像度にできない場合やスケーリング値を変更しても最適にならない場合は、このパソコンの解像度の設定を変更します。

1「CATALYST(R) Control Center」を表示する

2 解像度を設定する

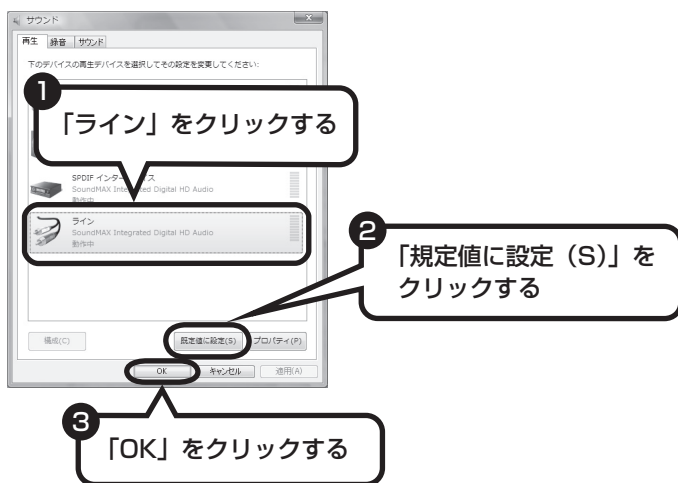
※お使いの環境によって表示が異なる場合があります。

3 リフレッシュレートを設定する

音声の設定について

接続したテレビまたはディスプレイによっては、ご購入時の設定では音声が出ないことがあります。出荷時、音声はHDMI端子に出力されます。HDMI以外の端子（DVI端子）が搭載されたテレビまたはディスプレイを接続するときは、機器に合わせて音声の出力先を変更してください。

音声出力端子/ヘッドフォン端子から音声を出力したい場合

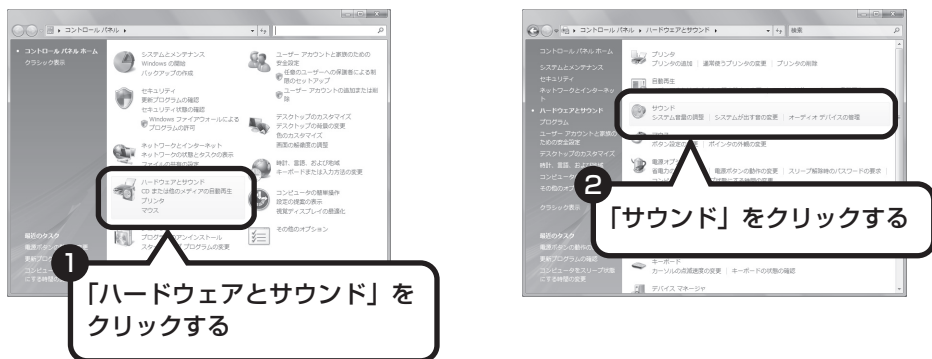
1 コントロールパネルの画面を表示する

2 設定画面を表示する

3 音声出力端子に出力する

この設定をおこなうとHDMI端子および光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力端子から音声が出なくなります。

光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力端子から音声を出力したい場合

1 コントロールパネルの画面を表示する

2 設定画面を表示する

3 光デジタルオーディオ出力端子に出力する

※ この設定をおこなうとHDMI端子および音声出力端子から音声が出なくなります。

それでも音声が出ない場合は、第4章の「音量を調節する」(81ページ）をご覧ください。

スピーカー(NECリモートスクリーンオーディオ）は選択しないでください。

Windowsのパスワードを設定する

ポイント

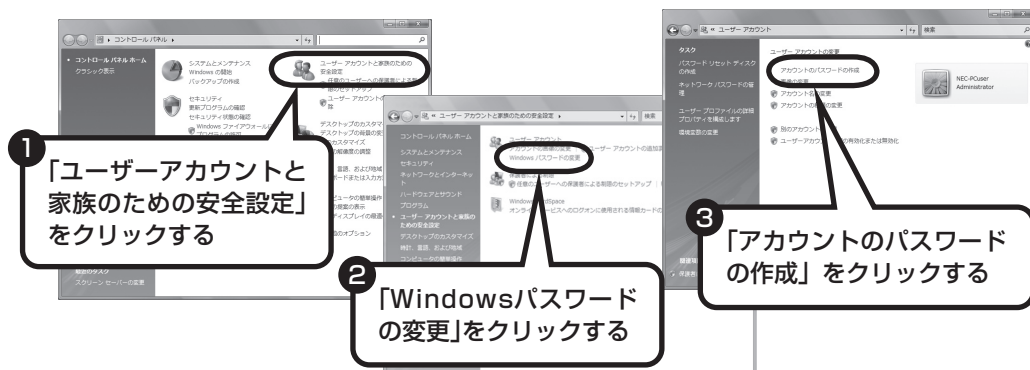
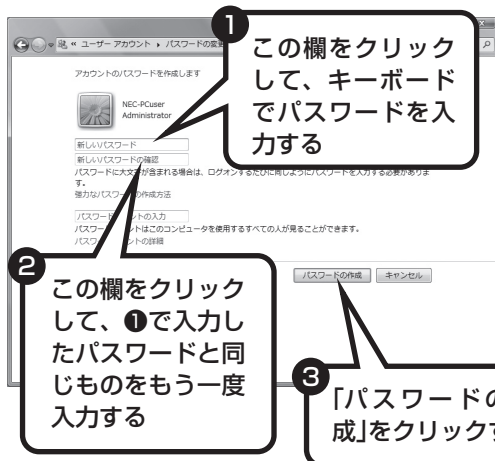
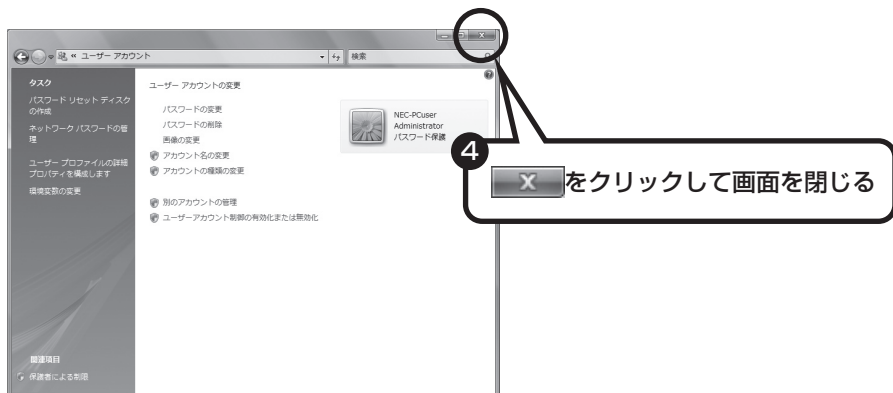
- パソコンをより安全に使うために、パスワードを設定
- パスワードは覚えやすく、忘れないものを

パスワードの設定

不正アクセス被害防止や情報の保護など、セキュリティ対策のため、次の手順でパソコンを使うときにパスワードを入力する設定をしておくことをおすすめします。

テレビ初期設定が終わった後にパスワードを新たに設定、または変更したときは、「自動ログオン」の設定を変更してください。「自動ログオン」の設定方法については、『録画・映像・音楽を楽しむ本』付録の「自動ログオンの設定をする」をご覧ください。

1 コントロールパネルの画面を表示する

2 設定画面を表示する

3 パスワードを設定する

- 入力したパスワードは「●●●」のように表示されます。これは、入力したパスワードが他人に見られてもわからないようにするためです。
- 覚えやすく、忘れにくいパスワードを決めてください。大文字、小文字も入力したとおりに区別されます。
- 「パスワードのヒントの入力」欄に、パスワードを思い出すためのヒントを入力しておくと、パスワード入力を間違えたときにヒントが表示されるようになります。

これで、Windowsのパスワードが設定されました。次回から、Windowsを起動したり、スリープ状態、休止状態から復帰したりするときには、パスワードの入力が必要になります。

録画機能を使いたいかたへ

お疲れ様でした。
これで、本機を使うための準備は終了です。

準備は終了しましたが、本機を使いこなすためには、もう少し設定を進めてください。これからの設定は、大きく2つの方向に分かれます。

すぐに録画の設定をしたい

録画するためのチャンネル設定をするなど、これからすぐに録画機能をお使いになりたいかたは、『録画・映像・音楽を楽しむ本』をご覧ください。

インターネットなどの設定をしたい

インターネットの設定など、本機をパソコンとして楽しむための情報を知りたいかたは、『準備と設定』(このマニュアル)の第4章以降をご覧ください。

録画するための設定、またはインターネットの設定が終了した後は、是非「お客様登録」をしてください。詳しくは『準備と設定』(このマニュアル)の次ページをご覧ください。

お客様登録のお願い

121wareでは「お客様登録」することで、さまざまなメリットを提供しています。あなたのデジタルライフをグッとオトクに、そしてさらに便利でもっと身近に感じる121wareのサービスを是非ご利用ください。

登録するとメリットがたくさん

登録料・会費無料

※法人のお客様としてご使用の場合も、ご登録をおすすめします。

1　電話での「使い方相談」

使い方を何度でも無料で相談

保有商品を登録すると、購入後1年間※の使い方相談が何回でも無料で利用できます。

2　あなただけのマイページ

マイページは、あなた専用のページです

登録した商品を元に、あなたのパソコンに合ったサポートやサービスに関する情報が表示されます。

3　NEC Directの優待サービス＆ポイントもGet

NEC Directの優待サービスでお買い物。ポイントももらえる

保有商品を登録されているお客様は､NEC Directの優待サービスが受けられます。

その他の特典

メールニュース

商品広告・活用提案・サポート・キャンペーンなどの情報をお届けします。

※ パソコン本体以外の商品／ NEC Refreshed PC(再生パソコン) の「使い方相談」の無料期間は、各商品の保証書に記載の保証期間となります。

マイページがあなたをサポート

マイページは、あなた専用のページです。
登録した商品に合わせて、あなたに合ったサポートやサービス（優待販売）に関する情報が表示されます。

「マイページ」はお客様登録をすると使えるようになるページです。

Webから登録情報の変更や保有商品情報の登録もできます。保有商品登録は「保有商品情報」をクリックして登録してください。

お得なキャンペーン情報（優待販売）もあります。

お客様登録の方法

お客様登録（お持ちのNEC製品も登録してください）をして、電話の問い合わせのときに必要な「121wareお客様登録番号」と、インターネットサポート・サービスをご利用になる際に必要な「ログインID」を取得してください。
ご登録いただくことでお客様に合ったサポート･サービスをご提供させていただきます。

インターネットによる登録をおすすめします。

「121wareお客様登録番号」と「ログインID」を同時に取得でき、すぐにインターネットサポートが受けられます。
まだインターネットをお使いになれないお客様にはFAX登録をご用意しております。ただし､FAX登録からでは「121wareお客様登録番号」のみの取得になり、インターネットでのさまざまなサービスがご利用いただけません。
インターネットが使えるようになり次第､「ログインID」の取得をおすすめします。

インターネット登録（推奨）

登録の前に、インターネット接続の設定が必要です。設定の方法については、第5章をご覧ください。

インターネットに接続して、NECパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」のマイページ（http://121ware.com/my/）から登録します。

FAX登録

FAX用紙はNECパソコン情報FAXサービスから取り出してください。

お手持ちのFAXから「0120-977-121」（フリーコール）に電話します。ご希望の窓口案内のアナウンスが流れますので､FAX情報サービス窓口番号である「9」を押します。
FAX情報サービスにつながりますので、アナウンスにしたがい、BOX番号3002と＃を押し、お客様登録用紙を取り出してください。必要事項をご記入の上､FAXでお送りください。

※番号をよくお確かめになり、おかけください。

※すでにお客様登録がお済みのお客様は、保有商品の追加登録をお願いいたします。「121ware.com」のマイページ（http://121ware.com/my/)内の「保有商品情報」で、ご購入いただいた商品を追加することができます。

第4章

基本中の基本の操作

電源の入れ方／切り方、メモリーカードやCD-ROM、DVDのディスクをセットする方法など、このパソコンを使うときの最も基本的な操作を説明します。インターネットの接続や設定に進む前に、この章に目をとおしておくとよいでしょう。

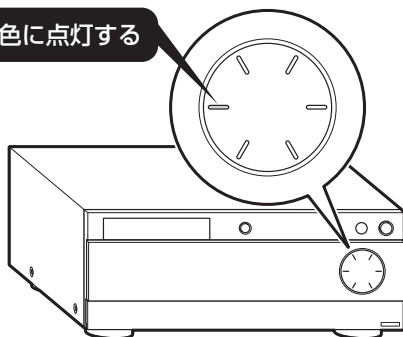
終了する

Windowsを終了するときは、マウスで操作します。いきなり電源コードを抜いたりするのは、絶対ダメです。

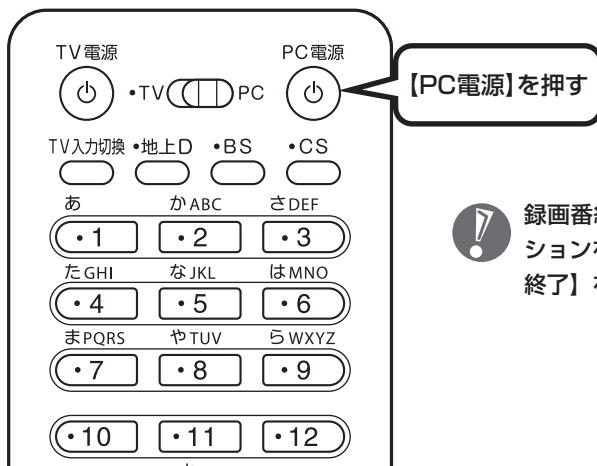
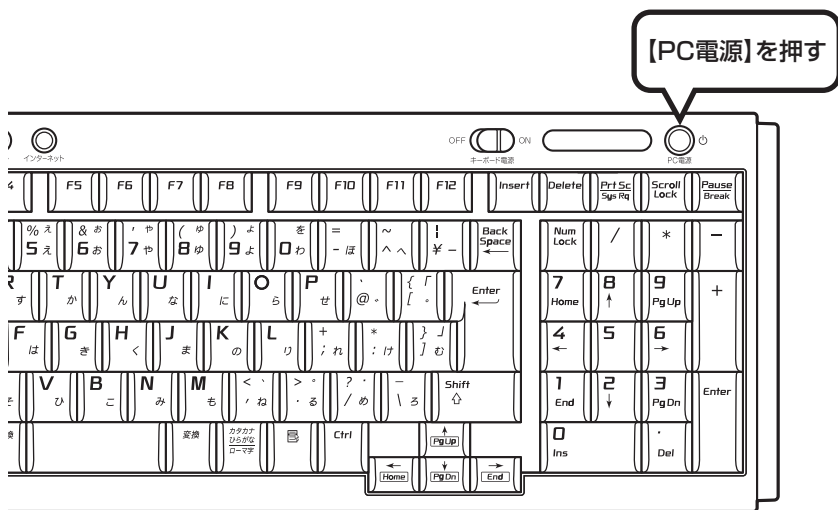
Windows Vistaでは、通常、Windowsを終了するときにシャットダウンせず、スリープ状態にします。スリープ状態は、電力の消費を抑えながら、すぐに作業を再開できるようにする省電力機能です。シャットダウンしたい場合は、「Windowsをシャットダウンする」(70ページ)をご覧ください。完全に電源を切りたい場合は、「主電源を切る」(73ページ)をご覧ください。

1 画面を見ながら、マウスを操作してWindowsを終了する

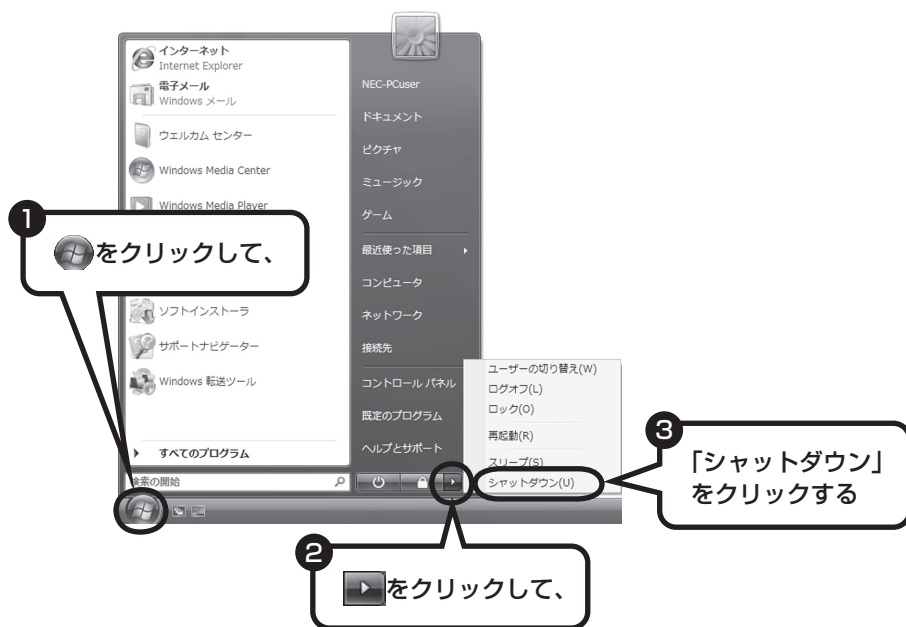
Windows Updateなどが自動的におこなわれ、Windowsをいったん終了する必要があるときに、 が のように変わることがあります。その場合も、そのままクリックしてください。このとき、パソコンはスリープ状態ではなくシャットダウンした状態になるため、次回Windowsを起動するときに、通常よりも時間がかかります。

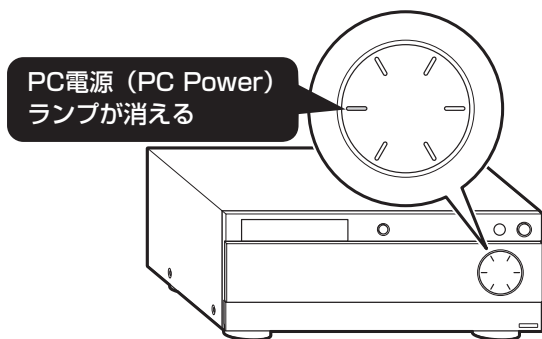
2 PC電源（PC Power）ランプを確認する

画面が暗くなり、スリープ状態になります。

リモコンの【PC電源】からパソコンを終了することもできる

リモコンやキーボードの【PC電源】を押してもパソコンを終了することができます。
録画番組の視聴中など、パソコンの画面から離れているときにリモコンで操作してください。

録画番組の視聴中やほかのアプリケーションを起動しているときは、【アプリ終了】を押して、終了させてください。

Windowsをシャットダウンする

長期間パソコンを使わないときなどは、Windows Vistaを終了し、Windowsをシャットダウンします。次回起動するときにスリープ状態より時間がかかりますが、消費電力を抑えることができます。Windowsをシャットダウンしても、主電源が入っている場合は、予約録画をおこなうことができます。

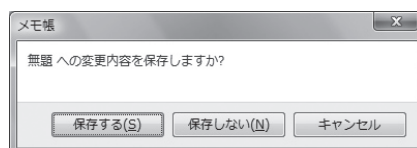
1 画面を見ながら操作して、「シャットダウン」をクリックする

2 電源が切れたことを確認する

数秒後に、画面が暗くなり、PC電源（PC Power）ランプが消えます。

Windowsをシャットダウンしても電源は完全に切れません。主電源（Main Power）ランプが点灯しているときは、電源コードを抜かないでください。

シャットダウンするまでに少し時間がかかることも

パソコンの状態によっては、「シャットダウン」をクリックした後、シャットダウンするまでに数秒以上の時間がかかることもあります。あわてずにお待ちください。

保存していない文書があるとき

ソフトを使って文書などを作成している場合、文書を保存しないでシャットダウンしようとすると、画面にメッセージが表示されることがあります。
そのままにしていると、数秒後、画面が暗くなり、メッセージが表示されます。
作成した文書などを保存したい場合、「次のプログラムが実行中です」の画面が表示されたら「キャンセル」をクリックしてください。使用中のソフトで文書などを保存してからシャットダウンするようにしましょう。

続けてWindowsを起動するときは

いったんシャットダウンしてから再度Windowsを起動するときは、シャットダウンしてから5秒以上待ってPC電源（PC Power）スイッチを押してください。

マウスの操作でシャットダウンできないとき

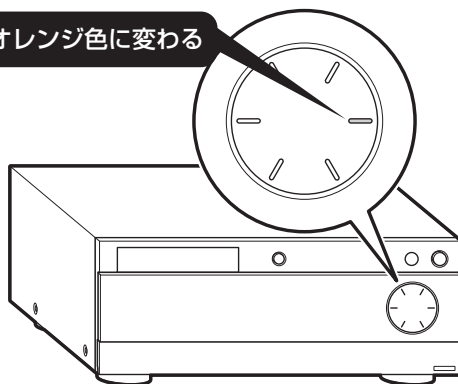
画面の表示が動かなくなったり、操作の途中でマウスやキーボードが反応しなくなったりして、Windowsをシャットダウンできなくなってしまうことがあります。その場合、PC電源（PC Power）スイッチを4秒以上押し続けると、強制的にシャットダウンすることができます。強制的にシャットダウンしたときは、5秒以上待ち、もう一度PC電源（PC Power）スイッチを押して再度Windowsを起動してください。Windowsが起動したら、改めてマウスの操作でシャットダウンしてください。

- 強制的にシャットダウンする場合は、CD/ハードディスクアクセス（Disk）ランプやメディアアクセスランプなどが点灯していないことを確認してください。また、各種メディアは取り出しておいてください。
- PC電源（PC Power）スイッチを押し続けて強制的にシャットダウンすると、パソコンに負担がかかります。何度も繰り返すと、パソコンが起動しなくなってしまうこともあるため、この方法でシャットダウンすることは、できるだけ避けてください。

主電源を切る

パソコン本体を移動するときなど、電源コードを外す必要があるときは、Windowsをシャットダウンした後、主電源を切ります。

主電源を切った状態では、録画予約があった場合に実行されません。通常、このパソコンを使用しないときは、主電源は切らずにWindowsをスリープ状態、もしくはシャットダウンした状態にしておくことをおすすめします。

1 フロントカバーを開け、主電源（Main Power）スイッチを約4秒、主電源（Main Power）ランプがオレンジ色になるまで押す

主電源（Main Power）ランプがオレンジ色に点灯している間は、コンセントを抜かないでください。

2 主電源が切れたことを確認する

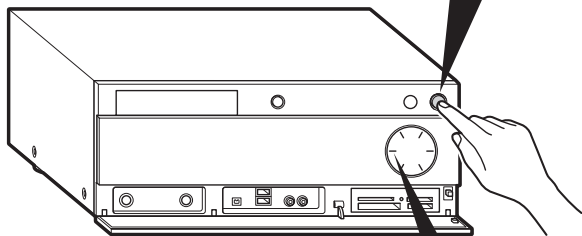
2～3分待つと、主電源（Main Power）ランプが消え主電源が切れます。

パソコンを使い始める

PC電源（PC Power）スイッチを押して使い始めます。

主電源を入れる

主電源を入れる方法については、第3章の「電源を入れる」(34ページ）をご覧ください。
通常は、主電源を入れたままにしておくことをおすすめします。

PC電源（PC Power）スイッチを押す

キーボードの電源スイッチ（⏻）を押しても、Windowsを起動したり省電力状態からもとに戻すことができます。省電力状態については次ページをご覧ください。
使う人の名前が画面に表示されるので、名前の上のアイコンをクリックしてください。Windowsのパスワードを設定している場合は、続けてパスワードも入力してください。

デスクトップ画面が表示されます。

モデルによって、表示される画面の絵柄が異なる場合があります。

周辺機器によっては、Windowsを起動する前に電源を入れないと認識されないものもありますのでご注意ください。

- **PC電源（PC Power）スイッチを押してから、デスクトップ画面が表示されて、CD/ハードディスクアクセス（Disk）ランプが点滅しなくなるまで、パソコンを操作したり、PC電源（PC Power）スイッチを押したりしないでください。無理にシャットダウンすると、故障の原因になります。**
- **シャットダウンした状態でPC電源（PC Power）スイッチを押しWindowsを起動した場合は、使う人の名前とアイコンは画面に表示されずにデスクトップ画面が表示されます。しかし、複数のユーザーを登録している場合、デスクトップ画面が表示される前に、使う人の名前を選択する画面が表示されます。**
- **シャットダウンされていたときや、休止状態になっていたときは、デスクトップ画面が出て、CD/ハードディスクアクセス（Disk）ランプが点滅しなくなるまでにすこし時間がかかります（長い場合5分、通常は1～2分程度）。**

省電力機能について

Windowsを使わないと、自動的に省電力状態になるようになっています。

20分以上使わないと自動的に画面が消える(ご購入時)

ご購入時には、Windowsを操作していない時間が続くと、自動的に省電力状態になるように設定されています。Windowsを使っていない時間によって、「ディスプレイの電源を切る」、「スリープ状態」の2つの段階があります。

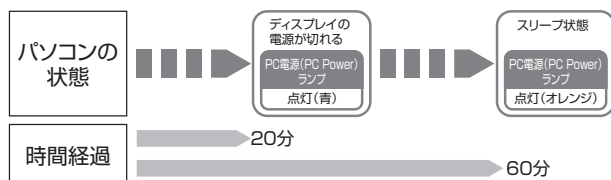
省電力状態について

それぞれの省電力状態は、次のように電力を節約します。

・ディスプレイの電源を切る
Windowsは起動したまま、ディスプレイの電源だけを切ります。通常よりも少し消費電力が下がります。

・スリープ状態
ハードディスクなどの電源を切り、消費電力を節約している状態です。パソコンの電源は完全には切れていません。作業中のデータがメモリに保存されているため、わずかに電力を消費しますが、スリープ状態を解除すると、すぐに作業の続きを始めることができます。

・休止状態
パソコンの状態や作業中のデータをハードディスクに保存して、Windowsを終了せずにハードディスクなどのほかにメモリの電源も切っている状態です。消費電力は、シャットダウンしたときとほとんど同じです。シャットダウンとは異なり、Windowsを終了していないため、休止状態からもとの状態に戻すときにWindowsが起動する時間は省かれます。ただしスリープ状態からもとの状態に戻すよりも時間がかかります。ご購入時の状態では「休止状態」になりません。「休止状態」になるように設定するには、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「省電力機能」をご覧ください。

パソコンを使っていない時間と省電力状態

ハイブリッドスリープについて

このパソコンでは、ご購入時の状態で「ハイブリッドスリープ」をおこなうように設定されています。「ハイブリッドスリープ」は、スリープ状態になるのと同時に、ハードディスクにも作業中のデータを保存します。これによって、スリープ状態のときに電源コードが抜けるなどしても、作業内容を失わずに再開できます。

ハイブリッドスリープは、使用しないように設定することもできます。設定方法については、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「省電力機能」をご覧ください。

暗くなった画面をもとに戻すには

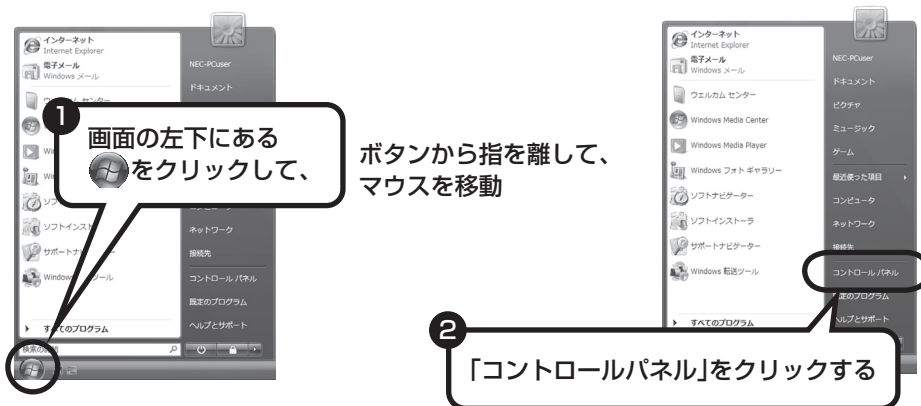
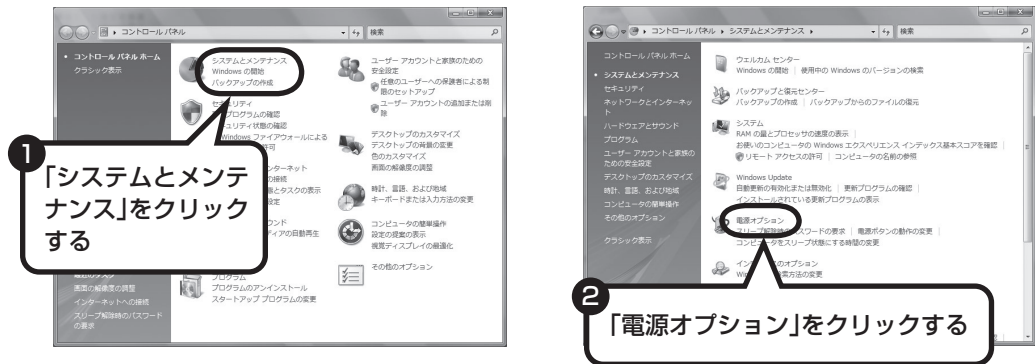
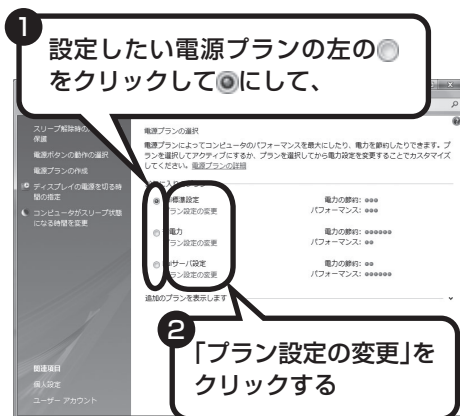
スリープ状態などで、暗くなった画面は、次の方法でもとに戻せます。

・PC電源（PC Power）ランプが点灯していて、画面が暗い場合
　ディスプレイが省電力状態になっていることが考えられます。この場合は、マウスを軽く動かしてください。
・PC電源（PC Power）ランプがオレンジ色に点灯していて、画面が暗い場合
　スリープ状態になっています。この場合は、マウスをクリックするか、キーボードのキー（【Shift】など）を押してください。電源スイッチを軽く1回押しても、もとに戻せます。
・PC電源（PC Power）ランプが消灯していて、画面が暗い場合
　休止状態、または電源が切れています。この場合は、PC電源（PC Power）スイッチを軽く1回押してください。

PC電源（PC Power）スイッチを押し続けないでください。4秒以上押し続けると、Windowsがシャットダウンしてしまいます。

自動的にスリープ状態にならないようにするには

次の手順で、自動的にスリープ状態にならないように設定を変えることができます。

1 コントロールパネルの画面を表示する

2「システムとメンテナンス」、「電源オプション」の順にクリックする

3 設定したい電源プランをクリックし、電源プランの下の「プラン設定の変更」をクリックする

画面左側の「コンピュータがスリープ状態になる時間を変更」をクリックして、現在選択されている電源プランの設定を変更することもできます。

4「コンピュータをスリープ状態にする」で「なし」に変更する

この画面で「ディスプレイの電源を切る」までの時間も設定できます。

これで、設定の変更は終わりです。

このほかに、「LuiStation設定ツール」で「Luiサーバ設定」を選択しても、スリープ状態にならないようになります。詳しくは、『録画・映像・音楽を楽しむ本』の「システム設定」-「電源を押したときの動作」をご覧ください。設定をもとに戻すには、「LuiStation設定ツール」で「Lui標準設定」を選択する必要があります。

省電力機能の詳しい説明は、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」で

スリープ機能は、このパソコンが備えている「省電力機能」のひとつです。詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「省電力機能」に説明があります。

よく使うボタンなど

ここでは、基本的なボタンなどにかぎって説明します。そのほかのボタンなどについて知りたいときは、巻末の「各部の名称」をご覧ください。

パソコン本体

DVD/CDドライブ

CD-ROMやDVD-Video、音楽用CDなどを楽しむときは、ここにセットします。

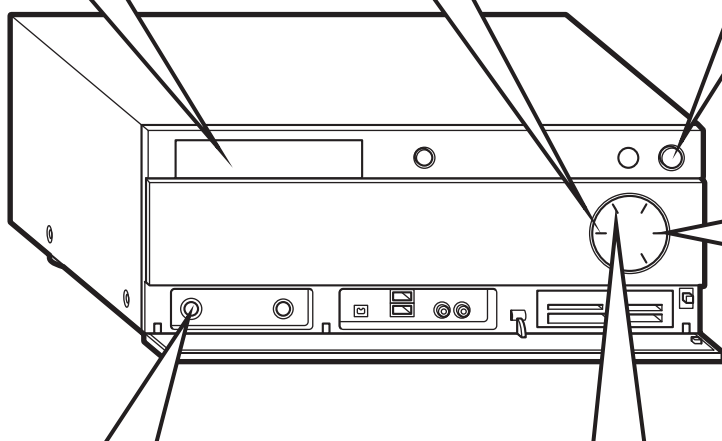
PC電源（PC Power）ランプ

Windowsが起動している間は青色に点灯するランプ。スリープ状態のときにはオレンジ色に点灯します。Windowsがシャットダウンしている間や休止状態のときは消灯します。

PC電源（PC Power）スイッチ

Windowsを起動するときに押します。主電源が入っていないと動作しません。

主電源（Main Power）ランプ

主電源が入っているときに青色に点灯するランプ。主電源（Main Power）スイッチを押してから主電源が入るまでの間や、主電源（Main Power）スイッチを押して主電源が切れるまでの間はオレンジ色に点灯します。

主電源（Main Power）スイッチ

このパソコンの主電源を入れるとき、または切るときに押します。

CD/ハードディスクアクセス（Disk）ランプ

CDやハードディスクを読み書きしているときに点滅・点灯します。点滅・点灯中は、電源スイッチや、DVD/CDドライブのディスクトレイイジェクトボタンを押さないでください。

ボリュームボタン

＋を押すと大きくなり、－を押すと小さくなります。消音を押すと音が消えます。

ワンタッチスタートボタン

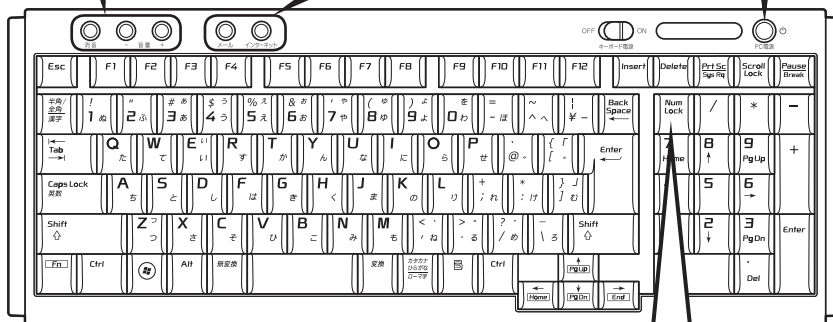
メール

メールを利用するためのソフトが始まります。

インターネット

ホームページを見るためのソフトが始まります。

電源スイッチ（⏻）

Windowsを起動するときや、省電力状態から復帰するときに押します。

【NumLock】

このキーを押すと、キーボード右上のマーク表示部に、ニューメリックロックのマーク（①）が表示されます。

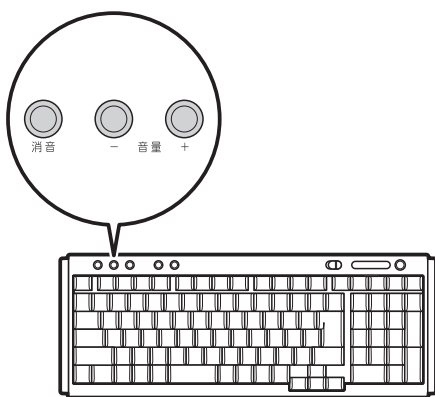
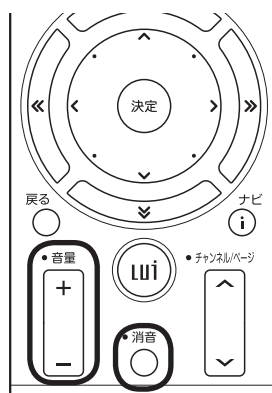
ニューメリックロックのマークが表示されているとき、キーボード右側にある、電卓のように並んだ数字キー(テンキー）で数字を入力できます。

音量を調節する

パソコンの音が大きすぎる、小さすぎると感じたときは、音量を調節できます。

キーボード、リモコンから調節する

＋を押すと大きくなり、－を押すと小さくなります。
消音を押すと、音声のオン/オフが切り換えられます。画面右下の通知領域にが表示されているときは音声が消え、が表示されているときは音声が聞こえます。

キーボード

リモコン

キーボード、リモコンから音量を変更するとき、起動しているソフトによっては、音量の表示が変わらない場合があります。

メモリーカードの扱い方

ここでは、メモリーカードを使うときの注意事項や、使用方法について説明します。

使用できるメモリーカードについて

このパソコンでは「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」、「メモリースティック」、「メモリースティックPRO」、「スマートメディア」、「コンパクトフラッシュ」、「マイクロドライブ」、および「xD-ピクチャーカード」を使うことができます。「miniSDカード」、「microSDカード」、「メモリースティック デュオ」、「メモリースティックPRO デュオ」、「メモリースティックPRO-HG デュオ」も使用できます。ただし、市販のアダプタが必要になります。

- メモリーカードやアダプタの形状、注意事項など、詳しくは「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンにつなげる」-「7メディア対応カードスロット」をご覧ください。
- すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。メモリーカードの説明書をよく読んでから使用してください。
- 大切なデータはハードディスクなどにコピーして、バックアップを取っておくことをおすすめします。
- メモリーカードを読み込めない場合は、メモリーカード内のファイルに対応するソフトがパソコンにあるかを確認してください。携帯電話の機種やダウンロードサービスの種類によっては、専用のソフトをパソコンにインストールする必要があります。
- 携帯電話からメモリーカードにダウンロードした音楽データなどは、普通にエクスプローラなどからパソコンにコピーしても利用できないことがあります。携帯電話の機種によって異なりますので、詳しくは携帯電話の説明書をご覧ください。

取り扱い上の注意

メモリーカードを取り扱う際は、次のことに気を付けてください。

使用について

・静電気による故障を防ぐため、静電気を放電してからメモリーカードを取り扱ってください。
・小型のメモリーカードなど、アダプタが必要なカードは、必ずアダプタを装着してください。
・メモリーカードは、方向を確認して取り付けてください。
・7メディア対応カードスロットには、対応以外のメモリーカードを挿入しないでください。
・メモリーカードの読み込み／書き込み中は、7メディア対応カードスロットからメモリーカードを取り出さないでください。
・メモリーカードや7メディア対応カードスロットの金属端子部分を触らないでください。
・裏面に通電性（電気を通す性質）がある金属が使用されているSDメモリーカード、SDHCメモリーカード、マルチメディアカードや変換アダプタは使用しないでください。
・汚れたメモリーカードは、汚れをとってから7メディア対応カードスロットに取り付けてください。

取り扱いについて

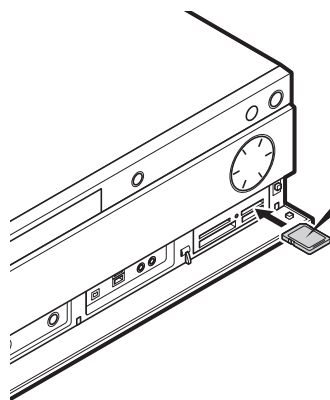
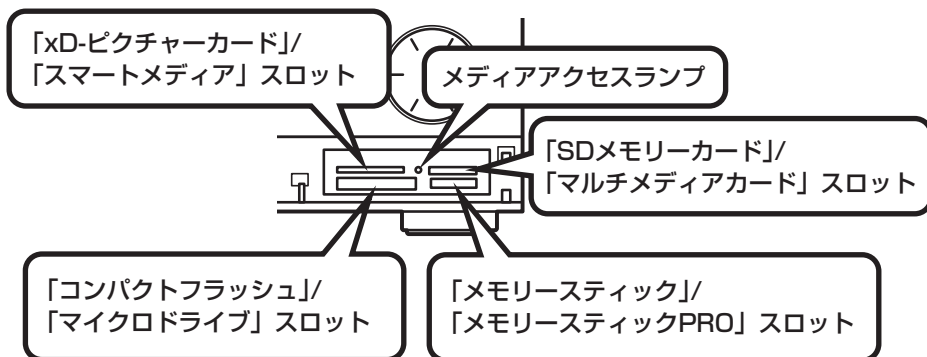
・分解しないでください。
・上に重いものを載せたり、曲げたりしないでください。
・溶剤類、飲み物などを近づけないでください。
・クリップなどではさんだり、投げたり、落としたりしないでください。
・ゴミやホコリが多い場所での使用は避けてください。

保管について

・使わないときは収納箱に入れて保管してください。
・直射日光の当たる場所、暖房器具の近くなど温度が高くなる所、ゴミやホコリが多い所に置かないでください。
・長期期間使用しないときは、メモリーカードやアダプタを、7メディア対応カードスロットに取り付けたままにしないでください。
・メモリーカードには、添付の指定ラベル以外を貼らないでください。
・メモリーカードには、指定の貼付箇所以外にラベルを貼らないでください。

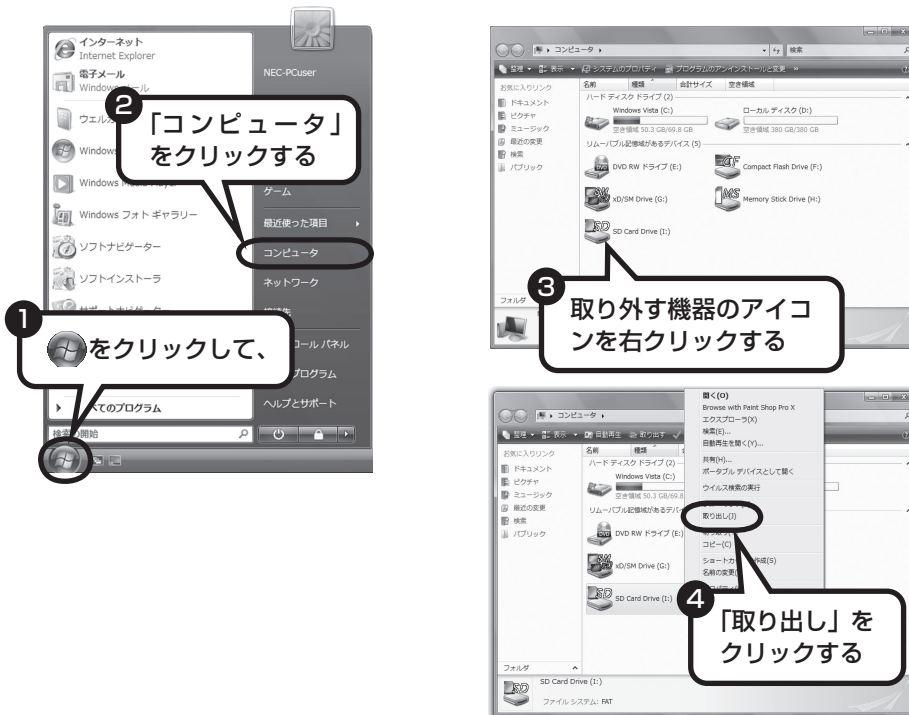
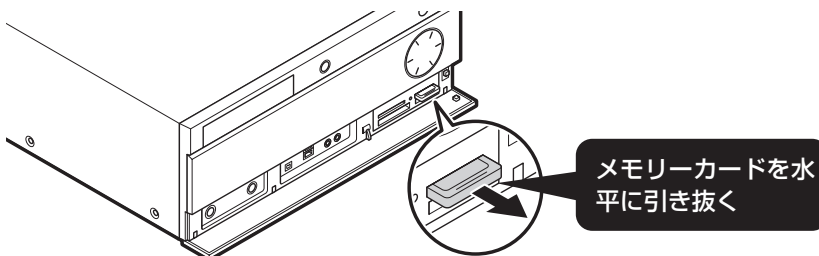
・Windows上でメモリーカードのフォーマットやディスクデフラグをおこなわないでください。
・メモリーカードにデータを保存中または読み込み中に周辺機器を接続しないでください。また、データの保存中はスリープ状態にしないでください。メモリーカード内のデータが破損したり誤動作の原因になります。

1 本体前面のカバーを開けて、メモリーカードを差し込む

- 本体前面のカバーの開け方は、「電源を入れる」(34ページ) の手順3をご覧ください。
- 「miniSDカード」、「microSDカード」、「メモリースティック デュオ」、「メモリースティックPRO デュオ」、「メモリースティックPRO-HG デュオ」を使う場合は、アダプタに差し込んでおいてください。アダプタの装着方法について詳しくは、メモリーカードまたはアダプタの説明書をご覧ください。
- メモリーカードには表面と裏面があり、スロットへ差し込む方向が決まっています。間違った向きで無理に差し込むと、カードやスロットが破損することがあります。詳しくは、メモリーカードの説明書をご覧ください。

メモリーカードをセットしたとき、「自動再生」の画面が表示されることがあります。表示された項目を選ぶと、フォルダを開いてファイルを表示したり、ソフトを使って画像を表示することができます。

2 メモリーカードを取り外す準備をする

メディアアクセスランプが消灯していることを確認してください。

メディアアクセスランプ点灯中は、メモリーカードを絶対に取り出さないでください。ドライブの故障やデータの不具合の原因になります。

3 メモリーカードを取り外す

CD-ROMやDVDの扱い方

CD-ROMやDVDなどをパソコンで楽しむときの取り扱い上の注意、入れ方と出し方を説明します。

- ブルーレイディスクドライブモデルで使用できるブルーレイディスクも、CDやDVDと同じように扱います。
- ラベルやテープが貼られているなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、使用時の振動や故障の原因になります。
- このパソコンにインストールされているOS以外のOSに対応したCDやDVDは、使えないものがあるため、ご購入前に確認してください。
- 使用するディスクによっては、最高速度で書き込み、読み込みができない場合があります。
- このパソコンで使えるディスクについて詳しくは、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「ブルーレイディスク/DVD/CDドライブ」をご覧ください。

ディスクを取り扱うときの注意

次の注意事項を守ってください。

- データ面（文字などが印刷されていない面）に手を触れない。
- ディスクにラベルを貼ったり、傷つけたりしない。
- ラベル面に文字を書くときは、フェルトペンなどペン先の柔らかいものを使う。
- ディスクの上に重い物を載せない。ディスクを曲げたり落としたりしない。
- 汚れたときは、柔らかい布で内側から外側に向けてふく。
- 汚れが落ちにくいときは、CD専用のスプレーを使う。
- ベンジン、シンナーなどは使わない。
- ゴミやホコリの多い場所で使わない。
- 直射日光の当たる場所や湿度の高い場所に保管しない。

1 イジェクトボタンを押してディスクトレイを出す

ディスクトレイは、Windowsが起動しているときのみ出し入れできます。

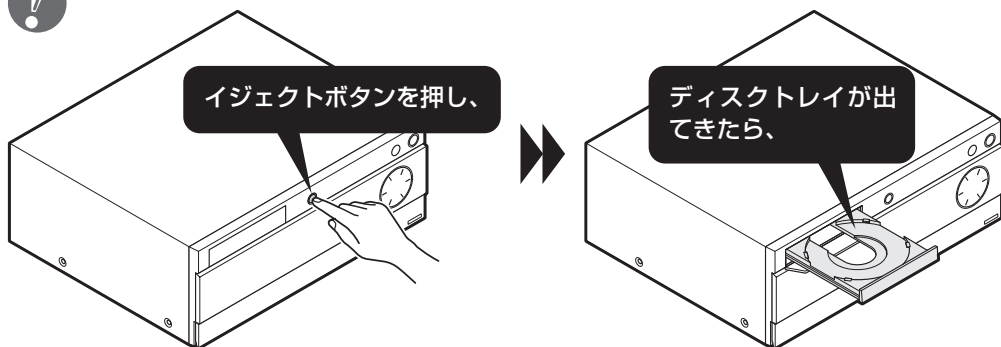
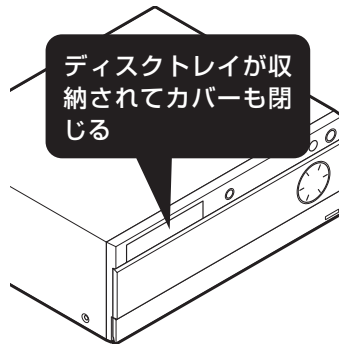
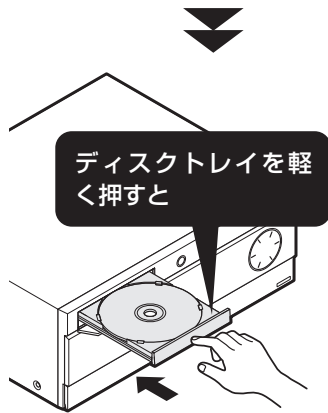
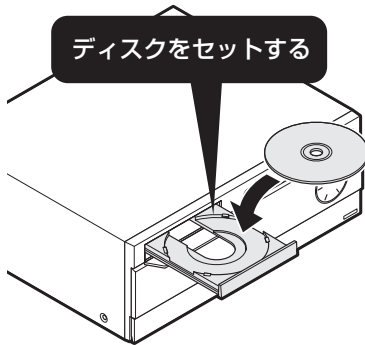
イジェクトボタンを押し、

ディスクトレイが出てきたら、

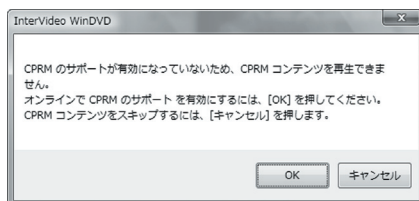
2 ディスクを入れる

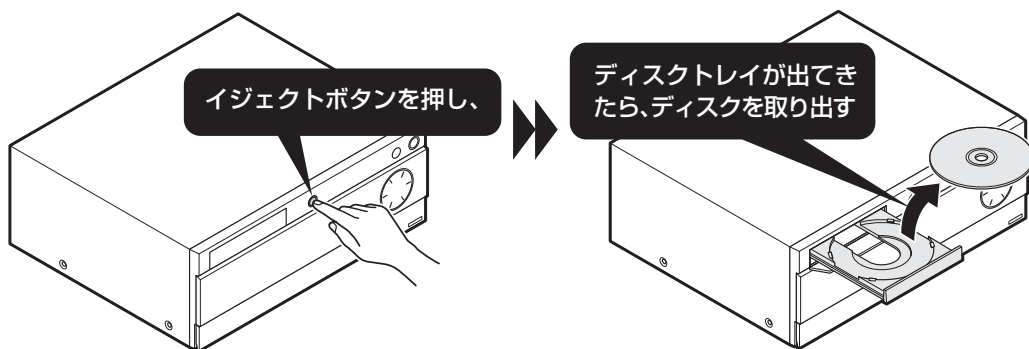
ディスクをセットする

ディスクトレイを軽く押すと

ディスクトレイが収納されてカバーも閉じる

ディスクトレイを軽く押す代わりに、イジェクトボタンを押してディスクを収納することもできます。

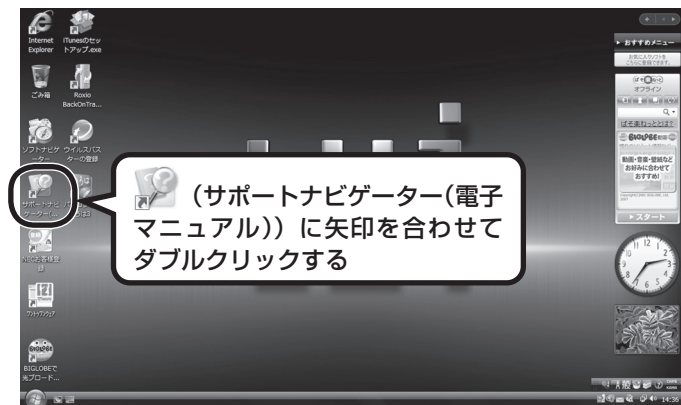
こんな画面が表示されたら

DVD/CDドライブにディスクを入れた直後に次の画面が表示された場合は、「OK」をクリックして「WinDVD for NEC」、「WinDVD BD for NEC」でCPRMコンテンツを再生するためのデバイス鍵をダウンロードしてください。
CPRM Packのアップデート手順について詳しくは、「付録」の「CPRMのアップデート」(128ページ)をご覧ください。

- **CPRM Packのアップデートをするには、インターネットに接続する必要があります。**

3 ディスクを取り出す

ディスクを取り出したら、ディスクトレイを軽く押すか、イジェクトボタンを押してください。ディスクトレイが収納されてカバーが閉じます。

パソコンの画面で解説、検索「サポートナビゲーター」

紙で見るマニュアルのほかに、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」があります。このパソコンのさらに詳しい使い方を知りたいとき、パソコンを使っていて困ったときに見てみましょう。

サポートナビゲーターを起動する

「サポートナビゲーターの使い方」のムービーが表示された後、「サポートナビゲーター」の最初の画面が表示されます。

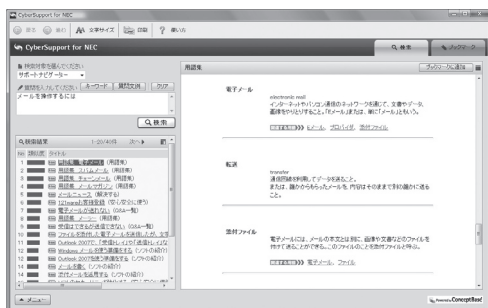
ムービーは、終了をクリックして省略することもできます。

目的に応じて3つの入り口があります。これから知りたいこと、やろうとしていることに合わせて、ボタンをクリックしてください。

▶ 安心安全に使う	インターネットを安心して使うためのウイルス対策やセキュリティの設定などについて説明しています。
▶ 使いこなす	Windowsの便利な使い方、このパソコンに入っているソフトの使い方、このパソコンの各部の機能や設定についての詳しい情報など、一歩進んだ使い方を説明しています。
▶ 解決する	うまくいかないときや、故障かな？と思ったときに利用してください。サポート窓口への問い合わせ方なども説明しています。

知りたい項目を検索してみる

知りたい項目が見つからないときは、キーワードを入力して検索してみましょう。

選んだ検索範囲の中から、入力したキーワードが含まれる項目が検索されます。

はじめて検索するときは、CyberSupportの「使用許諾契約書」が表示されます。内容をよく読み、「同意する」をクリックしてください。その後、パソコンが検索するための設定をおこないますので、結果が出るまで少しお待ちください。
次回からは、すぐに結果が出るようになります。

詳しい機能については「パソコン各部の説明」

このパソコンのいろいろな部分の機能や使い方を知ろう

このパソコンのボタンやドライブについて、詳しく知りたいときには、「パソコン各部の説明」を見てみましょう。たとえば、次のような機能や使い方について知ることができます。

・ 光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力端子
  AVアンプなどのデジタル入力機能を持ったオーディオ機器を接続し、音楽などを楽しむことができます。

・ IEEE1394（DV）コネクタ（4ピン）
  デジタルビデオカメラなどのデジタルビデオ機器を取り付けて、映像の取り込みや編集、ほかのデジタルビデオ機器への出力ができます。

ほかにも、「パソコン各部の説明」では、このパソコンの便利な設定の方法についても詳しく説明しています。

「パソコン各部の説明」を見るためには

❶「使いこなす」をクリックする

「パソコン各部の説明」の画面が表示されます。画面左のしおりをクリックすると、ほかのページを見ることができます。

もしものときに備えて

ポイント

● バックアップ、再セットアップディスク、パスワードでもしもに備える

大切なデータはバックアップを取る

バックアップとは

パソコンに内蔵されているハードディスクには、大切なデータが保存されています。このハードディスクは、ちょっとした衝撃によって壊れたり、長期間使用するうちに突然動かなくなったりすることがあります。このような場合、ハードディスクを交換したり再セットアップすることでパソコンをご購入時の状態に戻すことはできますが、大切なデータが失われてしまいます。万一のアクシデントに備えて、データの控えを残しておきましょう。このデータの控えのことを「バックアップ」と呼びます。

DVD-RやCD-Rなどにもバックアップを取っておく

このパソコンに搭載されている「バックアップ・ユーティリティ」というソフトを使って、バックアップを取ることができます。「バックアップ・ユーティリティ」の使い方について詳しくは、『パソコンのトラブルを解決する本』の「もしものときに備えて(バックアップ)」-「バックアップ・ユーティリティでバックアップ/復元する」をご覧ください。

ただし、ハードディスクのDドライブという場所にバックアップを取っておいても、ハードディスク自体が故障したときは、データをもとに戻すことができません。別売のDVD-RやCD-Rなどにもバックアップを取っておくことをおすすめします。

- セキュリティ機能を使用してデータのバックアップを取る場合、パスワードを控えておいてください。パスワードを忘れると復元できなくなります。
- セキュリティ機能を使用してDVDやCDにデータのバックアップを取る場合や、バックアップを取ったデータを参照・復元する場合、ハードディスクに一時的にデータをコピーする必要があります。そのため、バックアップを取ったデータのサイズに応じて、ハードディスクのいずれかのドライブに約0.9 ～ 50Gバイトの空き容量が必要です。
- 著作権を持つデータ(購入した音楽データなど)は、「バックアップ・ユーティリティ」を使ってバックアップを取ることができません。また、多くはエクスプローラなどでコピーしても利用できません。著作権を持つデータのバックアップは、そのデータを扱えるソフト(音楽データであれば、そのデータの購入に使用したソフト)でおこなってください。

ハードディスク全体のバックアップを取る

「Roxio BackOnTrack」というソフトを使うと、ハードディスク全体をDVDなどのディスクにバックアップを取ることができ、ドライブ全体を復元することができます。
またCドライブ全体をDドライブやDVDなどのディスクにバックアップすると、Dドライブのデータをそのままにして、Cドライブのみ復元することができるようになります（Cドライブのバックアップデータは Dドライブに取ることもできます）。
インターネットやメールの設定や、ソフトの設定など、すべておこなった状態をバックアップ/復元できるので便利です。
まずは、第5章または第6章の作業が終わり、インターネットの設定が完了した直後にハードディスクのバックアップを取っておくことをおすすめします。
そのほか、トラブルが起きたときのために、いろいろな設定が終わった状態のバックアップを取っておくとよいでしょう。
「Roxio BackOnTrack」は、「ソフトナビゲーター」-「パソコンの設定」-「ハードディスクを丸ごとバックアップ/復元する」-「BackOnTrack（災害リカバリ）」の「ソフトを起動する」をクリックして起動してください。

「Roxio BackOnTrack」の使い方については『パソコンのトラブルを解決する本』の「もしものときに備えて（バックアップ）」-「Roxio BackOnTrackでバックアップ/復元する」をご覧ください。

データを保存しておくだけでもバックアップになる

「バックアップ・ユーティリティ」を利用するほかに、大切なデータを定期的にDVD-RやCD-R、外付けのハードディスクなどに保存しておくだけでもバックアップの効果があります。

録画機能を使って録画した番組データのバックアップはできません。

再セットアップディスクを作成しておく

トラブルがどうしても解決できないときにおこなう「再セットアップ」は、通常、ハードディスク内にある再セットアップ用データを使います。しかし、ハードディスクが故障した場合は、この方法で再セットアップすることができなくなります。そのような場合に備え、再セットアップディスクを作成しておき、そのディスクから再セットアップすることができるようにしておきましょう。
再セットアップディスクを作成する方法については、『パソコンのトラブルを解決する本』の「再セットアップディスクを作成する」をご覧ください。

再セットアップディスクは、ご購入時の製品構成以外では、作成できないことがあります。

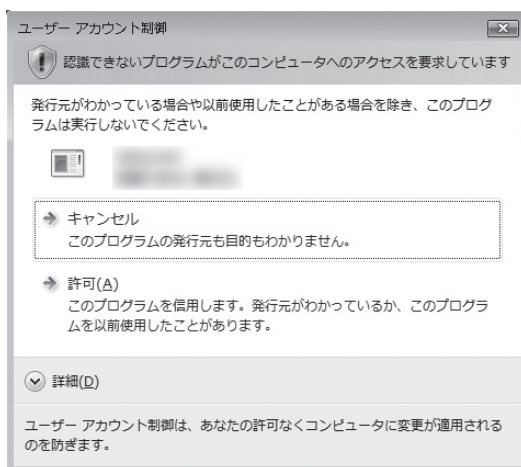
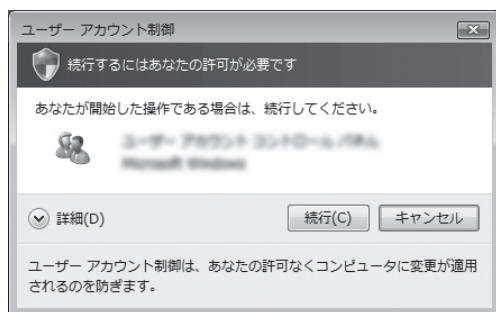
Windows起動時のパスワードを設定する

不正アクセス被害防止や情報の保護など、セキュリティ対策のため、Windows起動時にパスワードを入力する設定をしておくことをおすすめします。
手順については、「Windowsのパスワードを設定する」(60ページ)をご覧ください。

ユーザー アカウント制御について

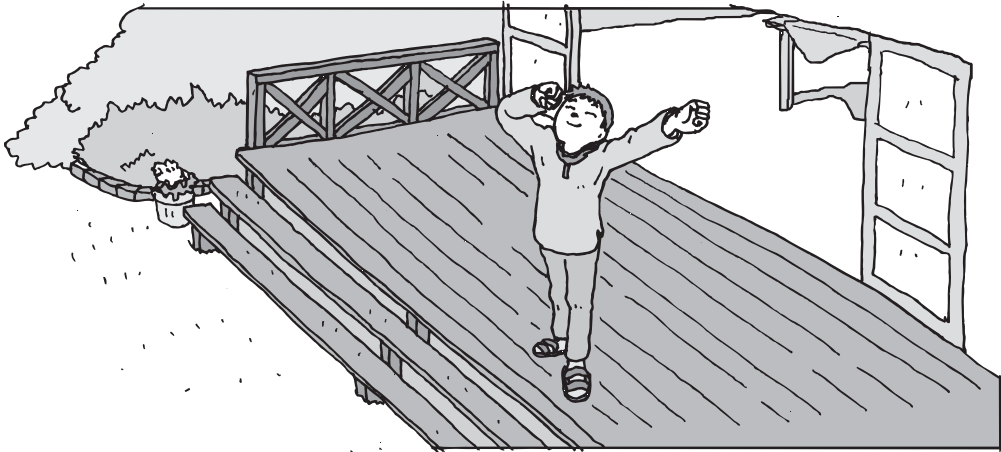
●「ユーザー アカウント制御」でパソコンを守る

内容をよく読んで操作する

ソフトを起動したり、操作しているときに、次のような「ユーザー アカウント制御」画面が表示されることがあります。
「ユーザー アカウント制御」は、パソコンのシステムに影響を及ぼす可能性のある操作がおこなわれたときに、その操作がユーザーの意図したものかどうかを確認するためのものです。コンピュータウイルスなどの「悪意のあるソフトウェア」からパソコンを守るために、「ユーザー アカウント制御」画面で表示された内容をよく読んで操作してください。

※プログラムによっては、メッセージが異なることがあります。

「ユーザー アカウント制御」画面で「管理者」ユーザーのパスワードが必要な場合があります。

第5章

インターネットに接続する

このパソコンをインターネットに接続してホームページを楽しんだり、メールをやりとりするための接続方法と設定方法について説明します。また、インターネットに接続した後のセキュリティの設定についても紹介しています。

インターネット接続について

インターネットを利用するための接続方法には、いろいろなものがあります。
高速なブロードバンド接続と、それ以外に大きく分けられます。

ブロードバンド接続

大容量のデータを送受信するためには、ブロードバンド接続が便利です。このパソコンでセーフコネクト機能を使い、外出先のパソコンと通信する場合は、ブロードバンド接続が必要になります。

FTTH(エフティーティーエイチ)

光ファイバーを使ってインターネット接続をする方法です。回線事業者によってサービスの名前が異なります（Bフレッツなど）。
ほかのブロードバンド接続よりも高速な通信をおこなえます。また、受信だけではなく送信速度も高速なため、大きなデータのやりとりに向いています。
光ファイバーを家の中に引き込むための工事が必要になる場合があります。

ADSL(エーディーエスエル)

家庭にあるアナログ回線（一般の電話回線）を使って、インターネット接続をする方法です。いくつかの回線事業者がサービスを提供していて、回線速度もサービスごとに異なります。
サービスの提供地域が広く、アナログ回線を利用するため、手軽にブロードバンドを利用できます。

CATV(ケーブルテレビ/シーエーティーブイ)

ケーブルテレビ会社の回線を使ってインターネット接続をする方法です。インターネットと同時に、ケーブルテレビ放送なども利用できます。回線速度やサービスは、各CATV業者によって異なります。

セーフコネクト機能について詳しくは、「第7章　このパソコンのおすすめ機能」をご覧ください。

そのほかの接続

ダイヤルアップ接続

一般の電話回線を使ってインターネットに接続する方法です。電話回線があれば、電話回線ケーブル（モジュラケーブル）を用意するだけでインターネットに接続できます。

回線速度がほかの接続と比べてきわめて遅いため、動画など、サービスによっては利用できないことがあります。また、インターネット利用中は電話を使用できません（電話をかけてきた相手には、話し中になります）。

このパソコンでは、ダイヤルアップ接続は利用できません。

ISDN（アイエスディーエヌ）

NTTのデジタル回線、ISDNでインターネットに接続する方法です。アナログ回線よりも少しだけ高速になります。また、電話とインターネットを同時に利用できます。ダイヤルアップ接続と同じように、動画など、サービスによっては利用できないことがあります。

プロバイダに入会する

プロバイダとは、インターネット接続業者のことです。まだどこにも入会していない場合、BIGLOBEに入会することをおすすめします。

BIGLOBEに入会する

インターネットプロバイダBIGLOBEでは、お電話で入会申し込みを受け付けております。

BIGLOBE電話で入会センター（受付時間9:00 ～ 21:00　365日）

フリーコール 0120-15-0962

※ 電話番号はおかけ間違えのないようにご注意願います。

※ 携帯電話、PHSからもご利用になれます。

そのほかのプロバイダに入会する

BIGLOBE以外にもさまざまなプロバイダがあります。入会方法については、各プロバイダにお問い合わせください。

ブロードバンド接続の設定

ブロードバンドの通信回線が開通したら、パソコンを通信回線に接続して、設定をおこないます。

お使いの機器やプロバイダにより設定は大きく異なります。プロバイダから入手した説明書や、プロバイダのホームページなどで設定を確認してください。

必要なもの

回線事業者やプロバイダから入手した資料

プロバイダの会員証など、ユーザー名やパスワードがわかる資料を用意してください。また、回線事業者から入手した接続設定用マニュアルやCD-ROMなどがある場合、そのマニュアルやCD-ROMにしたがって設定をおこなってください。

LANケーブル

回線終端装置などに添付されていなければ、LAN(ラン）ケーブルをお買い求めください｡LANケーブルには「ストレートケーブル」と「クロスケーブル」の2種類があります。パソコンと回線終端装置などのインターネット接続機器をつなぐときは、ストレートケーブルを使用してください。

インターネット接続機器

ブロードバンド回線の種類によって次のような機器が必要です。詳しくは、入会申し込みの時点でプロバイダにご確認ください。

・ FTTH：回線終端装置（回線工事で設置）

・ ADSL：ADSL モデム

・ CATV：ケーブルモデム（CATV 開通工事で設置）

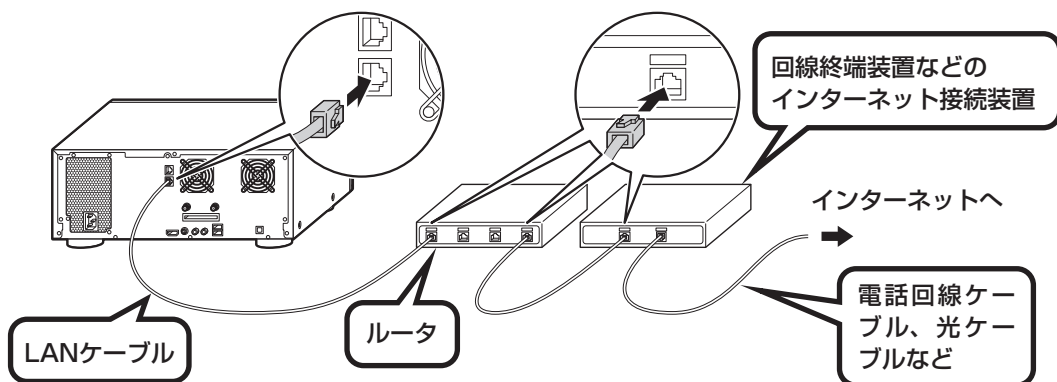
ルータを使う場合

ルータを使う場合は、さらに次の機器や資料が必要になります。セーフコネクト機能を使用する場合は、このパソコンをルータに接続する必要があります。

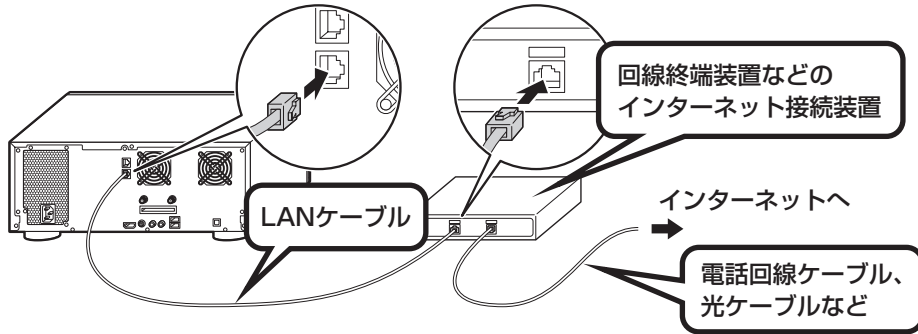
・ ルータ

・ ルータに添付されているマニュアル

図のように接続する

ルータを利用する場合

ルータとパソコンを接続したら、ユーザー名やパスワードなどの接続情報をルータに設定、登録してください。詳しくは、ルータのマニュアルやプロバイダから入手した説明書、資料をご覧ください。

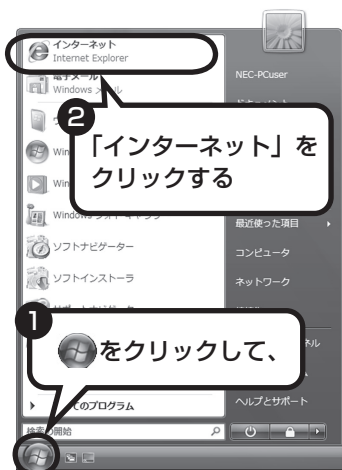
・LANケーブルは、上下二段のコネクタのうち、下のコネクタに接続してください。
・ルータタイプのADSLモデムは、パソコンに直接接続します。
・ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。
・コネクタ部が高温になっている場合がありますので、注意してください。
・ルータ設定を完了およびLANケーブルを接続したら、一度、Windowsをシャットダウンし、主電源を切ってください。その後、主電源を入れ、Windowsを起動しなおしてください。

ルータを利用しない場合

・LANケーブルは、上下二段のコネクタのうち、下のコネクタに接続してください。
・ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。
・コネクタ部が高温になっている場合がありますので、注意してください。
・ルータを利用しない場合、セーフコネクトが利用できません。ご利用になる場合は別途ルータをご利用ください。

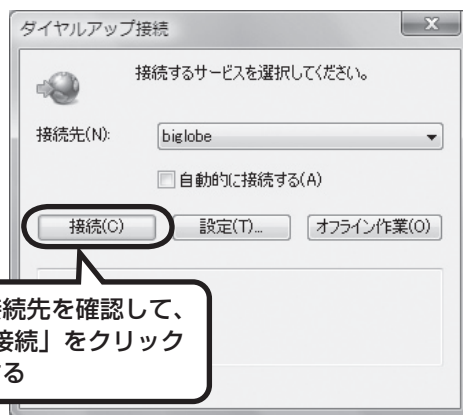
ケーブルを接続したら、インターネットへの接続設定をおこないます。設定方法について詳しくは、ご加入のプロバイダや回線事業者から入手した資料をご覧ください。

インターネットに接続する

インターネットに接続できるか
確認しましょう。

1 Internet Explorerを起動する

ルータを利用しない場合

次の接続用画面が表示されます。

「接続」をクリックすると、Internet Explorer(インターネットエクスプローラ）が起動して、プロバイダのホームページなどが表示されます（設定によっては、パスワードを入力する画面が表示されます)。

ルータ、ルータタイプのADSLモデムを利用している場合

ルータ、ルータタイプのADSLモデム、ワイヤレスLANルータを利用している場合、接続用の画面は表示されず、直ちにInternet Explorerが起動して、プロバイダのホームページなどが表示されます。これは、パソコンの電源を入れると自動的にインターネットに接続されるためです。

インターネットから切断するときは、次の方法で操作します。

・ルータを利用していない場合
画面右下の通知領域の を右クリックして表示されるメニューから、「切断」を選び、切断する接続をクリックします。

・ルータを利用している場合
利用しているネットワークを無効にします。詳しくは、 「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「LAN」の「ネットワークから切断する」をご覧ください。

これで、インターネット接続の設定は終わりです。

パソコンを安全に使うための設定をおこなう

ポイント
- セキュリティ対策をしっかりと
- ウイルス対策ソフトを最新の状態に

パソコンやインターネットを安全に使うために

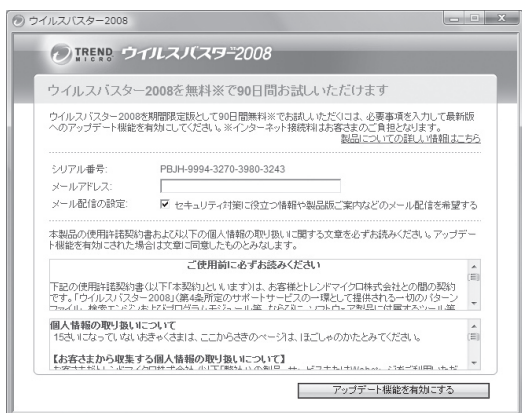
パソコンの誤動作や内部のデータ破壊を引き起こす、ウイルスなどの不正プログラムの被害が多くなっています。電子メールのやりとり、インターネット経由のソフト入手、他人から受け取ったディスクの使用などが原因になって、知らないうちに不正プログラムがパソコンに侵入することもあります。これらの被害を防ぐには、定期的な対策が必要です。

パソコンをウイルスから守るために（1）

ウイルスとは、パソコンに誤動作やデータの破壊などのトラブルを引き起こす不正プログラムのことです。インターネットやメールからパソコンに入り込んだり、CDやDVD、各種メモリーカードなどのメディアから感染する場合もあります。
ウイルスによる被害は、自分のパソコンのデータが破壊されたり個人情報が流出したりするだけでなく、ほかの人へ大量の電子メールが自動的に送信されることもあります。自覚がないまま加害者になり得る可能性もあるのです。

「ウイルスバスター」を最新の状態に更新する

このパソコンには、ウイルス対策ソフト「ウイルスバスター」が入っていて、パソコンをウイルスから守ることができます。しかし、ウイルスは日々新しいものが出てくるので、新しいウイルスに対応するために、ソフトを常に最新の状態に更新（「アップデート」といいます）してウイルスチェックをしなければなりません。

このパソコンの「ウイルスバスター」では、ユーザー登録をおこなった日から90日間、無料でアップデートをおこなうことができます。90日間の無料期間を過ぎると、すべての機能が利用できなくなり、セキュリティ対策をおこなうことができません。無料期間終了後も継続してご利用いただくには、ダウンロード販売またはパッケージなどで製品版を購入し、ライセンスキーを入力していただく必要があります。
有料のサービスについて詳しくは、無料サービスの開始時に登録したメールアドレス宛に配信されるメールなどの案内をご確認ください。

アップデートするには、インターネット接続の設定が必要です。インターネット接続の設定についてはこの章をご覧ください。

アップデートのしかた

パソコンをご購入後、アップデートする場合は、まずインターネットに接続して、90日間無償サポートを受けるため、ユーザー登録をおこなう必要があります。

パソコンをご購入後、はじめてインターネットに接続してから3日間はユーザー登録をしていなくても自動的にアップデートがおこなわれます。

インターネット接続の設定が終わった後、画面右下のを右クリックして、「アップデート開始」をクリックしてください。画面右下に「アップデート機能を有効にしてご利用ください」というメッセージが表示されるので、「次へ進む」をクリックしてください。表示された画面で必要事項を記入してから、「アップデート機能を有効にする」をクリックしてください。

左の画面は、デスクトップの(ウイルスバスターの登録)をダブルクリックしても表示されます。

登録のしかたや、アップデートの方法などの詳しい手順については、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「安心安全に使う」-「ウイルス感染の防止」-「ウイルス対策ソフトを使い始める」をご覧ください。

パソコンをウイルスから守るために（2）

ウイルスの侵入を常にチェックする

「ウイルスバスター」には、ウイルスの侵入を常に監視する機能があります。その機能を「ウイルス/スパイウェアの監視」といいます。「ウイルス/スパイウェアの監視」を有効にしている間は、ウイルスの侵入が自動的に監視されます。
ご購入時の状態では、ウイルスの侵入を常に監視する（「ウイルス/スパイウェアの監視」が有効）設定になっています。通常はこの状態でお使いください。画面右下のを右クリックして表示されるリストの「ウイルス/スパイウェアの監視」左側にが付いていないときは「ウイルス/スパイウェアの監視」は無効です。が付いているときは有効です。
「ウイルス/スパイウェアの監視」を有効にしている間は、ウイルスの検査が頻繁におこなわれるため、ほかのソフトの動作が遅くなることがあります。ウイルスに対して安全な状況であるとわかっている場合、「ウイルス/スパイウェアの監視」を一時的に無効にすることができます。
また、パソコンや周辺機器の設定、インターネット接続の設定をするときなどに、ウイルスチェックを停止するよう指示が表示される場合があります。その場合も、「ウイルス/スパイウェアの監視」を一時的に無効に設定してください。
「ウイルス/スパイウェアの監視」の有効/無効設定について詳しくは、「サポートナビゲーター」-「安心安全に使う」-「ウイルス感染の防止」-「ウイルスを見張る」をご覧ください。

その他のウイルス対策ソフトを使う

「ウイルスバスター」以外のウイルス対策ソフトを使うこともできます。

「ウイルスバスター」以外のウイルス対策ソフトを使用する場合は、必ず「ウイルスバスター」を削除（アンインストール）してください。削除方法については、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「ソフト一覧」-「ウイルスバスター」の「追加方法と削除方法」をご覧ください。

お子様を有害ホームページから守るために

インターネットにアクセスすると、さまざまなホームページを閲覧できます。しかし、有害な情報や違法情報を含むホームページもあります。
このようなホームページへのアクセスを自動的に遮断してくれるフィルタリング機能を使うことをおすすめします。
フィルタリングには、パソコンにフィルタリングソフトを追加して利用する方法と、インターネットプロバイダのフィルタリングサービスを利用する方法があります。お使いのプロバイダがフィルタリングサービスをおこなっているかは、各プロバイダにお問い合わせください。
利用者それぞれに適した設定ができるため、お子様も安心してインターネットを楽しめるようになります。
詳しくは、「サポートナビゲーター」-「安心安全に使う」-「安全に使うためのポイント」-「お子様を有害ホームページから守るために」をご覧ください。

第6章

前に使っていたパソコンと一緒に使いたいかたへ

ここでは、前に使っていたパソコンと一緒に使うためにホームネットワークを構築する設定について説明します。また、前に使っていたパソコンからこのパソコンへソフトや周辺機器を移行する際の注意事項についても記載しています。

複数のパソコンを ホームネットワークでつなぐ

「ホームネットサポーター」が利用できる条件や、設定の進め方について説明します。

ホームネットワークを構成するために必要な機器

ホームネットワークは、LAN(Local Area Network)の一種です。LANを構成するには、パソコン同士やプリンタなどを接続するための中継機器が必要になります。中継機器にはHUB、またはルータがあります。ホームネットワークとインターネットとの中継にも利用する場合には、ルータを使用します。

「ホームネットサポーター」の利用条件

「ホームネットサポーター」を使用するには、次の条件を満たしている必要があります。

接続したいパソコンのOSが次のいずれかに該当すること

・Windows Vista Ultimate(Service Pack 1 を含む)
・Windows Vista Home Premium(Service Pack 1 を含む)
・Windows Vista Home Basic(Service Pack 1 を含む)
・Windows Vista Business(Service Pack 1 を含む)
・Windows XP Professional Service Pack 2
・Windows XP Home Edition Service Pack 2
・Windows XP Media Center Edition 2005

接続したいパソコンの OS が上記以外の場合、「ホームネットサポーター」は利用できません。

ご利用の回線がFTTHまたはADSLであること

ISDN、CATV をご利用の場合、「ホームネットサポーター」は利用できません。

はじめてインターネットに接続する場合

あらかじめインターネットの接続設定を手動でおこなった後、ホームネットサポーターを利用してください。

「ホームネットサポーター」が利用できないとき

パソコンの OS や通信回線などが上記の条件に該当しないときは、手動でネットワークの設定をおこなう必要があります。詳しくは、パソコンの画面で見るマニュアル 「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「LAN」をご覧ください。

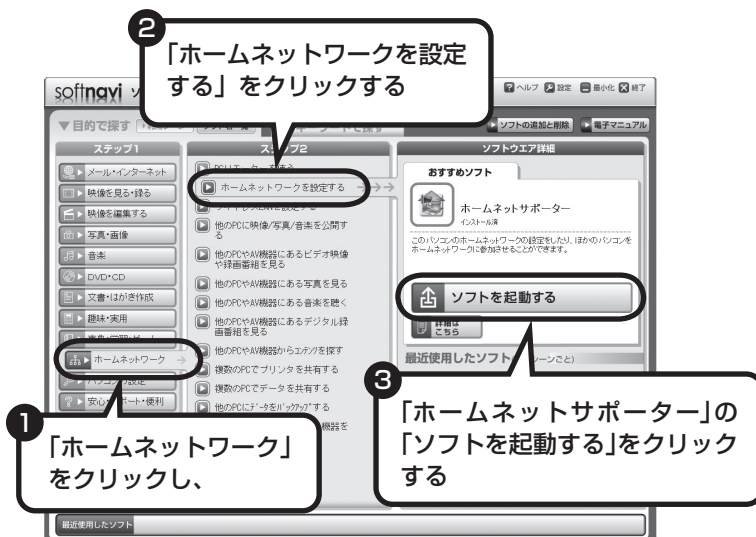
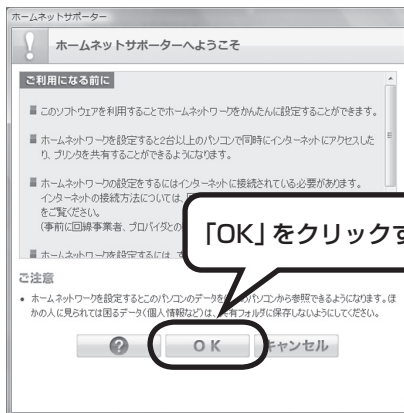
1 「ホームネットサポーター」を使う準備をする

未使用のディスク（CD-R、CD-RW、DVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RW、DVD-RAM）を1枚用意します。
ホームネットワークに接続するほかのパソコンに、「ホームネットサポーター」をインストールするディスクを作成します。

複数のユーザーでパソコンを使用している場合は、管理者のユーザーでログオンしてください。ほかのユーザーはログオフしてください。

2 「ホームネットサポーター」を起動する

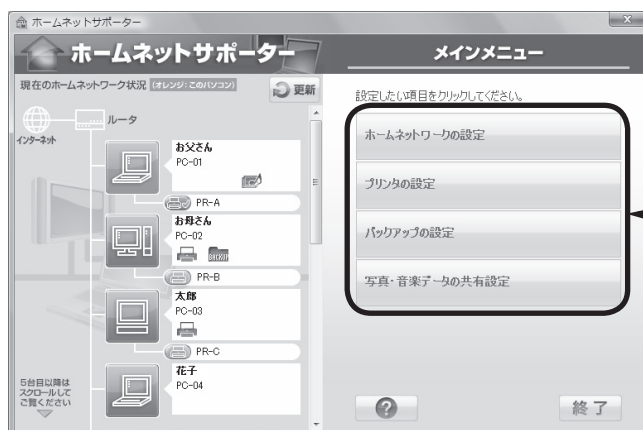
デスクトップ画面の（ソフトナビゲーター）をダブルクリックします。

手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。

「ホームネットサポーターへようこそ」の画面が表示されます。

「インストールメディア」を作成する画面が表示されます。画面の説明を見て、インストールメディアを作成し、ホームネットワークの初期設定をしてください。設定が終わると次の画面が表示されます。

ソフトナビゲーターとは

このパソコンに入っているソフトを見つけたり、使い始めるときに利用します。
「ソフトナビゲーター」では、画面左の「ステップ1」からやりたいことのジャンルをクリックして、「ステップ2」でやりたいことの内容をクリックすると、必要なソフトが自動的に選ばれます。選ばれたソフトの「ソフトを起動する」をクリックすると、ソフトを使い始められます。

3 ホームネットワークを設定する

メインメニューから設定したい項目をクリックし、画面に表示される説明を読みながら、設定を進めてください。

メインメニューからは次の設定をおこなえます。

・ホームネットワークの設定

・プリンタの設定

・バックアップの設定

・写真・音楽データの共有設定

インストールされているソフトやその他の条件により、利用できる機能には違いがあります。また、パソコンのOSによっては、画面や設定手順が異なります。

ソフトの移行や周辺機器について

以前に使用していたパソコンにインストールされているソフトや、接続されていた周辺機器をこのパソコンで利用するときの注意点を説明します。

ソフトを移行する前に

Windows Vistaに対応していないソフトやドライバなどをインストールすると、不具合が起こる場合があります。十分な確認をおこなってください。

このパソコンに最新版が入っていないかチェック

このパソコンには、主要なソフトが入っています。これまで利用していたソフトの最新版や、同じ用途のソフトが見つかるかもしれません。

ソフトのマニュアルをチェック

ソフトに添付のマニュアルで、Windows Vistaに対応しているか確認してください。対応していない場合、このパソコンでは利用できません。

開発元のホームページもチェック

ソフトの開発元のホームページで、ご利用の製品についてのサポート情報も必ず確認してください。Windows Vistaに対応するための方法など、マニュアルよりも新しい情報がホームページで確認できることがあります。

ソフトの一般的な移行手順

必要な情報を確認する

マニュアルなどで、インストールに必要な情報を確認します。ユーザー名やライセンスキーなどが必要な場合は、それらの情報をメモしておきましょう。ソフトによっては設定を移行する機能を持つものがあります。その場合、マニュアルやホームページなどで移行方法を調べてください。

ライセンスとは

ソフトのメーカが購入者に対して許諾する、使用権を「ライセンス」と呼びます。ライセンスの条件にしたがわずにソフトを使用した場合は不正使用になり、著作権を侵害してしまうこともあります。ライセンスの内容を確認して、不正使用にならないようにアンインストールやインストールをおこなってください。

使用していたパソコンからソフトをアンインストールする

アンインストールの方法については、ソフトに添付のマニュアルをご覧ください。

このパソコンにインストールする・必要な設定をおこなう

マニュアルなどをご覧になり、このパソコンにインストールしてください。必要に応じて、インストール後の設定作業をおこなってください。

周辺機器を移行する前に確認が必要

Windows Vistaに対応していないソフトやドライバなどをインストールすると、不具合が起こる場合があります。十分な確認をおこなってください。

まずは、周辺機器のマニュアルでチェック

周辺機器に添付のマニュアルで、その機器がWindows Vistaに対応しているか確認してください。対応している場合、このパソコンとの接続方法や設定の手順についての説明をご覧ください。

メーカのホームページもチェック

周辺機器のマニュアルだけでなく、メーカのホームページで、ご利用の製品についてのサポート情報も必ず確認してください。マニュアルよりも新しい情報がホームページで確認できることがあります。Windows Vistaに対応した最新のドライバ（周辺機器を利用できるようにするためのソフト）がダウンロードできるときは、最新のドライバをお使いください。

周辺機器の一般的な移行手順

使用していたパソコンから周辺機器を取り外す

取り外しの手順については、周辺機器に添付のマニュアルや、使用していたパソコンに添付のマニュアルをご覧ください。

このパソコンに周辺機器を取り付け・接続する

USB接続する周辺機器などの場合、このパソコンに取り付け・接続する前に、ドライバなどをインストールしておく必要があることもあります。マニュアルなどで確認してください。

このパソコンで使用できるように設定する

周辺機器によっては、取り付け・接続するだけで使えるようになるものもあります。パソコンでの設定方法についても、マニュアルなどで確認してください。

周辺機器の動作確認をおこなう

周辺機器を移行したら、うまく動作するか確認してください。うまく動作しないときは、ドライバや添付ソフトなどを確認して、周辺機器のメーカにお問い合わせください。

第7章

このパソコンのおすすめ機能

ここでは、このパソコン特有の機能について説明しています。パソコンの設定が終わったら、この章の説明を読んで、このパソコンを使いこなしてください。

外出先から接続する

外出先から安全にこのパソコンに接続するための設定を紹介します。

セーフコネクトとは

ほかのパソコンやPCリモーターから、このパソコンに接続し、このパソコンのデータやソフトを利用するためのソフトです。インターネットを介して、このパソコン（以降、ホームサーバPC）と外出先のパソコンなどの機器（以降、クライアント機器）を仮想的な専用線で接続するVPN(Virtual Private Network)ソフトの一種です。外出先からでも、あたかもホームネットワークで接続したかのように、ホームサーバPCにアクセスできます。
ほかのインターネットVPNソフトとは異なり、電子メールを使用して接続/切断、アドレス解決をおこなうのが特徴です。そのため、電子メールのアカウントが必要になります。

- セーフコネクトに必要な電子メールのアカウントは、セーフコネクト専用でなくても利用可能ですが、専用のアカウントを用意することをおすすめします。
- 使用可能なメールは、SMTPとPOP3で通信する種類のものです。Gmail（SMTP over SSL/POP over SSL）やLive Mail(webメール)、広告を含むメールや件名（Subject）を書き換えるメールは使用できません。
- セーフコネクトでは、DTCP-IP配信はできません。
- セーフコネクトを使用する場合は、ホームサーバPCをルータに接続する必要があります。
- セーフコネクトで接続中のクライアントPCから「LuiStation」を起動することはできません。

セーフコネクトを利用するために

クライアントPCについて

ホームサーバPCには、「セーフコネクト／サーバ」がインストールされています。セーフコネクトで接続するためには、クライアントPC側に「セーフコネクト／クライアント」がインストールされている必要があります。「セーフコネクト／クライアント」は、ホームサーバPCのハードディスクに格納されています。
「セーフコネクト／クライアント」は、2007年1月以降発表の、次のLaVieシリーズでご利用いただけます。

対応モデル

- LaVie Lアドバンストタイプ
- LaVie C

・LaVie GタイプL アドバンスト
・LaVie GタイプC

必要条件
・CPU:Core2 Duo以上
・OS:Windows Vista Home Premium/Ultimate
・視聴用ソフト「Digital Video Network Player※1」がインストール済みで、最新のアップデートモジュールが適用されていること
※1「Windows Media Center」の「ホームネットワーク」に「デジタル録画番組」という項目が表示されます。
・配信用ソフト「DiXiM Media Server for NEC(DTCP-IP対応版)※2」がインストールされている場合、最新のアップデートモジュールが適用されていること
※2「スタート」-「すべてのプログラム」-「DigiOn」-「DIXIM Media Server Tool」をクリックして表示される「Media Server Tool」に、「デジタル録画番組の配信」タブが表示される。

最新のアップデート情報については、サポート情報をご覧ください。
(http://121ware.com/support)

ネットワークの条件

インターネット(ブロードバンド)接続環境は整っていますか?

パソコンを接続するルータで、グローバルIPアドレスを取得できる環境が必要です。

ホームネットワークは構築しましたか?

ホームサーバPCにクライアントを登録するときは、ホームサーバー PCをルータに接続し、ホームサーバPCとクライアントPCを同じネットワークに接続する必要があります。

・インターネット接続について詳しくは、「第5章　インターネットに接続する」をご覧ください。
・ホームネットワークについて詳しくは、「第6章　前に使っていたパソコンと一緒に使いたいかたへ」をご覧ください。
・2008年5月に発売されるLaVie Jには、ご購入時の状態で「セーフコネクト/クライアント」がハードディスクに入っています。そのほか、セーフコネクトの設定については、LaVie Jに添付されている『準備と設定』をご覧ください。
・2008年2月に発売されたLaVie Jには、ご購入時の状態で「セーフコネクト/クライアント」がハードディスクに入っています。この「セーフコネクト/クライアント」を利用するには、アップデートモジュールを適用する必要があります。アップデートモジュールは、http://121ware.com/をご覧ください。そのほか、セーフコネクトの設定については、LaVie Jに添付されている『準備と設定』をご覧ください。

クライアントPCに「セーフコネクト／クライアント」をインストールする

1 **ホームサーバPCのCドライブにある次のフォルダをクライアントPCにコピーする**

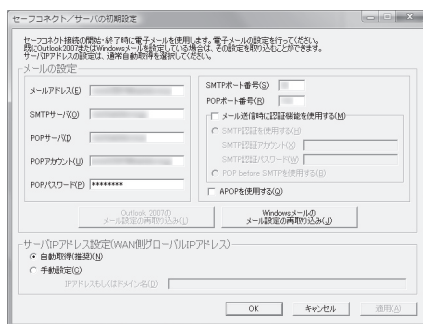
C: ¥APSETUP ¥SCClient

2 **クライアントPCで、SCClientフォルダ内のsetup.exeをダブルクリックする**

セットアップウィザードが起動します。画面の指示にしたがい操作してください。

「セーフコネクト／クライアント」のアンインストールは、コントロールパネルの「プログラムのアンインストール」でおこなってください。

セーフコネクトの設定をおこなう

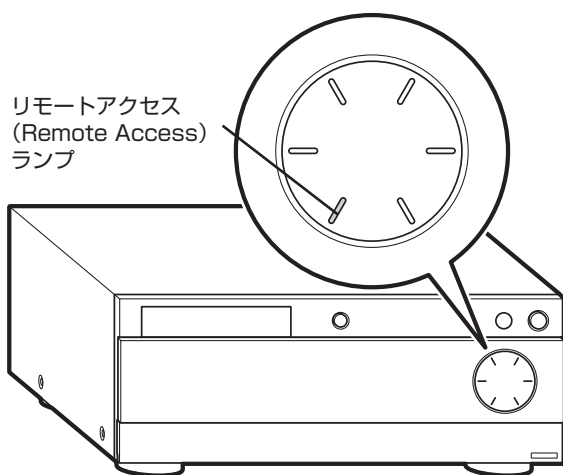
ホームサーバPCとクライアントPCで、それぞれ初期設定をおこないます。設定方法について詳しくは、「セーフコネクト／サーバオンラインヘルプ」をご覧ください。「セーフコネクト／サーバ」は、「ソフトナビゲーター」-「ホームネットワーク」-「宅外からこのPCに接続する機器を登録・管理する」-「セーフコネクト／サーバ」の「ソフトを起動する」をクリックして起動してください。その後、画面右下のを右クリックし、表示されたメニューから「設定」をクリックしてください。「セーフコネクト／サーバ設定ユーティリティ」と「セーフコネクト／サーバオンラインヘルプ」が表示されます。

「セーフコネクト／サーバオンラインヘルプ」は、「セーフコネクト／サーバ設定ユーティリティ」を起動すると同時に表示されます（初期設定されていない場合のみ）。

・接続しているルータがDHCPサーバではない場合は『録画・映像・音楽を楽しむ本』の「付録」-「その他の設定」-「ネットワーク設定」でネットワークの設定を環境に合わせてください。

・設定が正常に完了できない場合は、「セーフコネクト／サーバオンラインヘルプ」をご覧ください。

セーフコネクトに関する注意

セーフコネクトを利用する場合、次の点に注意してください。

・PCリモーターと接続して、リモートスクリーンを利用している間は、ホームサーバPCを使用することはできません。PCリモーターと接続している間は、本体前面のリモートアクセス（Remote Access）ランプがオレンジ色に点灯しています。

・セーフコネクトで接続している間は、クライアントPCからインターネットにアクセスすることができなくなります。

・ホームサーバPCの状態によっては、ホームサーバPCの準備が完了する前にセーフコネクト接続が失敗してしまうことがあります。この場合は、再度セーフコネクト接続を実行してください。

・ホームネットワークに接続されたクライアントPC、またはPCリモーターからセーフコネクト接続をおこなった場合、セーフコネクト接続中でもリモートアクセス（Remote Access）ランプは点灯しません。
・リモートアクセス（Remote Access）ランプが点灯している状態で、「LuiStation」のアップデート、およびホームサーバPCの初期化はおこなえません。
・一般的に自宅で使っているプロバイダとは別のプロバイダからメールを送信するためには、宅内でのものとは異なるメール設定が必要になります（SMTP認証など）。
セーフコネクトでは、この宅外用のメール設定をある程度自動でおこなっていますが、セキュリティソフトをお使いの場合、この自動設定によるメール送信がおこなわれない場合があります。その場合は、「セーフコネクト／クライアント」のメール設定を、自宅で使っているプロバイダ以外からメールを送信できるような設定に変更してください。設定する内容は、お使いのプロバイダでご確認ください。

クライアントPCに「LuiStation/PLAYER」をインストールする方法については、『録画・映像・音楽を楽しむ本』をご覧ください。

PCリモーターで遠隔操作

自宅のこのパソコンを、外出先からPCリモーターをリモート接続して遠隔操作することができます。

- **このパソコンとPCリモーターとの間に安全な通信を確立し、データの送受信ができます。**
- **「リモートスクリーン」機能を使用することで、PCリモーターから、このパソコンのソフトや機能を利用できます。**

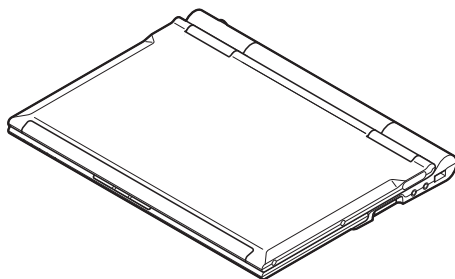
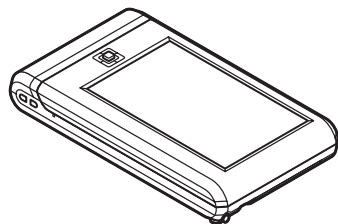
このパソコンとPCリモーターとのリモート接続は、ほかのインターネットVPN（Virtual Private Network）とは異なり、電子メールを使用して接続/切断、アドレス解決をおこなうのが特徴です。そのため、電子メールのアカウントが必要になります。

- **リモート接続に必要な電子メールのアカウントは、専用でなくても利用可能です。**
- **使用可能なメールは、SMTPとPOP3で通信する種類のものです。Gmail（SMTP over SSL/POP over SSL）やLive Mail（webメール）、広告を含むメールは使用できません。**
- **リモート接続中にすべてのソフトが動作するわけではありません。**
- **リモート接続では、DTCP-IP配信はできません。**
- **リモート接続を使用する場合は、このパソコンを、DHCP機能とUPnP機能に対応したルータに接続する必要があります。**
- **録画番組は再生できません。**

リモート接続を利用するために

PCリモーターについて

PCリモーターには、ノートPC型のLui RNとポケット型のLui RPがあります。Lui RNはノートPCと同じ形状をしているため、パソコンを使い慣れている方には使いやすいのが特長です。Lui RPは、よりコンパクトなため持ち運びに便利です。

ご利用の目的に合わせて、別途ご購入ください。

Lui RN　　　　Lui RP

ネットワークの条件

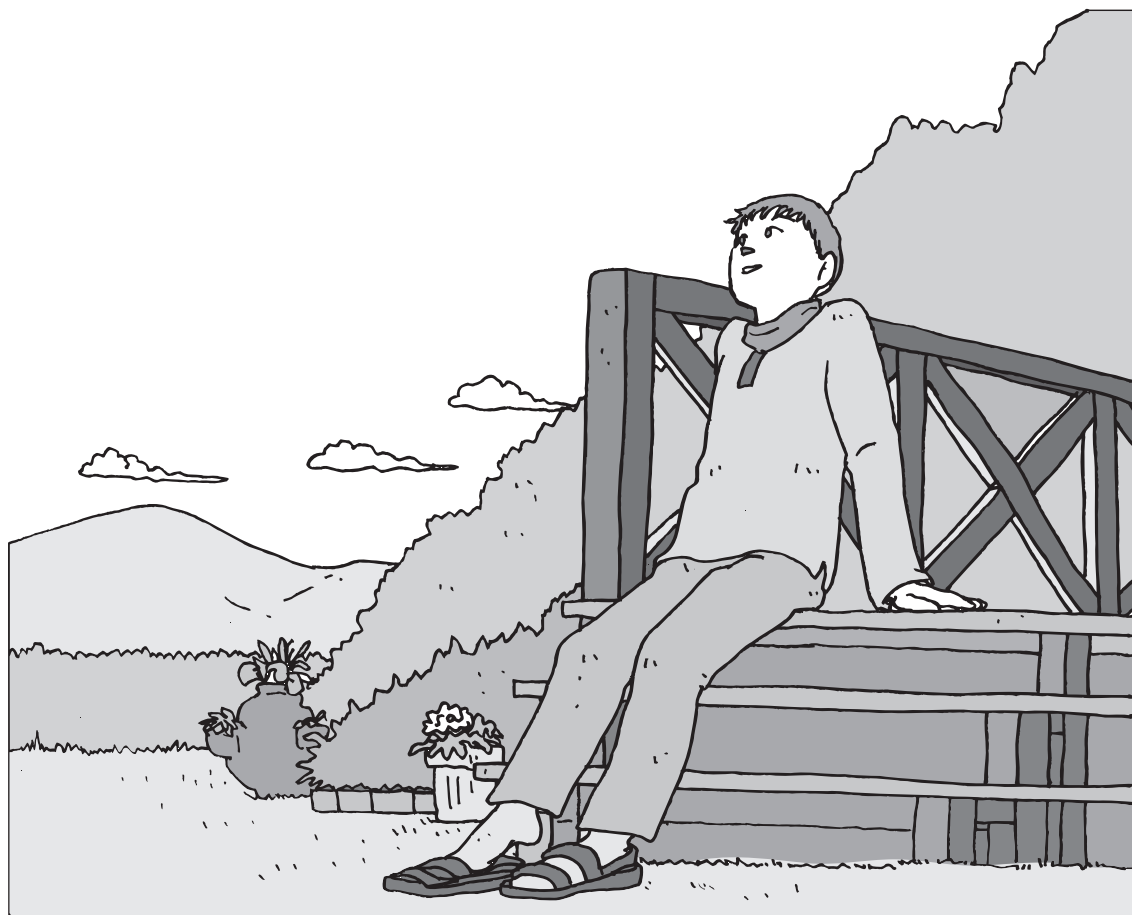
インターネット（ブロードバンド）接続環境は整っていますか？

パソコンを接続するルータでグローバルIPアドレスを取得できる環境が必要です。

ホームネットワークは構築しましたか？

リモート接続の設定をおこなうときは、このパソコンをルータに接続し、PCリモーターを同じネットワークに接続する必要があります。

- **インターネット接続について詳しくは、「第5章　インターネットに接続する」をご覧ください。**
- **ホームネットワークについて詳しくは、「第6章　前に使っていたパソコンと一緒に使いたいかたへ」をご覧ください。**
- **このパソコンとPCリモーターとの設定方法について詳しくは、PCリモーターに添付されている『ユーザーズマニュアル』をご覧ください。**

付　録

CPRM のアップデート

ここでは、「WinDVD for NEC」などでCPRMコンテンツを再生するためのアップデート手順を説明します。

CPRM Packを無償ダウンロードする

- CPRMのアップデートには、インターネットに接続できる環境が必要です。
- 手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。

1 「ソフトナビゲーター」-「DVD・CD」-「DVDを見る」-「WinDVD」の「ソフトを起動する」をクリックする

「WinDVD for NEC」が起動します。

ブルーレイディスクドライブモデルの場合は、「ソフトナビゲーター」-「DVD・CD」-「DVDやブルーレイディスクを見る」-「WinDVD BD」の「ソフトを起動する」をクリックし、「WinDVD BD for NEC」を起動してください。

2 メイン画面で右クリックし、表示されたメニューから「CPRM Packをダウンロード」をクリックする

自動的にInternet Explorerが起動し、登録画面が表示されます。

InterVideoに登録されている電子メールアドレスとパスワードを入力して「サインイン」をクリックします。

- InterVideoに登録されていない場合は、「登録」をクリックし登録をおこなってください。
- DVD/CDドライブにCPRMコンテンツの含まれるディスクをセットして表示された画面で「OK」をクリックしても、登録画面が表示されます。

3 「DownloadNow」をクリックして、CPRM Packをダウンロードする

4「WinDVD for NEC」または「WinDVD BD for NEC」を終了する

5 ダウンロードしたCPRM.exeを起動する

インストールが開始されます。画面の指示にしたがい操作してください。

6「Pack is successfully installed」と表示されたら、「OK」をクリックする

7「WinDVD for NEC」または「WinDVD BD for NEC」を起動し、CPRMコンテンツを含むディスクを挿入する

8「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作する

「WinDVD for NEC」または「WinDVD BD for NEC」が再起動され、再生が始まります。

パソコンのお手入れ

パソコンが汚れたときなど、日常のお手入れのしかたを説明します。

水やぬるま湯は、絶対にパソコン本体やキーボードに直接かけないでください。故障の原因になります。

準備するもの

軽い汚れのとき

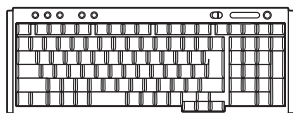
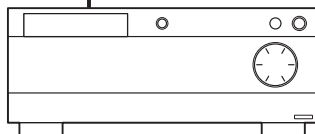
乾いたきれいな布

汚れがひどいとき

水かぬるま湯を含ませて、よくしぼった布

シンナーやベンジンなど、揮発性の有機溶剤は使わないでください。これらの有機溶剤を含む化学ぞうきんも使わないでください。キーボードなどを傷め、故障の原因になります。

パソコンの電源を切って、電源コードを抜いてから

お手入れの前には、必ずパソコン本体や周辺機器の電源を切ってください。通常、パソコンを使っていないときも、パソコンはスリープ状態になっています。一度、Windowsを起動してから、「Windowsをシャットダウンする」(70ページ)および「主電源を切る」(73ページ)の手順で主電源まで切ってください。電源コードはコンセントから抜いてください。電源を切らずにお手入れを始めると、感電することがあります。

キーボードとマウスを登録しなおす

キーボード、マウスが動かなくなったときの登録のしかたを説明します。

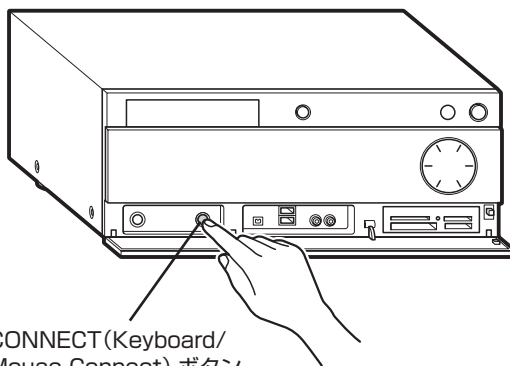
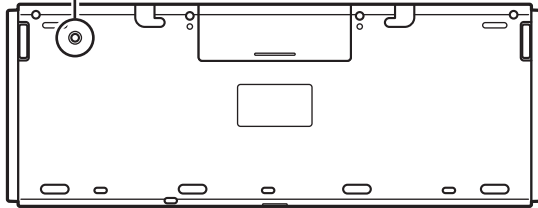
このパソコンのキーボードとマウスは無線でパソコンに信号を送ります。ご購入時には、キーボードとマウスからパソコン本体に信号を送るための登録がされていますが、何らかの原因でキーボードやマウスからの操作ができなくなることがあります。
その場合は、次の手順でキーボードとマウスを登録しなおしてください。
また、パソコンを修理･交換した場合も、登録しなおす必要があります。

キーボードとマウスを連続して登録するときは、一方を登録した後、約30秒間隔をあけて次の登録をおこなってください。

キーボードを登録しなおす

1 本機の電源が入っていることを確認する

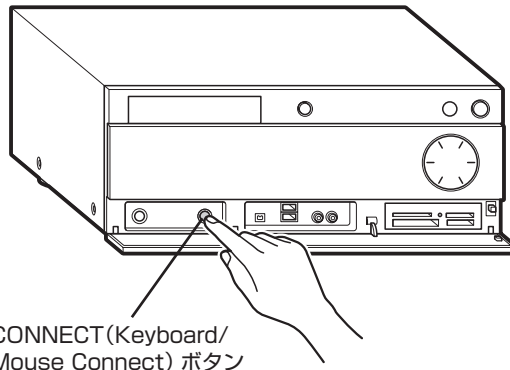
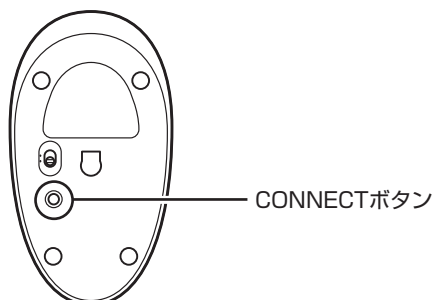
2 キーボード右上にあるキーボード電源スイッチを「ON」にする

3 パソコン本体前面にある「CONNECT(Keyboard/Mouse Connect)」ボタンを約1秒間押す

4 パソコン本体の「CONNECT(Keyboard/Mouse Connect)」ボタンを押してから20秒以内に、キーボード裏面にある「CONNECT」ボタンを約1秒間押す

CONNECTボタンは、2回以上押さないでください。2回以上押すと、キーボードが動かなくなることがあります。CONNECTボタンを2回以上押してキーボードが動かなくなったときは、手順1からやりなおしてください。

マウスを登録しなおす

1 本機の電源が入っていることを確認する

2 マウス底面にあるON/OFFスイッチを「ON」にする

3 パソコン本体前面にある「CONNECT(Keyboard/Mouse Connect)」ボタンを約1秒間押す

4 パソコン本体の「CONNECT(Keyboard/Mouse Connect)」ボタンを押してから20秒以内に、マウス底面にある「CONNECT」ボタンを約1秒間押す

CONNECTボタンは、2回以上押さないでください。2回以上押すと、マウスが動かなくなることがあります。CONNECTボタンを2回以上押してマウスが動かなくなったときは、手順1からやりなおしてください。

このパソコンを複数隣接して使用した場合など、ひとつのキーボード、マウスで2台反応したときは、パソコンを置く位置を変更するか、または、以下の操作をおこなってください。

1 どちらか1台のパソコンの電源を切り、電源コードを抜く

2 もう1台で、キーボードとマウスを登録しなおす

アフターケアについて

このパソコンに対する保守サービスや、消耗品・有寿命部品の内容について説明します。

保守サービスについて

保守サービスについては、NEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。

NEC 121コンタクトセンターなどにこのパソコンの修理を依頼する場合は、設定したパスワードを解除しておいてください。

消耗品と有寿命部品について

このパソコンには、消耗品と有寿命部品が含まれています。安定してご使用いただくためには、定期的な保守による部品交換が必要になります。特に長期間連続して使用する場合には、安全などの観点から早期の部品交換が必要です。

種類	内容説明	該当品または部品（代表例）
消耗品	使用頻度や使用量により消耗の進行が異なります。お客様ご自身でご購入いただき、交換していただくものです。本体の保証期間内であっても有償になります。	フロッピーディスク、CD-ROMディスク、DVD-ROMディスク、SDメモリーカード、メモリースティック、乾電池など
有寿命部品	使用頻度や経過時間、使用環境によって摩耗、劣化の進行に大きな差が生じ、修理による再生ができなくなる部品です。本体の保証期間内であっても部品代は有償になる場合があります。詳しくは、NEC 121コンタクトセンターの修理受付窓口にご相談ください。	ディスプレイ、ハードディスクドライブ、DVD/CDドライブ、キーボード、マウス、ファン

- **記載部品は代表例です。機種により構成部品が異なります。詳しくは、「仕様一覧」をご覧ください。**
- **有寿命部品の交換時期の目安は、1日8時間のご使用で1年365日として約5年です。上記期間はあくまでも目安であり、上記期間中に故障しないことや無償修理をお約束するものではありません。**
  また、長時間連続使用等のご使用状態や、温湿度条件等のご使用環境によっては早期に部品交換が必要となり、製品の保証期間内であっても有償となることがあります。
- **本製品の補修用性能部品の最低保有期間は、PC本体、オプション製品については製造打切後6年です。**

パソコンの譲渡、廃棄、改造について

パソコンを他人に譲るとき、廃棄するときの注意事項を説明します。また、パソコンの改造はおこなわないでください。

このパソコンを譲渡するには

パソコン内のハードディスクには個人的に作成した情報が多く含まれています。第三者に情報が漏れないように、譲渡の際にはこれらの情報を削除することをおすすめします。このパソコンのハードディスクのデータを消去する方法については、『パソコンのトラブルを解決する本』の「再セットアップディスクを使って再セットアップする」-「ハードディスクのデータ消去」をご覧ください。

譲渡するお客様へ

このパソコンを第三者に譲渡（売却）する場合は、次の条件を満たす必要があります。

1. 本体に添付されているすべてのものを譲渡し、複製物を一切保持しないこと。
2. 各ソフトウェアに添付されている「ソフトウェアのご使用条件」の譲渡、移転に関する条件を満たすこと。
3. 譲渡、移転が認められていないソフトウェアについては、削除した後譲渡すること（本体に添付されている「ソフトウェア使用条件適用一覧」をご覧ください）。

※ 第三者に譲渡（売却）する製品をお客様登録している場合は、121ware.comのマイページ（http://121ware.com/my/）の保有商品情報で削除いただくか、またはEメールアドレス webmaster@121ware.com宛にご連絡ください。

譲渡を受けたお客様へ

NECパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」での登録をお願いします。

http://121ware.com/my/　にアクセス

- ●はじめて登録するかた

  「新規取得」をクリックして登録
- ●以前ハガキ、オンライン、FAXなどで登録されたかた

  「インターネット以外の方法でご登録済みの方はこちら」をクリックして登録
- ●すでにログインIDをお持ちのかた

  「ログイン」をクリックして、ログイン後、保有商品情報の「新規・追加登録」で登録

インターネットに接続できないかたは、お客様登録に必要な次の事項を記入し、郵送してください。

1. 本体型番、型名のいずれかと保証書番号
（本体背面／側面または保証書に記載の型番／型名のいずれかと製造番号）
2. 氏名、住所、電話番号、Eメールアドレス、中古購入された場合はそのご購入先、ご購入日
3. 121wareお客様登録番号
（以前登録されてすでに「121wareお客様登録番号」をお持ちのかたは、記入をお願いします。）

宛先

〒143-8691　東京都大森郵便局 私書箱5号
NEC121ware登録センター係

このパソコンを廃棄するには

本製品は「資源有効利用促進法」に基づく回収再資源化対応製品です。PCリサイクルマークが銘板（パソコン本体の背面にある型番、製造番号が記載されたラベル）に表示されている、またはPCリサイクルマークのシールが貼り付けられている弊社製品は、弊社が責任を持って回収、再資源化いたします。希少資源の再利用のため、不要になったパソコンのリサイクルにご協力ください。

当該製品をご家庭から排出する際、弊社規約に基づく回収・再資源化にご協力いただける場合は、別途回収再資源化料金をご負担いただく必要はありません。

廃棄時の詳細については、NECパーソナル商品総合情報サイト
「121ware.com」(URL:http://121ware.com/support/recyclesel/)
をご覧ください。

なお、下記の窓口でも廃棄についてお問い合わせいただけます。

NEC 121コンタクトセンター
回収リサイクルのお問い合わせ　受付時間:9:00 ～ 17:00（年中無休）

フリーコール 0120-977-121

※電話番号をよくお確かめになり、おかけください。

携帯電話やPHS、もしくはIP電話など、フリーコールをご利用いただけないお客様は下記電話番号へおかけください。

03-6670-6000（東京）（通話料金はお客様負担になります）

※電話番号をよくお確かめになり、おかけください。

当該製品が事業者から排出される場合（産業廃棄物として廃棄される場合）、当社は資源有効利用促進法に基づき、当社の回収・リサイクルシステムにしたがって積極的に資源の有効利用につとめています。廃棄時の詳細については、下記のホームページで紹介している窓口にお問い合わせください。

URL：http://www.nec.co.jp/eco/ja/products/3r/shigen_menu.html

※本文に記載された電話番号や受付時間などは、将来予告なしに変更することがあります。

ハードディスク、メモリーカード上のデータ消去に関するご注意

本内容は「パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意」の趣旨に添った内容で記載しています。詳細は以下のホームページをご覧ください。
http://it.jeita.or.jp/perinfo/release/020411.html

パソコンのハードディスクやメモリーカードには、お客様が作成、使用した重要なデータが記録されています。このパソコンを譲渡または廃棄するときに、これらの重要なデータ内容を消去することが必要になります。「データやファイルの消去」、「ハードディスクの初期化（フォーマット）」、「メモリーカードの初期化（フォーマット）」、「パソコンの再セットアップ」などの操作をおこなうと、記録されたデータの管理情報が変更されるためにWindowsでデータを探すことはできなくなりますが、ハードディスクやメモリーカードに磁気的に記録された内容が完全に消えるわけではありません。
このため、データ回復用の特殊なソフトウェアを利用すると、ハードディスクやメモリーカードから消去されたはずのデータを読み取ることが可能な場合があり、悪意のある人によって予期しない用途に利用されるおそれがあります。

お客様が廃棄・譲渡などをおこなう際、ハードディスクおよびメモリーカード上の重要なデータの流出トラブルを回避するために、記録された全データをお客様の責任において完全に消去することが非常に重要です。データを消去するためには、専用ソフトウェアまたはサービス（ともに有償）を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊（メモリーカードの場合は、金槌による物理的破壊のみ）して、読めなくすることを推奨します。有償のデータ消去サービスは、NECフィールディング株式会社にご依頼ください。

NECフィールディングホームページURL：http://www.fielding.co.jp/

このパソコンでは、再セットアップディスクを作成して、ハードディスクのデータ消去ができます。詳しくは『パソコンのトラブルを解決する本』の「再セットアップディスクを使って再セットアップする」-「ハードディスクのデータ消去」をご覧ください。

また、ハードディスクやメモリーカード上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなく譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があります。十分な確認をおこなってください。

デジタル放送で使用する個人情報の消去に関するご注意

お客様が廃棄・譲渡などをおこなう際、デジタル放送で使用した個人情報を消去することが必要になります。個人情報の消去にはLuiStation設定ツールを使用します。詳しくは、『録画・映像・音楽を楽しむ本』付録の「個人情報を消去する」をご覧ください。

パソコンの改造はおこなわない

添付されているマニュアルに記載されている以外の方法で、このパソコンを改造・修理しないでください。記載されている以外の方法で改造・修理された製品は、当社の保証や保守サービスの対象外になることがあります。

仕様一覧

本体仕様一覧

SX700/1G、SX500/1G

<table>
<tr><td colspan="4">型名</td><td>SX700/1G</td><td>SX500/1G</td></tr>
<tr><td colspan="4">型番</td><td>LU-SX7001G</td><td>LU-SX5001G</td></tr>
<tr><td rowspan="9">PC部システム</td><td colspan="3">インストールOS・サポートOS</td><td colspan="2">Windows Vista® Home Premium Service Pack 1 正規版（日本語版）※1</td></tr>
<tr><td colspan="3">CPU</td><td colspan="2">インテル® Core™2 Duo プロセッサー T7200（2.0GHz）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">キャッシュメモリ</td><td colspan="2">1次</td><td colspan="2">インストラクション用32KB×2/データ用32KB×2</td></tr>
<tr><td colspan="2">2次</td><td colspan="2">4,096KB</td></tr>
<tr><td rowspan="2">バスクロック</td><td colspan="2">システムバス</td><td colspan="2">667MHz</td></tr>
<tr><td colspan="2">メモリバス</td><td colspan="2">667MHz</td></tr>
<tr><td colspan="3">チップセット</td><td colspan="2">Intel社製 945GM / ICH7-M</td></tr>
<tr><td rowspan="2">メインメモリ
※7</td><td colspan="2">標準容量／最大容量</td><td colspan="2">2GB(DDR2 SDRAM 1GB×2、PC2-5300対応、デュアルチャネル対応)/2GB</td></tr>
<tr><td colspan="2">スロット数</td><td colspan="2">SO-DIMMスロット×2 [空き0]</td></tr>
<tr><td rowspan="5">表示機能</td><td rowspan="3">表示色
（解像度）</td><td rowspan="3">本機のサポートする表示モード</td><td>デジタルディスプレイ</td><td colspan="2">－※2</td></tr>
<tr><td>アナログディスプレイ</td><td colspan="2">－※3</td></tr>
<tr><td>HDMI接続
※26※29</td><td colspan="2">最大約1,677万色
（1,920×1,080ドット、1,766×1,000ドット、1,360×768ドット、1,280×1,024ドット、1,280×768ドット、1,280×720ドット、1,152×648ドット、1,024×768ドット、800×600ドット）
対応映像方式：1125p(1080p)、1125i(1080i)、750p(720p)</td></tr>
<tr><td colspan="3">グラフィックアクセラレータ</td><td colspan="2">ATI Mobility Radeon HD 2600</td></tr>
<tr><td colspan="3">グラフィックスメモリ</td><td colspan="2">256MB</td></tr>
<tr><td rowspan="5">ドライブ</td><td rowspan="3">ハードディスクドライブ※8※16</td><td colspan="2"></td><td colspan="2">約320GB
（Serial ATA、高速7,200回転/分）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Windows®システムから認識される容量
※17</td><td>Cドライブ／空き容量</td><td colspan="2">約69GB ／約48GB</td></tr>
<tr><td>Dドライブ／空き容量</td><td colspan="2">約212GB ／約212GB</td></tr>
<tr><td colspan="3">録画専用ハードディスクドライブ※8※16</td><td>1TB(500GB×2)
（Serial ATA、高速7,200回転/分）</td><td>500GB
（Serial ATA、高速7,200回転/分）</td></tr>
<tr><td colspan="3">BD/DVD/CDドライブ
（詳細は別表をご覧ください）※9</td><td>ブルーレイディスクドライブ
（DVDスーパーマルチドライブ機能付き）※28</td><td>DVDスーパーマルチドライブ
[DVD-R/+R 2層書き込み]</td></tr>
<tr><td rowspan="3">サウンド機能
※5</td><td colspan="3">スピーカ</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="3">音源／サラウンド機能</td><td colspan="2">インテル® High Definition Audio 準拠(最大192kHz/24ビット※27　ステレオPCM同時録音再生機能、MIDI再生機能[OS標準])、3Dオーディオ（Direct Sound 3D対応）、マイク機能(ノイズ抑制、音響エコーキャンセル、ビームフォーミング)</td></tr>
<tr><td colspan="3">サウンドチップ</td><td colspan="2">Analog Devices社製 AD1988B搭載</td></tr>
<tr><td>通信機能</td><td colspan="3">LAN</td><td colspan="2">1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T対応</td></tr>
<tr><td colspan="4">リモートスクリーン機能</td><td colspan="2">PCリモーターサーバボード（ホームサーバPC専用）</td></tr>
<tr><td colspan="4">TV機能（詳細は別表をご覧ください）</td><td colspan="2">地上デジタル/BS/110度CSデジタル放送対応×1、地上デジタル放送対応×1</td></tr>
<tr><td rowspan="3">入力装置</td><td colspan="3">キーボード</td><td colspan="2">ワイヤレスキーボード※20※21※22
（109キーレイアウト準拠、ワンタッチスタートボタン付き）</td></tr>
<tr><td colspan="3">マウス</td><td colspan="2">光センサーワイヤレスマウス※20※22※23
（スクロール機能付き）</td></tr>
<tr><td colspan="3">リモコン</td><td colspan="2">赤外線リモコン※22</td></tr>
</table>

型名			SX700/1G	SX500/1G
外部インターフェイス	USB		4ピン×4 [USB 2.0] ※24	
	IEEE1394 (DV)		4ピン×1	
	ディスプレイ		HDMI出力端子×1※26	
	LAN		RJ45×2※19	
	サウンド関連	光デジタルオーディオ (S/PDIF) 出力	角型×1※4	
		ライン入力	ステレオミニジャック×1 (入力インピーダンス　64KΩ、入力レベル　1Vrms)	
		ライン出力	ピンジャック (L/R ×1 (出力レベル　2Vrms)	
		マイク入力	モノラルミニジャック×1 (マイク入力インピーダンス　64KΩ、入力レベル100mVrms(マイクブースト有効時は5mVrms)、バイアス電圧　2.5V)	
		ヘッドフォン出力	ステレオミニジャック×1 (ヘッドフォンインピーダンス　16 ～ 100Ω「推奨32Ω」、出力電力5mW/32Ω)	
	カードスロット	メモリーカード	7メディア対応カードスロット (SD/SDHCメモリーカード※10、メモリースティック※11、xD-ピクチャーカード※12、スマートメディア※13、コンパクトフラッシュ、マルチメディアカード※14、マイクロドライブ※15)	
外形寸法	本体 (突起部除く)		430 (W) ×360 (D) ×180 (H)mm※6	
	キーボード		396 (W) ×150 (D) ×32 (H)mm	
	リモコン		51 (W) ×255 (D) ×22 (H)mm	
質量	本体		約15kg	約14kg
	キーボード／マウス／リモコン		約850g※18 ／約72g※18 ／約107g※18	
電源			AC100V±10%､50/60Hz	
消費電力	標準／最大／スリープ状態時		約110W ／約170W ／約59W	約100W ／約160W ／約49W
エネルギー消費効率 (2007年度省エネ基準達成率) ※25			j区分 0.0026 (A)	j区分 0.0023 (AA)
電波障害対策			VCCI ClassB	
温湿度条件			10 ～ 35℃､20 ～ 80%(ただし結露しないこと)	
主な添付品			マニュアル､B-CASカード、電源コード、リモコン、乾電池 (単三アルカリ:4本、単四マンガン:2本)、HDMIケーブル､HDMI-DVI変換ケーブル (メス)	

上記の内容は本体のハードウェアの仕様であり、オペレーティングシステム、アプリケーションによっては、上記のハードウェアの機能をサポートしていない場合があります。

※　1: 32ビット版です。添付のソフトウェアは、インストールされているOSでのみご利用できます。別売のOSをインストールおよびご利用することはできません。ネットワークでドメインに参加する機能はありません。

※　2: HDMI-DVI変換ケーブルを使用したすべての外部ディスプレイやTVでの動作確認はしておりません。
外部ディスプレイやTVによっては正しく表示されない場合があります。

※　3: RGB接続はできません。

※　4: 出力されるすべての音声は他装置で録音できません。

※　5: HDMI接続時にオーディオ出力をHDMIに設定した場合は、グラフィックアクセラレータ内蔵のサウンド機能を使用します。

※　6: 本機を縦置きにしてのご使用はサポートしておりません。

※　7: 本体には最大容量のメモリが実装されています。お客様による交換はできません。

※　8: お客様によるハードディスクの増設および交換はできません。

※　9: 使用するディスクによっては、一部の書込み／読出し速度に対応していない場合があります。

※ 10: SD/SDHCメモリーカードの、著作権保護機能には対応しておりません。「miniSD/microSDカード」をご使用の場合には、必ずminiSD/microSDカードアダプタをご利用ください。詳しくは「miniSD/microSDカード」の取扱説明書をご参照ください。

※ 11: メモリースティックの「マジックゲート」(著作権保護) 機能には対応しておりません。「メモリースティック Duo」をご使用の場合は、必ずメモリースティック Duoアダプタをご利用ください。詳しくは「メモリースティック Duo」の取扱説明書をご参照ください。

※ 12: xD-ピクチャーカードの著作権保護機能には対応しておりません。

※ 13: 3.3Vタイプ (または3Vと表示されているタイプ) のみ使用できます｡5Vタイプのカードはご使用できません。

※ 14: Keitaide-Music機能 (UDAC-MBプロトコル) には対応していませんので、著作権保護機能のある音楽データは取り扱いできません。

※ 15: ほかのメディアと同時に使用することはできません。

※ 16: 1GBを10億バイトで計算した場合の数値です。

※ 17: 右記以外の容量は再セットアップ用領域として占有されます。

※ 18: 乾電池の質量は含まれておりません。

※ 19: 拡張用LANコネクタです。

※ 20: 金属製の机の上などで使用した場合に、動作に影響することがあります。木製の机などの上でのご利用をおすすめします。

※ 21: キーボードの電池寿命は、アルカリ電池で連続使用した場合、最大約1,000時間です (ただし、ご使用の環境条件や方法により異なります)。

※ 22: リモコンの使用可能な距離は約3mです (ただし、ご使用の環境条件や方法により異なります)。
リモコンに使用する各種電池は消耗品です。

※ 23: マウスの電池寿命は、アルカリ電池で連続使用した場合、最大約150時間です (ただし、ご使用の環境条件や方法により異なります)。

※ 24: USBポートの電源供給能力は、1ポートあたり動作時は最大500mA、スリープ時は数十mA程度です。これ以上の電流を消費するバスパワードのUSB機器は接続しないでください。

※ 25: エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。省エネ基準達成率の表示語Aは達成率100%以上200%未満､AAは達成率200%以上500%未満､AAAは達成率500%以上を示します。

※　26：本機で著作権保護されたコンテンツを再生し、HDMI出力端子に接続した機器に表示する場合、接続する機器はHDCP規格に対応している必要があります。HDCP規格に非対応の機器を接続した場合は、コンテンツの再生または表示ができません。
HDMIのCEC(Consumer Electronics Control)には対応しておりません。HDMIケーブルを介した機器制御方式には対応しておりません。HDMIケーブルは長さ1.5m以下を推奨します。ビットストリーム音声出力には対応しておりません（音声は2chで出力されます）。ご使用の環境によっては、リフレッシュレートを60Hz(プログレッシブ)に変更するか、解像度を低くしないと、描画性能が上がらない場合があります。本機はアンダースキャンに対応しておりません。すべてのHDMI規格に対応した外部ディスプレイやTVでの動作確認はしておりません。HDMI規格に対応した外部ディスプレイやTVによっては正しく表示されない場合があります。
※　27：量子化ビットやサンプリングレートは、OSや使用するアプリケーションなどのソフトウェアによって異なります。
※　28：ブルーレイディスクの再生はソフトウェアを用いて再生しているため、ディスクによっては、操作および機能に制限があったり、CPU負荷などのハードウェア資源の関係で、音がとぎれたり、映像がコマ落ちする場合があります。
※　29：すべてのHDMI-DVI変換コネクタ及び変換ケーブルを使用した外部ディスプレイやTVでの動作確認はしておりません。
外部ディスプレイやTVによっては正しく表示されない場合があります。

BD/DVD/CDドライブ仕様一覧

ドライブ※1	ブルーレイディスクドライブ（DVDスーパーマルチドライブ機能付き）	DVDスーパーマルチドライブ（DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW）内蔵（バッファアンダーランエラー防止機能付き）[DVD-R/+R 2層書込み]
BD-R書込み※2	最大4倍速	−
BD-RE書換え※3	最大2倍速	−
BD読出し※2	最大4倍速	−
DVD-RAM読出し※4	最大5倍速	最大12倍速
DVD-RAM書換え※4	最大5倍速※11	最大12倍速※12
DVD+R(1層）書込み	最大8倍速	最大16倍速
DVD+R(2層）書込み※5	最大4倍速	最大8倍速
DVD+RW書換え	最大8倍速	最大8倍速
DVD-R(1層）書込み※6	最大8倍速	最大16倍速
DVD-R(2層）書込み※7	最大4倍速	最大8倍速
DVD-RW書換え※8	最大6倍速	最大6倍速
DVD読出し	最大16倍速	最大16倍速
CD読出し※9	最大40倍速	最大40倍速
CD-R書込み	最大24倍速	最大40倍速
CD-RW書換え※10	最大10倍速	最大10倍速

※　1：使用するディスクによっては、一部の書込み／読出し速度に対応していない場合があります。
※　2：BD-R Ver.1.2(LTH Type含む)に準拠したディスクに対応しています。
※　3：BD-RE Ver.2.1に準拠したディスクの書込みに対応しています。カートリッジタイプのブルーレイディスクには対応しておりません。
※　4：DVD-RAM Ver.2.0/2.1/2.2（片面4.7GB）に準拠したメディアに対応しています。
また、カートリッジ式のメディアは使用できませんので、カートリッジなし、あるいはメディア取り出し可能なカートリッジ式でメディアを取り出してご利用ください。DVD-RAM Ver.1（片面2.6GB）の読出し/書換えはサポートしておりません。
※　5：DVD+R 2層書込みはDVD+R(2層）ディスクのみに対応しています。
※　6：DVD-Rは、DVD-R for General Ver.2.0/2.1に準拠したメディアの書込みに対応しています。
※　7：追記モードで記録されたDVD-R(2層)ディスクの読出しはサポートしておりません。
DVD-R(2層)書込みは、DVD-R for DL Ver.3.0に準拠したメディアの書込みに対応しています。ただし、追記は未対応です。
作成したDVD-R(2層)ディスクについては、当社製パソコンに搭載されているDVD-R(2層)対応ドライブでのみ読出しが可能です。
※　8：DVD-RWは、DVD-RW Ver.1.1/1.2に準拠したメディアの書換えに対応しています。
※　9：Super Audio CDは、ハイブリッドのCD Layerのみ読出し可能です。
※　10：Ultra Speed CD-RWメディアはご使用になれません。
※　11：DVD-RAM12倍速メディアの書込みはサポートしておりません。
※　12：DVD-RAM12倍速書込みには、DVD-RAM12倍速書込み対応したDVD-RAMメディアが必要です。

TV機能仕様一覧

型名			SX700/1G	SX500/1G
型番			LU-SX7001G	LU-SX5001G
映像関連機能	対応する放送の種類※1		地上デジタル放送、BSデジタル放送、110度CSデジタル放送	
	TV受信機能	地上デジタル放送機能対応※2※3	CATVパススルー、EPG(電子番組表）対応	
		BS・110度CSデジタル放送機能対応※2※3	EPG(電子番組表）対応	
	TV録画機能	地上デジタル放送機能対応	独自形式の録画可能。 地上デジタルハイビジョンテレビ放送（約17Mbps）、 地上デジタル標準テレビ放送（約8Mbps）	
			［1時間あたりの録画に必要なハードディスク容量］※5 地上デジタルハイビジョンテレビ放送：約7.7GB、 地上デジタル標準テレビ放送：約3.6GB	
		BS・110度CSデジタル放送機能対応	独自形式の録画可能。 BS・110度CSデジタルハイビジョンテレビ放送（約24Mbps）、 BS・110度CSデジタル標準テレビ放送（約11Mbps）	
			［1時間あたりの録画に必要なハードディスク容量］※5 BS・110度CSデジタルハイビジョンテレビ放送：約10.8GB、 BS・110度CSデジタル標準テレビ放送：約5.0GB	
映像・サウンド関連インターフェイス	アンテナ入力端子		F型同軸×2	
	B-CASカードスロット		専用×1	
最長録画時間（最大録画容量）※4	地上デジタル放送	地上デジタルハイビジョンテレビ放送	約120時間（約918GB）	約59時間（約454GB）
		地上デジタル標準テレビ放送	約255時間（約918GB）	約126時間（約454GB）
	BS・110度CSデジタル放送	BS・110度CSデジタルハイビジョンテレビ放送	約85時間（約918GB）	約42時間（約454GB）
		BS・110度CSデジタル標準テレビ放送	約185時間（約918GB）	約92時間（約454GB）

※　1：ケーブルテレビ会社経由で地上デジタル放送を受信する場合、再配信されている地上デジタル放送信号が同一周波数パススルー方式および周波数変換パススルー方式の場合は地上デジタル放送を視聴可能です。その他の方式（トランスモジュレーション方式など）では視聴できません。再配信されている地上デジタル放送の方式に関しては、ご利用のケーブルテレビ会社にご確認ください。
※　2：ライブ放送の視聴には対応しておりません。
※　3：字幕放送、データ放送、双方向データ放送には対応しておりません。
※　4：出荷時の録画専用ハードディスク空き容量に録画した場合の目安です。録画するTV番組により必要なハードディスク容量は変動します。
※　5：録画するTV番組により必要なハードディスク容量は変動します。

LAN仕様一覧

項　目	規　格
準拠規格	ISO 8802-3、IEEE802.3、IEEE802.3u、IEEE802.3ab
ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	1000BASE-T使用時：1000Mbps 100BASE-TX使用時：100Mbps 10BASE-T使用時：10Mbps
伝送路	1000BASE-T使用時：UTPカテゴリ5e以上 100BASE-TX使用時：UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時 ：UTPカテゴリ3または5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式
ステーション台数	最大1,024台/ネットワーク
ステーション間距離/ ネットワーク経路長※	1000BASE-T：最大約200m/ステーション間 100BASE-TX：最大約200m/ステーション間 10BASE-T：最大約500m/ステーション間 最大100m/セグメント

※リピータの台数など、条件によって異なります。

リモコン仕様一覧

外形寸法	51 (W)×255 (D)×22 (H)mm
質量	約107g(電池含まず)
通信方式	赤外線通信方式
赤外線到達距離	3m以内
電池	単4形乾電池2本

その他のご注意

[著作権に関するご注意]
・ お客様が複製元のCD-ROMやDVD-ROMなどの音楽コンテンツやビデオコンテンツの複製や改変を行う場合、複製元の媒体などについて、著作権を保有していなかったり、著作権者から複製や改変の許諾を得ていない場合、利用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。
・ 複製の際は、複製元の媒体の利用許諾条件、複製などに関する注意事項にしたがってください。
・ お客様が録音・録画したものは、個人として楽しむなどのほかには、著作権法上、著作権者に無断で使用することはできません。

[電波・受信・施設（アンテナ等）について]
・ TV視聴するにはアンテナの接続が必要です。
・ 地上デジタル放送をご覧いただくには、地上デジタルの送信局に向けてUHFアンテナを設置する必要があります。専用のアンテナやデジタル放送対応のブースター、アッテネーター(減衰器）などが必要になる場合があります。放送エリア内であっても、地形やビルなどにより電波が遮られ、視聴できない場合があります。電波が弱すぎる、または、強すぎる地域では受信状態が悪くなる場合がありますので、市販のブースターやアッテネーターなどで適切な強さに調整することが必要です。デジタル放送をご覧いただくためには、アンテナケーブル（別売）の他に、受信環境によっては分波器（別売）、分配器（別売）、混合器（別売）などが必要となります。
・ 地上デジタル放送の放送エリアについては、社団法人デジタル放送推進協会のホームページ（http://www.dpa.or.jp）でご確認ください。

[TV視聴／録画について]
・ TVをご覧いただくためにはご家庭のアンテナケーブル（別売）と接続する必要があります。
・ TV放送やデータ放送をご覧になる場合、ノイズやゴーストなど電波障害が強いところでは、TV映像がコマ落ちしたり、データ放送が受信できないなどの現象が発生する場合があります。電波の弱い場合は、ブースターが必要になる場合があります。
・ 録画時間は映像の内容およびご利用状況によって前後する場合があります。
・ 他のアプリケーションの動作などによりパソコンの負荷状況によっては、映像がコマ落ちしたり、操作に対する反応が遅くなったりする場合がありますが、故障ではありません。
・ TV視聴する際はパソコンの省電力モードを解除してご使用になることをお奨めします（出荷時設定はLui標準設定)。

[電波に関するご注意]
〈ワイヤレスマウス、ワイヤレスキーボード対応商品〉
・ 病院内や航空機内など電子機器、無線機器の使用が禁止されている区域では使用しないでください。機器の電子回路に影響を与え、誤作動や事故の原因となるおそれがあります。
・ 埋め込み型心臓ペースメーカを装備されている方は、本商品をペースメーカ装置部から30cm以上離して使用してください。

[BD/DVD/CDの読み込み／書き込みについて]
・ ブルーレイディスクでは著作権保護されたコンテンツを録画・編集・再生するために著作権保護技術AACSを採用しています。ブルーレイディスクを継続的にお使いいただくためには、定期的にAACSキーを更新することが必要です。AACSキーは録画・編集・再生ソフトウェアが表示するメッセージに従いインターネットに接続することで更新することができます。更新しない場合には、著作権保護されたコンテンツの録画・編集・再生ができなくなる可能性があります。なお、著作権保護されていないコンテンツの録画・編集・再生には支障はありません。今後、AACSキーの提供に関する必要な情報は、ホームページ http://121ware.com/support/ にてお知らせいたします。
・ ブルーレイディスクの再生には、「InterVideo WinDVD BD® for NEC」を使用してください。
・ 市販のブルーレイディスクコンテンツ（BD-ROM）で、地域（リージョンコード）の設定が［A］のディスクや、本商品にプリインストールされている「LuiStation」および「Ulead® DVD MovieWriter® for NEC Ver.5」で作成したブルーレイディスクを再生することができます。
・ DVDビデオの再生は、ソフトウェアによるMPEG2再生方式です。NTSCのみ対応しております。リージョンコード「2」、「ALL」以外のDVDビデオの再生は行えません。再生するDVDディスクおよびビデオCDの種類によってはコマ落ちする場合があります。DVDレコーダで記録されたDVDで、書き込み形式により再生できないものがあります。そのような場合はDVDレコーダの取扱説明書などをご覧ください。DVDレコーダや他のパソコンで作成されたDVD、ブルーレイディスクは、再生できないことがあります。
・ ブルーレイディスクの再生はソフトウェアを用いて再生しているため、ディスクによっては、操作および機能に制限があったり、CPU負荷などのハードウェア資源の関係で音がとぎれたり、コマ落ちする場合があります。
・ 録画番組配信中は、ブルーレイディスクを再生しないでください。
・ BD-REディスクに記録できる番組数は最大200番組です。
・ 録画したデジタル放送をブルーレイディスクにムーブした場合には、データ放送、文字放送、番組情報は保存されません。
・ コピーコントロールDVD/CDなど一部の音楽CDでは、再生やCD作成ができない場合があります。
・ 別途アップデートを行うことでCPRM(Content Protection for Recordable Media）の著作権保護機能に対応することができます。
・ メディアの種類、フォーマット形式によって読み取り性能が出ない場合があります。また、記録状態が悪かったり、ディスクの記録面が汚れている場合など、読み取りできない場合があります。
・ 12cmDVD/CD、8cm音楽CDのみ再生できます。ハート形、カード形などの特殊形状をしたCDはサポート対象外となります。
・ ブルーレイディスクドライブ搭載モデルでは、AVCHD形式の8cmDVD、ブルーレイディスクも使用できます。
・ 設定した書込み、書換え速度を実現するためには、書込み、書換え速度に応じたメディアが必要になります。
・ ライティングソフトウェアが表示する書込み予想時間と異なる場合があります。
・ 「LuiStation」や「Ulead® DVD MovieWriter® for NEC Ver.5」で作成したDVDやブルーレイディスクは各規格に対応した家庭用のDVDプレーヤ・レコーダ、ブルーレイディスクプレーヤ・レコーダ、DVD-ROMドライブ搭載パソコン、ブルーレイディスクドライブ搭載パソコンで再生できる形式で保存されますが、一部のDVDプレーヤ・レコーダ、ブルーレイディスクプレーヤ・レコーダ、DVD-ROMドライブでは再生できないことがあります。また、メディアやプレーヤの状態により再生できないことがあります。
・ ソフトウェアによっては書込み速度において最大速度を表示しない場合があります。

[周辺機器接続について]

- 接続する周辺機器および利用するソフトウェアが、各種インターフェイスに対応している必要があります。
- 接続する周辺機器によっては対応していない場合があります。
- USB1.1対応の周辺機器も利用できます。USB2.0で動作するにはUSB2.0対応の周辺機器が必要です。
- IEEE1394インターフェイスを装備した商品と他社製デジタルビデオカメラの連携は、機種により対応していない場合があります。
- 他社製増設機器、および増設機器に添付のソフトウェアにつきましては、動作を保証するものではありません。他社製品との接続は、各メーカにご確認の上、お客様の責任において行ってくださるようお願いいたします。
- 光デジタルオーディオ出力端子に接続するオーディオ機器は48kHzのサンプリング周波数に対応している必要があります。また、一般のCDプレーヤ・MDデッキ類と同様に、SCMS(シリアルコピーマネジメントシステム)に準拠した信号を出力します。

索 引

数字

アルファベット

A

B

C

D

F

H

I

L

N

P

V

W

かな

あ

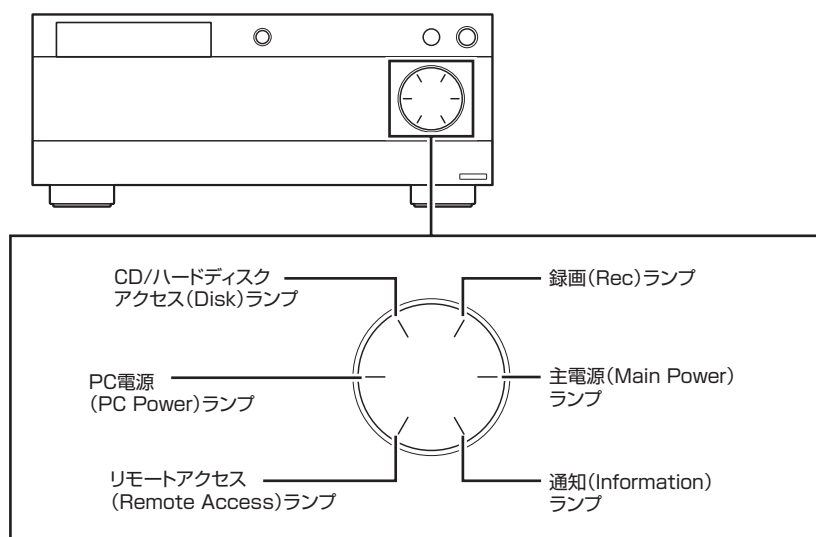
か

各部の名称（1）

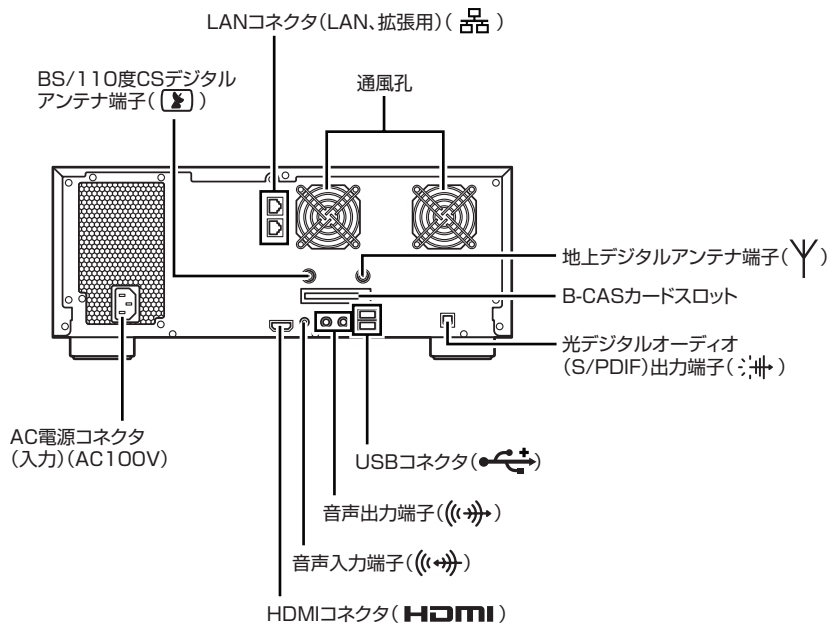
● 本体前面 ●

詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「各部の名称と役割」をご覧ください。

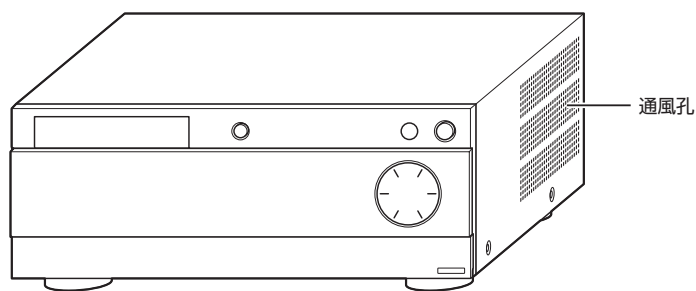
各部の名称（2）

● ランプ点灯部 ●

詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「各部の名称と役割」をご覧ください。

各部の名称（3）

● 本体背面 ●

詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「各部の名称と役割」をご覧ください。

各部の名称（4）

● 本体右側面 ●

詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「各部の名称と役割」をご覧ください。

パソコンの中にもマニュアルがある

● サポートナビゲーターで調べてみよう ●

このパソコンには、使いながら画面で説明を見るための、サポートナビゲーターが入っています。

デスクトップにある サポートナビゲーター(電子マニュアル) をダブルクリックすれば、いつでも利用できます。

必要に応じて、次の３種類の説明を利用してください。

▶ 安心安全に使う	インターネットを安心して使うためのウイルス対策やセキュリティの設定などについて説明しています。
▶ 使いこなす	Windowsの便利な使い方、このパソコンに入っているソフトの使い方、このパソコンの各部の機能や設定についての詳しい情報など、一歩進んだ使い方を説明しています。
▶ 解決する	うまくいかないときや、故障かな？と思ったときに利用してください。サポート窓口への問い合わせ方なども説明しています。

準備と設定

LUI SX

初版 2008年4月
NEC
853-810938-001-A
Printed in Japan

NECパーソナルプロダクツ株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目11-1（ゲートシティ大崎 ウエストタワー）

このマニュアルは、再生紙を使用しています。